



葉が柿葉に似ていることからカキノハグサと呼ばれる

世界の山旅

初夏の山

「一人ではいけない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

スイス・アルプス・ハイキング

スイス・アルプス・ハイキング

カタログを
ご請求下さい

■大阪発着限定の特別企画！アルプスのハイキングツアーから始まったアルパインツアーが自信を持っておすすめする3コースをセレクト！

中国の山旅

世界の山旅

カタログを
ご請求下さい

■大人気の中国ツアー！色とりどりのお花畑と水滝を抱いた山岳風景で人気の四姑娘山山脈をはじめ全9コースを「世界の山旅」カタログに掲載。



創業40周年記念特別企画

《春のスイス・アルプス》残席僅か！

■春のアルプス・ハイキングと絶景のヘリ・フライト、山上のホテル
5/15、5/21、5/28出発 日本/スイス直行便利用
¥426,000～¥452,000 (大阪発着) ※大坂発着時国内線運賃別途
雪解けすぐに咲くクロッカスや、山麓に咲く一面のタンポポなど、5月は花を愛でながら多くのに最適な季節。知られざる静かな春のアルプスの魅力に迫る旅です。

スイス・アルプス3大山群
満喫ハイキング 9日間

出発日：6/16、6/30、7/14、7/28、8/4
旅行代金：¥388,000～¥498,000 (大阪発着)

スイス・アルプス3大山群
満喫ハイキング 12日間

出発日：6/25、7/2、7/8、8/18
旅行代金：¥438,000～¥548,000 (大阪発着)

四姑娘山トレッキングと
大姑娘山登頂 10日間

出発日：7/3、7/8、7/13、7/17、7/24、7/31、8/7
旅行代金：¥256,000～¥294,000 (大阪発着)

四姑娘山トレッキングと
九寨溝、黄龍 10日間

出発日：6/29、7/20、8/24、9/7、10/12
旅行代金：¥298,000～¥312,000 (大阪発着)

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

40周年記念特別企画！初夏のロッキーよくばりプラン 世界最高峰のチロル・ドロミテで自然探訪と絶景の谷 世界遺産・中国・北朝鮮国境の山で美しい山頂を眺めながら登山

初夏のカナディアン・ロッキー
3大国立公園ハイキング 8日間

出発日：6/4、6/9
旅行代金：¥328,000～¥332,000

ザルツブルグ、チロル、ドロミテ
大自然探訪と絶景の谷 10日間

出発日：6/30
旅行代金：¥478,000

朝鮮半島最高峰
長白山縦走 5日間

出発日：6/26、7/13、8/7、8/24
旅行代金：¥198,000～238,000

掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)
(関)りんゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

40th Anniversary

たくさんのお客様に
支えられ
アルパインツアーは
創業40周年を
迎えることができました。
心よりお礼申し上げます。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの 슬라이ド を上映します。

近江の山 花暦 —初夏—

初夏の比叡山に咲く花

山本 武人

比叡山系は大津市・京都市境界の山中越あたりから途中峠までの稜線。折りの峠として母なる山でもある。比叡山の早春から初夏には多くに花が咲く。

エイザンスミレはその代表である。近年、山中で咲く場所はわずかである。坂本山麓でエイザンスミレを増やしている人達もいる。クリンソウは無動寺の谷間に群生、その他、比叡の谷間にも多く見られる。大宮谷にはヤマブキ、シヤガが林道脇に咲く。カキノハグサは峰道や縦走道にひっそりと花を咲かせる。

これらの花を求めて比叡山中を歩く花紀行は楽しい。



エイザンスミレ

大宮谷沿いに列をなすシヤガ



大宮谷に咲くヤマブキ



クリンソウが群生する谷間



藤浪 (平等院)

蝻螂生 (かまきりしょうず)

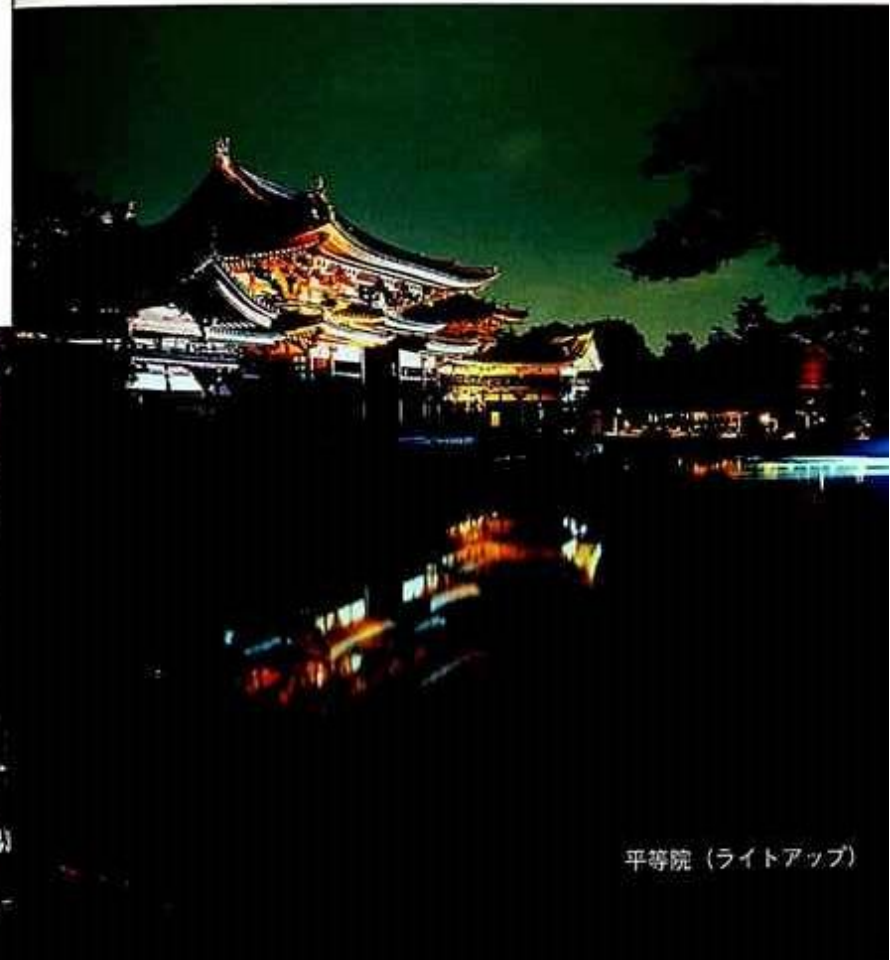
親とそっくりの姿で生まれてくる
爽やかな季節に開花する藤
薫風に揺れる花房はおやか
平安朝の清少納言は「枕草子」に
長い房に恋文を付けた情景を
「なまめかしきもの」と記した
藤の名所と言えば 宇治の平等院
腰を下ろして見上げると
空のキャンバスに描いたような花
マメ科特有の花の形をしている
ライトアップされた美しさは格別
闇夜に浮かび上がる鳳凰堂
幽玄と絢爛さが同居する
阿弥陀如来坐像に手を合わせる

Photo essay

蝻螂生



題字 中田 蘭石
撮影 由井 収一
文 松永 恵一



平等院 (ライトアップ)



鳳凰堂を望む

季節の

実景

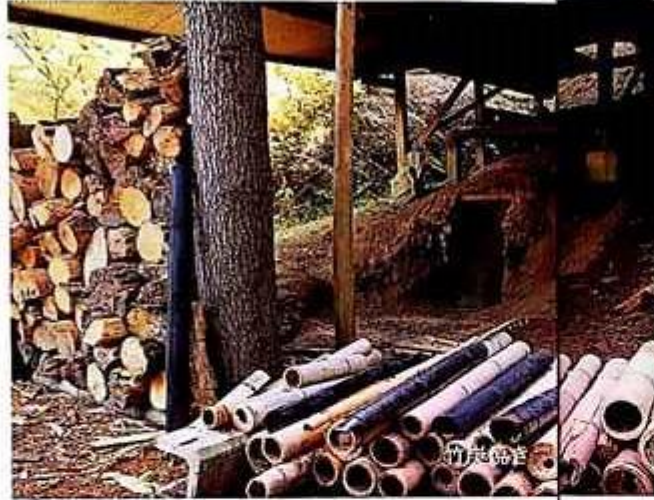
三上山 (南山城)

撮影 武市通治

初夏



モリアオガエル



竹炭窯



新緑



ササユリ (森林公園)



三上山頂よ



アヤメ平から見た長閑な山 (京都) 松田敏博



山麓の春 (八ヶ岳) 武田誠司



片波川源流巨樹の森 (京都北山) 一芝義雄



石の仏 (京都北山) 山中 茂

- 表紙 「七面山の大窟とシャクナゲ」(大峰)……松田敏男
- 口絵 近江の山「花暦」……山本武人
- Photo essay 「蛸螺生」……松永恵一
- 季節の実景「三上山(南山城)」……武市通治
- 武田誠司・山中 茂・松田敏男・一芝義雄
- 「五月の風の下で」……奥田英一郎



ササユリ
(西村文男)

特集	初夏に歩く山 3コース	編集室	18 16 14 12
紀行	①音波山 ②カベヨシ ③半園山	奥田英一郎 藤木 伸人 島田浩一郎 木村 太郎 田中 明	40 34 28 25 20
連載紀行	標高による山の紹介 △△12の山 三角点を訪ねて 点名「滝ヶ谷」 韓国登山シリーズ「ソウル・道峰山②〈完全版〉」 文学歴史ハイク「司馬遼太郎記念館を訪ねて」	松田 敏男 磯部 純 吉見 英樹 松永 恵一	62 58 46 32
研究	旗振り通信の新研究「伊賀市で新発見の旗振り山Ⅲ」	柴田 昭彦	50
レポ	山の地名を歩く「初雪山」 無限江山「雨の日に水源の森を歩く」	西尾 寿一 横上 俊雄	69 66
コースガイド	①松尾陣所跡、今須黒宿から柏原宿へ ②正科坊山 ③地蔵谷から登仙台(一本杉)	長宗 清司 柴田 昭彦 松尾 一郎	80 75 72
せせらぎ	香港トレイルの報告	会員募集・新入会員紹介	84
サービスエディン	原稿募集・編集後記	訂正とお詫び	111
山行計画・報告	広告案内		112

「あなたは自分が好きですか？」と問われ、「ハイ」と答えられるであろうか。自分のことを好きになれないと上手に生きられない。「自分が嫌いだ」と言う人は、物事に消極的で人目に出たくなくなり、引きこもりの人生を送ってしまう。

「自分を嫌い」と思っている人でも、何かの小さなきっかけで「自分が好きになれる」ことがある。生きることが楽しくなるという。

山がそのきっかけにならないだろうか。自然の営みにちよつと触れるため、月に1日くらいは山に登ってみよう。「なぜこんなことによくよしていたのだろう。無理をせず、ぶん相応に自分の足元を見つめて少しずつ前を向いて歩んでみよう」と思えるに違いない。

小さな生き物が活動し、名もない草でも精いっぱいの花を咲かせている。あなたの花は自身で咲かせないで誰が咲かせてくれるのでしょうか。

新ハイキング関西(代巻) 村田智哉

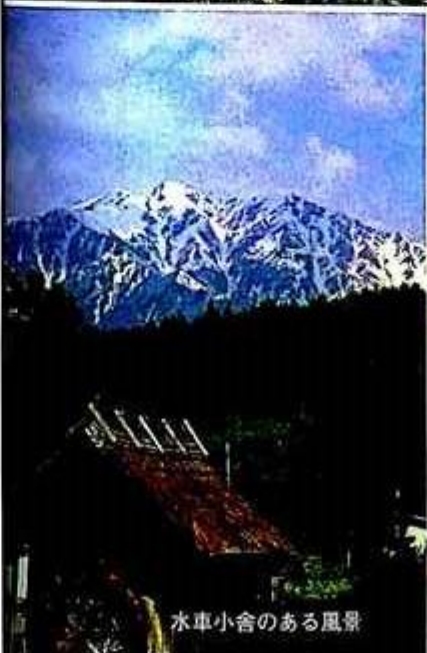
巻頭言

五月の風の下で —北アルプス山麓にて—

奥田 英一郎



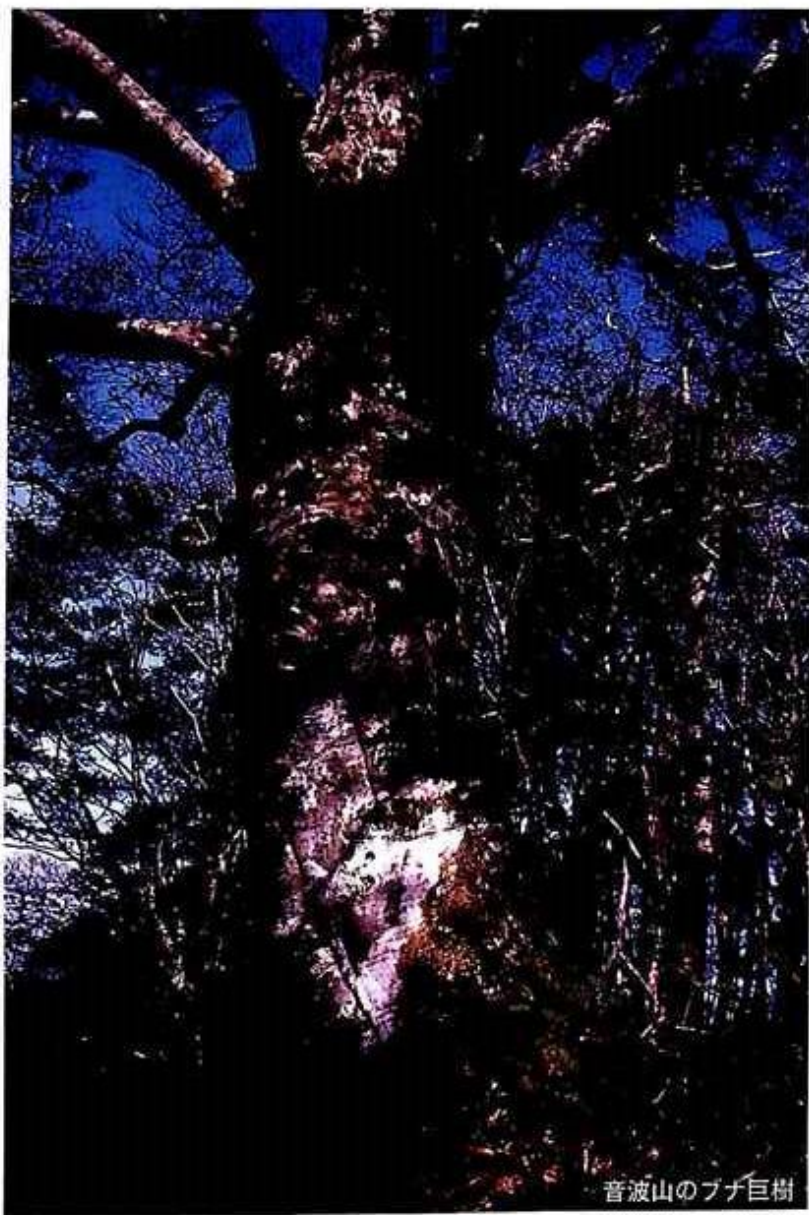
ラフティングで蛭川をくだる



水車小舎のある風景



菜の花ロードをランラン



音波山のブナ巨樹

特集

初夏に歩く山 3コース

— 編集室 —

- ① 音波山 (湖北・余呉トレイル)
- ② カベヨシ (湖西・高島トレイル)
- ③ 半国山 (丹波)



カベヨシのシャクナゲ

特集① 湖北・余呉トレイル

淀川の源にあるブナ林の山

おとなみやま

音波山

中般コース(★★★★)

地形図にその名のない三角点峰であり、登山者の間では音波山と呼ばれている。淀川の源である高時川の支流大音波谷源頭にあり、地元中河内ではこれを「おとなみだに」ということから大音波山と表記すべきかもしれない。

隆起準平原の残丘であり、凡庸とした山である。谷は他の支流同様に本流に近い規模をもち、奥が深い。かつて中河内の人達が盛んに炭を焼いていて、その主な場所は大黒山北面とこの谷の

源流一帯であった。

大音波谷源流への道は谷沿いではなく、いったん右岸の尾根を伝って北上し、目指す源頭へくだったという。今日あるベルク余呉スキー場はこうした場所の一部を利用してつくられたものだ。そう聞けば、かつての炭焼き道を使って音波山へ登りたいとだれもが思うが、今となってはスキー場に寸断されていてあきらめざるをえない。昨年になって分水嶺をゆく余呉トレ

イルの整備が進み、山頂までの微かなトレイスも人ひとりが歩けるほどの道となり、快適に山頂へ立つことができようになった。さらにやぶに埋もれていた三角点も切り開かれて小さな広場となって滋賀側の大展望を望みながら、山頂での憩いが楽しめる。送電線の通り道でその下は伐採されているものの、一帯にはブナ林が広がっていて、それも琵琶湖周辺では珍しい他の混じらない純林のたまたまであり、そのことがこの山の個性をさらに高めている。

栃ノ木峠の登山口は、大きなトチノキや淀川の源碑がある峠から少し南の中河内側にある、ベルク余呉スキー場への入口にある。

音波山へ向かう巡視路はいきよりの急坂だがすぐにゆるやかとなり、峠からの山仕事の道、さらにベルクススキー場への道を合せて送電線鉄塔へ出る。ここで周囲が開け、眼下に余呉高原スキー場が広がる。そして登り切った所に電波塔が立っている。

このあたりからブナはさらに多くなるが、送電線がしばらく尾根伝いに続く。その下は伐採されていて巡視路は草地のなかにのびている。丘を二つ越えるとわずかな鞍部となり、送電線と巡視路は福井県側へくだってゆく。

ここからいよいよトレイルとして整備されたブナ林の道へ入る。人ひとりか通れるか細い道で、分水嶺沿いに木立の間をぬって続く。尾根はなだらかで広い。このあたりのブナ林は二次林で、若木が並び立つ様は勢いがあつ

て壮観だ。わずかな起伏をいくつか越えたと、木立の間から森が伐り開かれた山頂が見えてくる。

道は尾根のわずかに北側斜面を掻きながら登っている。それまでとは違う太いブナの森となっていて、山頂手前にはひとときわたくて枝振りの立派な、まさに仁王立ちの巨樹が迎え入れてくれる。幹回りは大人3人がかりほどもあり、山頂そっこのけで見とれてしまう。森を抜けると、三角点を中心とした小さな広場の山頂へ出る。大パノラマ

が広がり、茫洋としたブナ林の分水嶺尾根の先、深い大音波谷越しに盛り上がる下谷山が、淀川の源にふさわしく特に印象的だ。(樹上)

△コースタイム▽
栃ノ木峠ベルク入口(1時間30分)巡視路分岐(45分)音波山(45分)巡視路分岐(1時間15分)栃ノ木峠ベルク入口
△地図・地形図▽
中央分水嶺 余呉トレイルマップ(ウツアイバル余呉・余呉トレイルクラブ) 2万5千11板取



音波山への道



針畑と芦生の森の間にある静かな山

カベヨシ

中級コース(★★★)

針畑谷と芦生の森を区切る中央分水嶺の独標ピーク818mをいう。

隆起準平原の地形が広がる芦生の森は由良川源流にあり、なだらかな峰と浅い谷を覆う原生林が持ち味だが、下流にゆけば深い溪谷となって行き来は容易でない。

この点、針畑から分水嶺を越えることは比較的簡単で、木地師集落のあった時代から交流の歴史は濃いものがある。由良川源流の中山と岩谷出合の間の

左岸に立派なトチノキの森がある。針畑の生杉は中山にあった神社と縁が深く、古くからこの森の存在を知っていたことは当然であり、実が落ちる頃には南隣の古原の人達と穫り合いになったという。

どちら側ともこのトチノキの森に到るそれぞれ独自のルートをもっていて、北の地蔵峠や南の岩谷峠を廻っていたでは時間がかかって運れをとってしまいう。このピーク818mをいかに越える

生してトンガリ帽子のような山頂が見えてきて、わずかの登りでカベヨシへ着く。この独標ピークには山名板も無いが、このような山頂もたまにはいいものだ。

一方、古原からカベヨシへは、まず保谷林道を進んでトチノキ群生地から左股へ入り、しばらくで左岸尾根に取り付いて岩谷峠へ。三国岳への登山はよく使われている道であり、岩谷峠は樹林に覆われているが、岩谷側が透けていて明るい。

ここからトレイル道標に従って北上する。地蔵峠の周辺よりも原生林のたえずまいが濃厚であり、天然更新の倒木をぬってゆくトレイルは歩きがいがある。

峠を二つ越え、シヤクナゲ群生地を抜けると芦生側に尾根と並行する横谷が現れ、さらに急斜面を登り切ると二本立ちした立派なアシウスギ巨樹のご対面、奥深さが極まる。その余韻にひたりながら進むと、すくにカベヨシ頂上である。

かがポイントであったのだ。生杉谷から北側を越えるのが生杉ルート、保谷から南側を越えるのが古原ルートといえは簡単そうに聞こえるが、生杉谷の支流で山頂へ突き上げるカベヨシ沢と呼ばれる急峻な岩谷があつて、間違ってもその谷へ入ってはならないという決まりがあり、迂回しなければならなかった。一方、保谷は源流部で沢が放射状に広がっており、戦前まで芦生に劣らない原生林があつて迷いやすかつたという。

こうしたことから、このピークをカベヨシと呼ぶが、登山対象として考えれば山慣れた人にとっては、沢歩きからやぶ漕ぎ、そして南北からの中央分水嶺トレイル歩きと興味は尽きない。私達は夏には、沢ルートでカベヨシに登り、沢ルートでトチノキの木陰や由良川源流まで足をのばすという、ほかでは味わえない納涼コースで随分と楽しませてもらっている。

地蔵峠や岩谷峠からの中央分水嶺・高島トレイルのコースは、いずれも深

△コースタイム▽

生杉ブナ原生林(50分)地蔵峠(1時間20分)カベヨシ

古原(2時間)岩谷峠(1時間10分)カベヨシ

△地図・地形図▽

中央分水嶺・高島トレイルマップ(高島トレイル運営協議会)
2万5千:古原、久多

カベヨシの大杉



カベヨシ付近図

い樹影が日射しを遮り、原生林を渡る涼風に吹かれながら小道を伝い歩く。その心地好さはここならではのものだ。地蔵峠からはトレイルの道標に従って尾根に取り付くと急坂もしばらくで、枯れてしまったミズナラ巨樹を過ぎるとあとひとふんばりだ。

接線に出るとゆるやかなアップダウンとなり、ブナ・ミズナラ・アシウスギの混生林を味わいながら進むが、支尾根が立派なので地図で通過することが確認したい。やがてアシウスギが群

新緑の渓谷をたどる

はんこく

半国山

一般コース(★★★)

半国山とは妙な名前の山である。山頂は広々としており展望は抜群だが、北西方面は眺めることができない。半分だけが展望できるので名付けられたのではないだろうか。また、播磨・丹波・摂津の三国の半分ずつが眺められるのでそのようになったと書物にある。亀岡市の西部、るり溪すぐ東側にそびえ、交通のアプローチはJR園部駅からが便利である。

登路としてはかに宮川・千ヶ畑・井

出コースなどがあるが、今回は、赤熊バス停から新緑の音羽溪谷コースから半国山へ登り、るり溪へくだるコースを紹介する。

JR園部駅からタクシーに乗り、15分で登山口の赤熊バス停。登山口の標識を見て音羽溪谷への林道に入っていく。約1.5で林道終点。マイカーの場合、終点の広場に3、4台のスペースがある。林道終点までタクシーが入っ

半国山の山頂にて(筆者)



てくれればよいが、石の多い荒れた道なので運転手は嫌がるだろう。

林道終点には石地蔵の堂がある。ここで登山準備を整え、いよいよ音羽溪谷左岸に沿う道をゆるやかに登っていく。石コロの多い登山道だが、幅広くて会話を楽しみながら歩ける。途中に小さな滝を見ながら、新緑の季節なら

瀬音を聴き、左右のツツジなどに注目しての快適な登山になる。杉の沢分岐の峠まで分かれ道が二ヶ所出てくるが、広い道をテープに沿って行けばよい。

林道終点から1時間余で杉の沢分岐の峠状の鞍部に登り着く。まっすぐは杉の沢へくだる道だが山頂へは左折して行く。道標があつて迷うことはない。広い鞍部でゆっくり休んでいこう。

ここから山頂へは30分。尾根道の登



山道が南にのびている。やや急な箇所もあるがすこしの辛抱、雑木林のなかを快適に登っていこう。やがて松林が見えてきたら山頂は近い。稜線が広くなると、すぐに芝生の半国山(774.2)山頂に到着だ。

100人が弁当を広げてもあり余るほどの広さがあり、登ってきた北西方向以外はすべてが展望できる。腰を下ろしてゆっくりとくつろげる。線刻の不動明王が石の台上にあり、周囲には松林の木陰もあるので日差しが強いときでも日陰を探してくつろげる。

展望を満喫したら下山にかかる。いったん急坂を10分、宮川・井出コース方面へくだると、三差路に出合う。道標を見て右にとって千ヶ畑・杉の沢コースへゆるやかにくだっていく。周囲の雑木林の景観はすばらしく、広々とした新緑のなかを行けば、やがて尾根道は千ヶ畑分岐に着く。道標をよく確かめ、右の谷へくだって行くのが杉の沢への下山道で、左は千ヶ畑へくだるコースになる。

右手をとってくだっていくと、雑木林から杉植林帯になって薄暗いじめじめした道を通ることになる。やがて、登りのときに峠で出合った杉の沢コースと合流し、あとは、一本道となって派生する支尾根を二本乗り越えて峠に出る。

峠からくだり、るり溪の別荘地に下り立ち、開発途上の車道を杉の沢登山口に到着する。別荘地をくだれば、るり溪遊歩道が通天湖にのびている。車道に出てもバス便は少ないので、朝のタクシーに予約しておくこと。

*なお、このコースは、5月8日(土)の新ハイ例会で実施する。(村田)

《コースタイム》

JR園部駅(タクシー15分)赤熊バス停(10分)林道終点(1時間)峠鞍部・杉の沢分岐(30分)半国山(10分)宮川・井出分岐(10分)千ヶ畑分岐(1時間10分)杉の沢登山口(20分)るり溪遊歩道起点(30分)通天湖(タクシー25分)園部駅

△地形図V2万5千1:植生

かりの村里を歩いてみた。
人影の無い静まり返った集落のいちばん奥までつめたあたりで、そろそろ引き返そうかと思つた時、ふと、この山奥に似つかわしくないような長塚と石垣が目についたのである。始め武家屋敷がこんな所に？と思つた。長屋塀の中ほどに何となく風格が感じられる木戸があった。門戸は少し傾いているようだった。

好奇な気持ちで石段を四、五段上がった。押戸に手を触れると、簡単に開いた。背丈ばかりの門をくぐって中に入つてみた。そこに見たのは倒壊した建物の残骸だった。それも倒れてから相当年数が経っているのか、崩れ落ちた土砂に草木がはうほうと茂つていた。汚れたコンクリートの開けがあつて、その脇に大きな赤桶が埋もれていた。造り酒屋にあるような桶は以前、庄川沿いの五箇山で見たことのある桶に似ていた。それはたしか桶の上に二枚の板を渡して3、4人が同時に用を足すことができる大所帯用の雪隠のよ

うだった。

残骸から余程大きな屋敷のようだと
思いながら、気をとられて呆然と眺めていたのだが、その時、誰もいないと思つていた塀の片隅にひとりの老婦人が突立ってこちらを見ていたのに気がついた。慌てて会釈をすると、「どうぞお上がりください」と言う。長屋門の中ほどに部屋があった。言われるままに上がらせてもらった。

三畳ばかりの狭いひと間に品の良さそうな老人が端座していた。老婦人はすぐお茶を用意してくれ、ふたりは見知らぬ旅人に親しく話しかけてくれた。たしかハラ某とか言つていた。始めご夫婦かと思つたのだが、実は兄妹で体の不自由な兄さんの面倒を妹さんがみているということだった。

「何年か前の夏、風の全く無い真昼時に突然屋敷が大音を響かせて崩れ落ちた。が、幸い家族は外出中で難を免れた。もともと古い家柄で、近隣の農家に馬の種つけをし、飼育してもらつて成馬となつたのを引き取つて馬市に

出していた。全盛時には使用人は20人から30人もいた」と老人は語るのだった。

偶然に上がりこんだ倒壊屋敷は馬長者の屋敷のようだった。木曾の開田村とか飛騨の高根村というのは古くから木曾馬の産地として知られていた所だった。

古い昔の木曾馬の沿革についてはよくわからないが、木曾義仲が歴史に登場する時代に木曾馬は活躍していたことだろう。江戸時代、幕府は中仙道十一宿のそれぞれに人足50人、伝馬50頭を義務づけていたというから、ざっと600頭が常備されていたのである。それらの馬は開田村と高根村で産出されていたという。

「戦時中に輸重用の軍馬として木曾馬が駆り出された折、馬の列が延々と山道を連なつて行く姿は、それはそれは壮観でした」と妹さんが話を添えてくれた。

いつだったか、開田の村役場に木曾馬の資料をもらいに寄つた時、開田村

の山下家と高根村日和田の原家はかつての馬大家だということだった。役場の職員は山下家のことを「うまおやかたさま」と呼んでいた。「原家が馬を出さなかつた時は、木曾福島の馬市が立たなかつた」とも言っていた。
老人はさらに「一探もどきのようなくことにも遣つて大変だった」と言う。



原家正面開木戸 (左側が押戸)

原家は馬地主として馬小作への取り立てがきつかつたのだらうか。
老人の話は次第に榮華を極めた頃をいかにも懐かしむようだった。過去への郷愁をにじませて話が少し哀しくなつてきたのを機においとまさせてもらつた。

木曾馬の全盛時に繁栄を極めた原家だったが、その日、目の前にあるのはかつて。馬千頭を誇つた。馬長者の姿ではなかつた。崩れ落ちた屋敷がそのまま放置されている姿は痛ましかった。しかも崩れ残つた長屋塀の一室で兄と妹が扇を寄せ合うようにして、この飛騨の山奥でひそやかに生きている姿は、「栄枯盛衰の理」を目のあたりにする思いであった。

それからまたあちこちの山を歩いて一、二年経つた時、野麦峠に林道が通じたというのを聞き、戸隠からの帰りに寄つてみた。以前、抽道をとどつて野麦峠から夕闇に追いかけるようにして野麦の山里にくだったあの時

の時は、すっかり変貌していた。飛騨の工女ミネが兄の背に負われ、「ああ飛騨が見える」と言つて力なく崩れた峠には新しい石碑が建てられ、土産を売る宿泊所が出来ていた。

「ああ野麦峠」(山本茂実)が出版されたのは昭和52年、私が歩いたのは昭和40年だった。その頃には林道は無く土産店も無かつた。昔を振り返つて懐かしかつた。だが展望所から見た乗鞍岳は新雪を冠し、さすがに当時のまま雄々しくて美しかった。

その日は高山に出るつもりだったが、少しばかりの寄り道だと思つて土産を持って日和田に廻つてみた。崩れた屋敷はそのままだったが、嬉しいことにおあたりは元気で突然の訪問にも笑顔で迎えてくれた。この時は一升瓶を覺の上にでんと置いてコップ酒をいただいた。

「馬は農耕よりも木材搬出などに使うことが多かった。賢く伐り出した木材を背にくくりつけて追いやる」と、人が付かなくても他の馬を引き連

れて里まで下りてきた」

「子馬の時に飼育された家をよく覚えていて、遠くへ売られていった先から、二、三年なら元の家に帰ってきた」などと、炬辺で昔話を聞くことができた。

戦後は馬から牛にとつてかわり、馬大家は衰退の道をたどっていったようだ。この日は元気なおふたりのご様子を見てあまり長居せずにおいとました。別れ際に「お元気で！」と言葉を交わしたのだが、心なしかお返事が弱々しかった。

崩れ残った長屋塀は痛みが進んでいたが、たしか、石垣の上の何体もの石仏はかつての風格を残していた。しかし、屋敷を元のように修復する資力はもう無かったようである。おふたりはこれから迎える厳しい冬を兄妹で心を温め合うようにして生きていかれるのだろうか。帰りの車中では何となく感傷的になった。

それからちようど一年余りのちの

夏、安曇野の道祖神を訪ねる機会があり、ふと（どうしておられるだろうか）と思い、日和田に寄ってみた。

長屋塀は一層痛みが激しかった。木戸も傾きがひどかった。やや不安ながら押戸に手をかけてみた。心なし動いたような気がしたが、戸は開かなかつた。念のためにと少し強く押してみたが駄目だった。それでもと屋敷裏の荒れた台地が上がって来た。崩壊跡は草木が生い茂って小さな森のようであった。あきらめて木戸に戻って中を窺ってみたが人の気配は無かった。

長屋塀に添ってのびていた石垣の上に並んでいた石仏群は以前のままだだったが、道祖神も馬頭観音像もそしてどこかの峠にあった地藏像も夏草のなかに沈んでいた。それらはいずれも移りゆく時空の中で何事もなかったようにたたずんでいたのだが、朽ちかけた木戸脇に立っていた等身大の石碑、それは昔、近くの川原に横たわっていたのを原家の人が持ち帰ってきたもので、表面には骨太の文字で深々と。南

無阿弥陀仏」と彫り刻まれていた、を見つめたとき、何となく全てがわかるとような気がした。

村人に尋ねるまでもない。おふたりはどこか遠い国へ旅立たれたのだろうと、独り合点をしながら、すぐには立ち去る気にはならずしばらくあたりを徘徊したのち、もう会えなくなったおふたりに別れを告げたのである。車のミラーに写る等身大の石碑の白さが、夏の陽にくっきりと浮かび上がるのを見た時、何かが終わった気がした。その時、ふっと「方丈記」冒頭の

一節が頭に浮かんだのである。「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず、淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結び、久しくとどまりたる例なし、世の中にある人と橋と、またかくのごとし」

あさがおに宿る朝露のように、人も屋敷も潰え去ったのか、と無常感が胸をよぎったのである。

うまおやかたさま

いまいずこにありや。

紀行

海を望む志摩の山

五郎山と高根山

薮木 伸 人

伊 勢

志摩市は、旧志摩郡の五町（浜島、大王、志摩、阿児、磯部各町）が合併して出来た市だ。その内、伊勢・鳥羽両市に隣接し、志摩親光の玄関口ともいえるのが、磯部町である。

磯部町といえば、的矢湾の無菌ガキ、昔から信仰を集めてきた伊雑宮、天の岩戸、そして現在では志摩スペイン村などが思い浮かぶが、その他にも散策が楽しめるスポットは、まだまだありそうだ。

五郎山と高根山は、それぞれ麓に観光農園がつくられた山で、山頂三角点まで駐車地から散歩程度で登れる。近鉄志摩磯部駅から歩いたとしても、どちらも片道5分はなないだろう。

高根山登路よりの矢湾を望む



さて、五郎山のほうは、少し前になるが、2005年の冬、別の山の情報を求めて立ち寄った道の駅「伊勢志摩」で、その存在（山名）を知った。案内板に従って進むと、登り口はすぐわかり、整備された道を10分も登ると頂上に着いた。

展望良く、眼下に道の駅が、遠くには鳥羽市との境にある青峰山、南伊勢

の山並の先に局ヶ頂まで見えていた。伊雑ノ浦に面して建つスベイン村の施設もつぶさに確認できる。下では今でも降り出しそうな曇天だったが、よくなってきた。

四阿の柱に「穴川のP」と記されたプレートが付けられている。五郎山の山名由来はわからなかったが、三等三角点名は「穴川」(126.06)である。取巻の無い標石がきちんと南北を示している。



志摩の山らしい植生で、ヤブツバキ、

花々を楽しむことができる。高根山バラ園は山中にあり、手づくり感溢れる素朴な庭園だが、どちらも育てている人の花への愛情と熱意が伝わってくる。一株1000円で苗を買っているお客がいた。私にはよくわからないが、愛好家にとってはお買い得らしい。バラの他にキンバイやアジサイも咲いていた。

バラ園を後にして舗装の割れた細道を車で行き、木の鳥居前に駐車。車道はここまでで、山頂方向は先に携帯電話が建っている。東にはパールロードの矢張り橋や外洋が望め、地元の人々が初日を拝みに登ってくる場所はここかと納得した。

南にくだっている道は、すぐ行き止まりになったので、鳥居まで戻り、携帯基地の横を抜けて山道に入る。少しの登りで三等三角点に出会った。点名は「磯部」(143.62)。南西の角が欠けている。

周りはコシダや茨の茂みと林で、展望は全く無い。山頂らしい感じがしな

ソヨゴ・ウバメガシ・ヒメユズリハ・ツワブキ・コシダが多かった。クちなシには、美しくオレンジに色づいた実が付いていた。狩猟の人を見かけたが、猪狩だろうか。

下山後、道の駅に並べられた伊勢志摩の産物の内から、外郎・干し芋・干し鯖・伊勢うどんを買った。

余談であるが、五郎山から道の駅を挟んで北方すぐ、磯部トンネルが通っている山を高根山という。頂上付近と中腹に戦時中の壕があり、高射砲の陣地をつくっていたという話もあるらしい。そんなものをつくる時代が再びきてはしくないものだ。最近、どうもきな臭くて嫌だ。

同じ年のユリの咲く頃、「ゆりパーク」を訪ねた。2004年にオープンしたこの花園は、残念ながら一昨年閉園してしまっただが、私達が訪れたときは、一丘の丘陵地(五郎山麓)に40種70万本のユリが植えられており、それは見事な眺めだった。

現在は、シバザクラ30万株の植栽が

いが、山名板が二つもあった。「こんな所にまで」という思いだ。地形図では北に破線路が続いているが、「この先行き止まり」の立札があった。

長居は無用と、来た道をくだる。携帯基地のフェンス沿いを廻り込むと、西から南方を見渡すことができた。五郎山、磯部の町並、伊雑ノ浦の養殖場、志摩スベイン村などを確認。遠くに高根山らしきシルエットが望まれたが、確信はもてなかった。

この日は、行きは伊勢道路を通り、帰りは南伊勢町からサニーロードを帰った。伊勢道路では路上に若い鹿が現れ、神宮林の奥深さを感じた。帰りの道では、途中にササユリやルピナスの花園があることを知り、また訪れたいと思った。(平成21年6月7日歩く)

五郎山は、麓のすばらしいユリ園を見られなくなったのが惜しいが、気軽に登れるので、ちょっと立ち寄るにはよい所だ。

高根山は、三角点を訪ねたい人とバ

予定され、「日本一早く咲くシバザクラの丘」として整備中とのことである(ユリも400平方メートルで栽培の予定)。来年2月下旬の開園を目指しているようだ。(平成17年1月29日、6月12日歩く)

高根山へは、初めからバラ園を観るつもりで花の時期に出かけた。駐車場に車を停めて、まず花を楽しむことにする。入園料を払おうとしたら、農園の人がいいと言ってくれた。

園内には、800種2万本のバラがあるとのこと、訪れたときにはちょうど、色とりどりの様々な品種のバラを鑑賞することができた。家の古い道路地図には、このあたりが「高根山キャンプ場」と記されている。バラ温室の裏にプール跡らしい池やコテージがあったので、農園に転用されたものと思われる。

私の住む松阪市の、伊勢自動車道松阪インターに近い農業公園「ベルファーム」の中にも、手入れの行き届いたバラ園があり、ボリュウム満点の

ゆりパーク園内より五郎山



好きな人にはお勧めだろうか。

△コースタイム▽略

△地形図▽2万5千II磯部

(問い合わせ先)

道の駅伊勢志摩

☎0599(56)2201

高根山バラ園

☎0599(55)2060

残雪のある鎖場を通過して

おおかわぐち

てっさん

大川口から鉄山へ登る

大峰

島田浩一郎

「あかん、昨夜海外から帰国したばかりで時差ボケ。目覚ましに気づかず、一本遅れたー」眠い目をこすりながら加古川駅へ急ぐ。

2時間後、近鉄阿部野橋駅を無事発車し、ひと息ついて缶コーヒを飲もうとしたら、ちょうどそのとき、杉村仙人からケータイメールに突然あせり狂った連絡があった。「どうしたのだろう？」彼も遅れたらしくこれを見てがっくりきたが、榎原神宮前駅から特急に乗れば、ぎりぎりですり下市口駅8時47分発の中庵住行きバスに間に合うので、その旨返信する。

下市口駅から先頭を切り、巨体をゆすりながら汗だくでバスまで走る姿を見て、何とかふたりは無事バスに乗り込むことができた。

鉄山の山頂



9時50分、川合バス停から川追川沿いの林道を歩く。数年ぶりに訪れた川合は道路が整備され、また、オーブン間近かな村営の土産物店、改装された食堂、豆腐屋、酒屋などがあり、ござっぱりとした家並に変身している。溪流釣りがちように解禁された頃合いで、谷間には大勢の釣人がアマゴ釣りの竿

を出していた。透き通るような青い流れに新緑が映える。

約1時間で熊渡に着いた。初日は熊渡から狼平へ行って暮営し、翌日、弥山を経てトンネル西口から大川口に到り、鉄山を往復しようと計画していたのだが、思いのほか早く熊渡まで着いたので予定を変更し、初日に鉄山を往復することにした。

大川口に向かう途中に川追ダムがあるが、最近、大雨などで土砂が上流から運ばれてきたためダム底が浅くな

り、河原も上高地の梓川のように植物が生えておらず、新しい石が多くなっ

ていて白っぽい。ダムから少し上流に行くと正面に険しい岩峰が姿を現した。三つのピークをもつ鉄山である。河原の向こうに迷ヶ岳の北東稜線が見え、その奥にどっしりと構える鉄山。いい構図の風景だ。

早足で歩いたのだが、熊渡から大川口まで1時間30分かかった。時間に余裕がないのですぐに鉄山の登りにとりかかろうと、林道からの上り口を探したがなかなか見つからない。布引谷方面へ2000m程林道を上がってみたが見当たらない。大川口の橋まで引き返して付近を見渡すと、橋のすぐ脇に「私道につき立入禁止」の看板があり、その奥に小道が急斜面に付いている。これしかあるまいと考え、この道に入った。しばらく様子見の体で登ってみると、だんだん道幅が広くなり、鉄山北東尾根をずっと上がってゆくようだ。案内板等はないが、この道だと確信



いる。どこで間違えたのかと考えながら引き返すと、先ほどの急に勾配が楽になった所で左に折れて尾根を直登する道があった。その分岐の杉の幹に950mの標示がある。「人間は楽なほう、自分の都合のよいほうに解釈してしまうものなのだなあ」とふたりして反省した。

しばらく行くと杉の植林帯は終わり、広葉樹林帯に入った。道はだんだんわかりにくくなり、赤と黄のテープを頼りにひたすら登る。小さなコブが見えたあたりで、60歳くらいの人が下山してくるのにすれ違った。挨拶を交わし、「これからの道はどうなっていますか?」と尋ねると、「きついですよ。特に頂上直下はね」との答えにガクッときた。

この人の話の通り、さらにきつさを増してゆき、ロープを攀じ登る個所があり、それからは、やせ尾根を木の根をつかみながら息を切らして登っていった。杉村仙人は過労のためか遅れがちで時間との戦いになってきた。遅

くとも16時までには頂上に着かないと帰りが心配だ。

やがて、広い草原(サンゲツ)に出た。ササと苔で広々としており、山上の遊園地という感じである。時間があたらゆつくりしたい所だ。ここからは行者遺岳、稲村ヶ岳、大日山、バリゴヤノ頭、神童子谷が指呼の間に望める。

広場から約200m程歩くと、いよいよ頂上直下の登りにかかる。小さなピークを慎重に東側の崖へ滑落しないように木の根を頼りに登る。そこを越すと、頂上へ到る鎖場だ。数日前に季節外れの寒波が日本列島を襲い、後立山連峰で遭難した人があったが、大峰山脈でも1500mあたりから雪が残っている。残雪のため、鎖場も滑って足元が定まらなかつたが、何とか登り切ることができた。そして、16時ようやく鉄山頂上に達した。

狭い頂上だが北方の展望が良い。思えば、今から約20年前、仲間と弥山に登りトンネル西口からの下山時に、鉄山のすばらしい山容に心を魅かれ、い

着いたのは18時であった。あたりは薄っすらと暗くなりかけている。それから約1時間半、鉄砲水や落石のないテントサイトを求めて神童子谷と布引谷を行ったり来たりしたが、適当なキャンプ地が見つからない。

あたりは真つ暗になり、ヘッドランプを点す。苦勞のすえにようやく、神童子谷の林道脇にテントを張れるスペースを見出すことができた。要はどこでもよかつたのだ。水と安全ささえ確保できれば……

山の斜面からは岩肌を伝って細流があつた。水も確保できる。テントを張つてようやく落ち着いたら20時になっていった。満天の星と溪流の静かな音。間鐘で鶏肉・鮭などをつつき、焼酎の水割りや二杯呑んでぐっすり朝まで眠った。

さて、2日目は行者遺岳へ大川口の吊橋を渡って尾根を直登しようかと検討してみたが、どうも沢筋の斜面に架かる棧道が朽ちているように見え、か

なり危なかつたしそうなので止めにした。また弥山も積雪がありそうなので止めた。所期の目的である鉄山に登ることができたことでもあり、川合までのんびり下山することにした。

川合まで約9kmの道のりである。白倉合で単独行の人と出会い、休憩時に言葉之交わした。初日小笹宿、2日目行者遺小屋で泊まり、行者遺岳の西尾根をくだってきたとのことであつた

が、「崖に架けられた棧道が朽ちており、進むことも戻ることもできないような状況になり、滑落の恐怖と戦いながら、やっとのこと大川口まで下りてきた」とのこと。我々も危うくその道を登るところであつた。

この人は結婚後登山を止めていたが、定年を機に登山を再開されたとのこと。大峰山脈には約30年ぶり、かつてこの西尾根道もよく通つていたが、その荒廃ぶりに驚いたそう。週に3日は山に行っているとのことであつた。ケータイの電波が届かないのか、途中のミタライ溪谷

北東尾根の登り



つか登りたいと思つていながら、なかなか果たせないでいた山頂を踏んで感慨深いものがある。

あの時、いっしょに鉄山を仰いだ杉村仙人とあらためて握手し、記念写真を何枚か撮つた。人間は本心に苦しむ時には写真を撮る心の余裕などないのだらうな。仙人はようやくいつもの雄叫びをあげ始めた。

日が暮れるとキャンプ場を探すのが大変なので、わずか15分休憩しただけで下山にかかる。鎖場・やせ尾根を慎重に道間違わないようテープを忠実に追ひ、急坂をくだる。

思ひのほか時間がかかり、大川口に

入口の公衆電話から奥さんに電話されていた。温かい人柄がよくわかる。

川合へは10時30分頃到着。酒屋で缶ビールを豆腐屋で油揚げを買い、醤油をたらしてもらい、それをつまみに缶ビールを飲みながら観光案内所のテラスで寛いでいると、切符売りのおばさんが来た。

たしか何十年前にも切符を売ってもらつたおばさんだ。そこで先ほどの単独行の人もいっしょになり、おばさんも交えて30年前の川合の町並のことなどなつかしく話した。今回もまたふれあいの山旅であつた。

(平成21年4月29日130日歩く)

△コースタイム▽

- 川合バス停(1時間)熊渡(1時間30分)
- 大川口(2時間30分)鉄山(1時間40分)
- 大川口(2時間)川合バス停
- △地形図▽2万5千:弥山・南日表(問い合わせ先)
- 奈良交通バス吉野営業所

0747(52)4101

新ハイ関西 112号	
標高△△ 12mの山	
天狗塚	(1812m) 四国剣山地
尾高山	(2212m) 南アルプス
812メー峰	(812m) 京都北山

天狗塚

今、振り返ると、時高さんが毎年一回恒例のように四国の山めぐりを始めた最初の山行が天狗塚だった。天狗塚は剣山地の1800以上の高峰群の中で最も西にある山だ。
会のメンバー4人で高知県側の光石登山口からお亀岩避難小屋経由で登った。小屋が美しくて佇まいも魅力的なので、次はここに泊まって三嶺へ行くというなどと話し合った。天狗塚への道のりは、コメツツジの紅葉が始まりかけ

ていて、所々に岩を配した枯れ色のササ原にコメツツジの紅葉との対比は、淡い美しさがあつた。

天狗塚は端正な三角錐形で、どのように切りとつても絵になる構図の景色に見とれながら、山頂へと向かった。下山ルートは南への畷境ルートを選んだ。ナナカマドが紅葉真っ盛りの尾根からは、少しずつ遠ざかる天狗塚の姿が印象深かった。

(平成14年10月12日歩く)

△コースタイム▽
光石登山口(4時間30分) お亀岩避難小屋経由天狗塚(3時間30分) 畷境南

尾根経由光石登山口
△地図▽昭文社「石鎚・四国剣山」

尾高山

尾高山はとても懐かしくて、私にとって思い出の深い山頂である。

1999年の年末、この山頂で四泊した。しらびそ峠から奥茶臼山に登るためにテントを張ったのだが、結局到達することはできなかった。しかし人に出会わない最長の94時間と、積雪期で小屋のない所でのテント泊最高地点と、最も重い27kgの荷物を上げたという三つの自己記録達成で、充分満足感のある山行だった。特に氷点下10℃以下の夜に山頂で四連泊したことが最高の思い出だ。いい天気の時もあったので、赤石岳や荒川岳に聖岳など南アルプスの重厚な山岳風景を眺めることもできた。

しかしその9年後、時高さんが奥茶臼山への登山道がつけられたという情報を得て、夏の終わりに4人で出かけ



尾高山より荒川岳(左) 赤石岳(中央)などを望む

た。しらびそ峠には大きな案内板が設置されていて、奥茶臼山への道程が簡単に到達できる感じの図で表示されていた。

小雨が降る日だったから、あまり休むことなく7時間足らずで往復できた。尾高山は何の感慨にふける間もなく二度通り過ぎただけだった。しかし、今後また尾高山を通過するようなことがあっても、ここで四連泊したことの違いは色褪せないだろう。

(平成11年12月23日・27日歩く)

△コースタイム▽
しらびそ峠(2時間) 尾高山(1時間40分) しらびそ峠
△地形図▽2万5千 大沢岳

812メー峰(京都北山)

国道367号の途中バス停のひとつ北にある上の町バス停より、小さな谷の左側に道がある。最初は心もとない感じだったが、少し進めばしっかりと踏跡になった。植林のなかを急登

すれば、美しい樹相の広葉樹林が続いていた。百井川に没している主稜線に達すると、しばらく平坦な道があつて山頂だった。

太い木はないが、繊細な美林に囲まれた山頂だった。山の名前など無いのがいい。だから山名板など見苦しいものは無かった。そして三角点のような人工物も無いことが、一層好ましい印象の山だった。落ち葉の上でゆっくり食事をすると、ビールのはる酔いをともなつて極上の山頂気分が味わえた。

下山はミタニ峠へと明瞭な踏跡を進む。この道中もわずかの距離ながら美しい道だった。

ミタニ峠から南三谷への道は荒れた感じになっていたので、安曇川源流へくだって百井経由で小出石に下山した。

(平成12年12月17日歩く)

△コースタイム▽
途中(2時間30分) 812メー峰(40分)
安曇川出合(2時間) 百井経由小出石
△地形図▽2万5千 花音

万葉集の歌枕を訪ねて

信貴山から鳴川峠

木村 太郎

生駒

寅年の福を求めて生駒山南端の信貴山を訪ねたあと、古代史「壬申の乱」の舞台高安山へ足を運ぶ。さらに万葉集に生駒高嶺と称賛された生駒山へ向かって縦走し、鳴川峠から瓢箪山駅へくだる計画で近鉄生駒線の信貴山下駅に集まる。

平城遷都1300年祭の開幕した日、信貴山朝護孫子寺は白虎会場となり、祭典を盛り上げた。

聖徳太子が「信ずべき貴ぶべき山」として信貴山と名付けたという、その誉れある歴史を秘める山城を歩けば、現代においても蒸り失せない古歌の調べに巡り合えるだろう。

駅前から西方へ向いてゆるやかな坂道が続く信貴ヶ丘の住宅街を抜けて交差する道路を横切れば、「前方朝護孫子寺・左手三郷駅」を示す道標に出合う。JR関西本線三郷駅に近いこのあたりは生駒郡三郷町になる。

奈良と大阪をへだてて南北に壁を形成する生駒山地、その南麓に駅舎を置く三郷駅のすぐ北には式内社竜田大社が鎮座する。生駒山地を横断する難路を避け、奈良と大阪を往来した旅人はこのあたりの道を通ったという。古来知られた竜田越であり、奈良から大和郡山と王寺を経て難多尾畑の山間を通り、大和川沿いを大阪に向かったと想定されている。

ひとものうらぶれ居るに龍田山
御馬近づけば忘れしなむか

(巻五ノ八七七)

「私たち居残りになるみなが、悲しみうちおれているのに、竜田山にあなたの乗った馬が近づくと頃には、私共のことをお忘れになるのではありますまいか」と、筑前国を去り竜田山越で

都へ帰る大伴旅人を送別し、宴席で山上懐良が詠みあげた歌である。

戦前に刊行された「近畿ハイキング案内」の大軌鉄道(近鉄)沿線の信貴山案内に目を通すと、「信貴山下駅から信貴山駅間は登山電車を運行しており、田園趣味横溢し変った気風を感受するコース」と紹介している。そして「信貴山を輪奐の美を極めて」と参考を記している。まだひなびた風光に満ちていた時代の道と、信貴山の美景が目に見えんてくる。

三郷駅と信貴山を結ぶ道標のある地点から車道を離れ、ケーブル廃線跡の千本桜並木道と名付けられた遊歩道に入る。昭和58年に廃止された信貴山ケーブルの跡地は、信貴ヶ丘高校前から信貴山駅までの区間が整備され、植樹された花を楽しみながら歩くことができる。

枕木や敷石の残る遊歩道が尽きて、信貴山バス停の裏手に出て、情緒たたくよう門前町の参道をたどる。仁王門をくぐり世界一大福寅に寄り、開山堂へ



信貴山・鳴川峠付近図

の石段を上がる。信貴山を開山した聖徳太子、信貴山中興の祖命連上人をまつる開山堂の前から、山峽の断崖に張り出した朝護孫子寺本堂を眺める。敏達天皇の時代に、この地で聖徳太子が仏敵の物部守屋の討伐を祈願した時、寅をお供にした毘沙門天王が出現し、戦勝の秘法を授けられる奇蹟が起きる。その日が寅年の寅の日の寅の刻であったとされ、その秘法によって物部氏に勝利した太子が彫り刻んだ天王像をまつるため、伽藍を創建してお山を信貴山と名付けたという。

建ち並ぶ堂宇の間を縫い、赤鳥居の列をくぐり抜け、空鉢堂への坂道を登る。空の水筒を掲げた参拝者とすれ違い、信貴山雄嶽(437m)に立つ空鉢護法のお堂に着く。二上山さらには葛城山・金剛山が南方に重なり続く一刻千金の姿を眺めた。

信貴山頂のお堂、空鉢護法については朝護孫子寺に伝わる国宝「信貴山縁起絵巻」の「飛倉の巻」に詳しい。命連上人は空高く鉢を飛ばして托鉢



信貴山にて

させる不思議ができた。ある時、托鉢をいやがって鉢を米倉に隠した長者がいたので、命蓮が戒めるために米倉を鉢に乗せて天空へ飛ばし、信貴山まで追いかけてきた長者を諭した説話である。

信貴山頂の空鉢堂東寄りの広場に「信貴山城址」碑が立ち、登山者が三々

五々集う。近江大津京に遷都（667年）した天智天皇が唐新羅軍と白村江の戦の後、外敵の侵攻に備えて築いた高安城山城の城砦という。太宰府の大野城、対馬の金田城、讃岐の屋島城と同時代、同じ目的で大和と大阪を眼下にする畿内要衝の地に築かれた山城であった。

生駒山の名は、万葉集に生駒高嶺とか草香山とか平群の山などと散見できるが、信貴山とは詠まれていない。立命館出版部の『万葉集撰河泉歌枕考』の目次に「井上山」があり、信貴山の別名に井上山のあることは、三省堂『日本山名辞典』によっても明らかである。春霞井の上ゆ直に道はあれど君に逢はむとた廻り来も

（巻七 1256）

「春霞の井の上から真直ぐに道が通じているけれど、あなたに逢いたいために遠まわりをして来ました」と恋歌が詠まれている。井を水汲み場と解さず、竜田川か大和川の大井と見れば、信貴山近辺に住む恋人に逢いにゆく歌

と読むこともできよう。某万葉学者の著作による中央公論社の『万葉集注釈』では、鏡女王が賜った天智天皇の御歌にある「大島の嶺」は信貴山の事という仮説を述べている。妹が家も継ぎて見ましを大和なる大島の嶺に家もあらしを

（巻二 91）

「あなたの家をいつも見ていたものだ。大和の大島の嶺に、わが家があればよかつたのに」と詠まれている。柿本人麻呂の歌集に生駒山地を「大和島」と形容している事例があり、文脈が同じ「大和の大島」を生駒山に求めることは不自然ではない。信貴山は天智天皇が城を築いた嶺であり、恋人の家を見守る天智の姿が置かれたとしても違和感は生じないだろう。

信貴山城址の石碑の傍らで一団となつて昼食を済ませ、仲間達9人は城址を後にした。信貴山頂の東面を北向きに捲いて歩けば、ほどなく福貴畑分岐に出合う。道なりに行けば久安寺へ出るが、高安山への近道をとって樹林

が茂る左手の山道に入る。

山道のカンバスに自然が描く落ち葉道をたどりながら、誰かが山を歩く幸福感を皆に語りかけていたが、共感した他の仲間も頷いている。鞍部にくんだり、弁財天の滝を経て信貴山門前の道標を見送り、陽が差し込む登りに転じた道を行く。

右に高安城倉庫跡の道標を見たが、先の長い行程を考えて寄り道をあきらめる。「高安城を探る会」によつて発見された土塁状遺構などがあり、奈良時代の土器類も出たと報道された場所であろう。さらに進めば西信貴ヶ丘ブルの高安山駅に通じる林道に出合う。

高安山頂に近づいた感じで林道を左へ歩いて、切り通しの下り道にかかる右斜面に高安山の目印を見つけ、強引に斜面に取り付いて奥に入り込む。樹木が密集する細い道だが、踏跡は明瞭で迷うことなく、高安山（487.5m）の手狭い山頂に到着した。二等三角点「峠山」と書かれた木標が樹木に針金で括られている。

木々の間から大阪管区気象台の高安山観測レーダーが西南に見えたが、私は樹木におおわれた展望の無い山頂でしばし、古代の出来事を暇に浮かべる。信貴山の所在地は生駒郡平群町だが、高安山は平群町・三郷町と八尾市との境界にあり、奈良と大阪の県境にまたがるピークである。

大和と河内の二国を展望できる戦略上きわめて重要な位置に高安城が築かれていたため、壬申の乱（672年）では激しい城の争奪戦が起きた。天智天皇没後の後継争いで吉野に身を潜めた皇太弟の大海入皇子が拳兵し、呼応した大伴連吹負率いる坂本臣財を長とする一隊が近江へ攻め上がる途中、大友皇子側の先鋒がいる高安城を攻めて占領した。

近江方は城を捨てた時に、税倉を焼き払い逃げたと書紀天武紀にあり、信貴山北の米尾山寺付近から焼米が出たという昭和の報道と符合する。七月一日に高安城に入城した坂本臣財隊が翌日、山上から河内平野を望んでいる

時、近江側の老伎史韓國の東進してくる軍隊を見つけ、高安山城を下りた財隊は河内国府近くの道明寺あたりで韓國隊と戦闘になる。

戦況が不利となり、財隊は懼坂（竜田山を越える竜田越だといわれている）に退却をしたのだが、大和の諸豪族が大友皇子に味方し、竹内峠を越えて大和に進んだ老伎史韓國隊は当麻で大伴連吹負隊に破れる。近江から進んだ大友皇子軍も大和上道で三輪高市麻呂隊に、中道の戦では大伴連吹負隊に敗北した。大和を制した吉野側の勢いは高まり、七月二十三日の近江大津京の陥落につながるのである。

青みづら依網の原に人も逢はぬかも石走る近江県の物語りせむ

（巻七 1287）

「依網の原で誰かに出会わないものか。近江県の物語をして聞かせたいと思うのだが」と、難波の地で滅び去った近江大津京に胸を熱くさせている柿本人麻呂の歌である。河内国丹北郡の依網（今はない）と



高安山の山頂

摂津国住吉郡依網(住吉区庭井)の屯に
かけて依網の原が広がり、そばには難
波宮へ往来できる道が通じていたとい
う。「壬申の乱」では書紀の記事にあ
るように、河内・摂津方面の人々の近
江朝廷側への参集があり、滅亡した近
江界の話題が流布して、人麻呂は
その話の輪の中に加わりたいたと歌つて
いるのだ。
人麻呂が難波大道で遠い近江大津京



鳴川峠

タイムのテーブルには持ち寄りの菓子
や果物が並ぶ。若者のように展望台の
鐘を鳴らし、大阪湾までの遠望を楽し
んだ。
役小角が大峰山に入る前に修行し、
元山上と称する鳴川千光寺へ越える時
に着く。鳴川峠の石仏に見送られて、
ぬかるんだ鳴川谷の道を大阪側へくだ
る。なるかわ園地森のレストハウスか
らの管理道がつながる東屋に来て最後

を懐かしんだように、私も高安山から
遠かなる時代に思いを馳せた。仲間達
と山頂を辞し、林道出合に引き返して
高原のような道に入り、生駒山縦走歩
道(近畿自然歩道を北へ歩く。
一元ノ宮に出て、生駒信貴スカイラ
イン沿いでて服部川駅に下山する立石
越の道標を見る。念のため、仲間達へ
エスケープをするかと質したが、難脱
者無しで鳴川峠を指して進むことに
する。
スカイラインとつかず離れず続く尾
根の木々を飛び移る小啄木鳥を見つ
けた女性の歌声を聞き、可愛い山の住人
を見ようと仲間達も一斉に宙を見上げ
た。

明和期に福貴畑の人が立てた地蔵仏
に花を供える十三峠に着く。峠そばに
国民俗の十三塚があり、大阪市の玉
造から八尾市神立を経て、奈良県の竜
田川近辺へ抜ける十三街道の時であ
る。大阪から伊勢参宮への道として近
世には賑わいをみせた。その十三峠に
は、在原業平歌を引用した「伊勢物語」

を出典とする、業平道伝承が語られて
いる。
伊勢物語「筒井筒」の段に書かれた、
茶屋の女に逢うために通った茶屋辻が
神立集落にある。十三峠を越えれば紅
葉で知られた竜田川に近い。業平が「千
はやぶる神代もきかず立田川から紅に
水くくるとは」と、二条後の東宮御
息所と名がある時に詠まれた歌は、古
今和歌集に取められている。
君があたり見つつも居らむ生駒山
雲なたなびき雨は降るとも
(巻十二 3032)

「君がいる生駒山を見ていたいの、
雲から隠れないでよ、たとえ雨が降っ
てきても」の歌は、伊勢物語二十三段
に類歌が挿入されている。男が不在時
にも身だしなみを忘れない筒井筒の妻
と、ふしだらな茶屋の女との対比が語
られた段で、業平の目を通した理想と
心の洗練性が著わされている。
恋人を想う縁にされた生駒山、その
ロマンに満ちた生駒山を眺めて北進す
る。鐘の鳴る展望台に来て、コーヒー

の休憩をとるが、そばに「水車小屋跡」
という史跡標が立っている。

私事になるが私が幼かった戦後間も
なくの頃、祖父は石切神社奥ノ院北
方の土地で神職をしていた。生駒山中
腹の辻子谷に立つ白金滝神社(今はな
い)、朝夕折る祖父の家を訪ねる
音川沿いには当時、米穀業や製菓業に
携わる多くの水車小屋があり、絶え間
なく水車で杵を打つ音が聞こえていた。
牛が曳く荷車が坂道を登り、水車小
屋まで袋に詰めた荷物を運んでいる光
景、製菓工場で働く人が菓草薬種で作
業着を粉塵れにしていた姿が記憶のな
かにある。まだ字上石切が中河内郡に
属していた時代のことである。

辻子谷の水も鳴川谷の水もみな、流
れる末は淀川に注ぎ水都の平に昇華す
る。昔の記憶にあった風物が消え去っ
ていくことに寂しさを感じるものの、
大きく変容を遂げてきた故郷の山野の
なかで、生駒山地は発展する景観と自
然が調和して残されている。
特に生駒山と信貴山を結ぶ尾根上は、

西を望めば水都の大平原あり、大阪湾
の岸に点綴する摩天楼の林がある。そ
して登山ルートの善根寺越・辻子越・
暗峠越・鳴川峠越・十三峠越・立石越
など、どの道も散策者を夢中にさせる。
自然の樹木は豊かに茂り、野鳥たちが
山の賛歌をさえずる道が続いている。
瓢箪山古墳のくびれた部分に面して
瓢箪山稲荷神社が鎮座しているが、そ
の鳥居前の商店街を通り、近鉄瓢箪山
駅を目指す。
ひとりよがりの生駒山への思いを抱
き、この日私が歩いた山行に終止符の
時が近づいた。
(平成22年1月17日歩く)

西丹沢をテント泊で縦走

畔ヶ丸から菰釣山

田中 明

丹沢

丹沢山塊は、東から西へ、南から北へといろんなコースをこれまで歩いてきたが、今回は最西端の山城を歩いてみよう、テント泊での縦走を楽しんだ。

このコースは地味で、野球でいうならば中距離バッターばかりで大砲がいなくてこの球団に似ている。

そんなマイナーなコースにもかかわらず、テント持参で歩いてみることにしたのは、適当に水場があり、シロヤシオ・ハコネシロガネソウが咲き、富士山が展望できる。まさに花と富士とテント縦走が楽しめるという、数少ない私好みの山城であることだった。

菰釣山から富士山



ところが、J R「ムーンライトながら」の運行が毎日運行から臨時運行となり、青春18きっぷが使用期間のみしか走らないことになった。そのため、計画を大幅に見直しせざるを得なくなってしまったのだ。

日頃から関東方面の山へは常に「ながら」による夜行発としていたのだが、

今回は新幹線を利用した。そんなことから、登山口を17時に歩き始めるという無謀な行動にでた。
小田急新松田駅から西丹沢自然教室行きのバスには5〜6人が乗り込んだが、もちろん登山姿は私ひとりであり、駅から1時間ほど乗った大滝橋で下車した。まだ日が高くあたりは明るかった。

暗赤色のヤブウツギ、白色のガクウツギ・ヒメウツギなどが咲いていて目を楽しませてくれるので足も快調だ。林道をしばらく行き、いよいよ登山道にかかる。道はよく整備され、道標も完備しており心強い。初コースでそれもひとり、夕方17時30分頃にもかかわらず心細くはなかった。

歩き始めて30分で沢を渡るあたりに来て、「このマムシグサは何だ？」と見慣れない個体に重いザックを降ろしてつぶさに観察する。すぐに「ヒトツバテンナンショウ」という名を思い出した。

サトイモ科テンナンショウ属は、私の園鑑でも15種はある。山歩き中での同定の難易度はそんなに高くはない種であるが、初見のヒトツバテンナンショウは葉が1枚小葉7〜9枚で、見分けるポイントが、仏炎苞内面に特徴的な八の字斑があることだ。

さすがにあたりは薄暗くなってきており、撮った画像がピンボケで悔やまれた。でもこの山城で見られることがわかっただけでも大満足だ。

清らかな沢音を聞きながら進み、今夜のテント幕営予定地の一軒屋避難小屋には1時間弱で到着した。先着の厚木の人がベンチで本を読んでいる。挨拶して早速夕食の用意だ。目の前にはきれいな水が流れている。いつもの野菜鍋で腹を満たした。

避難小屋内を覗くと、板敷きで訪れると4人が一杯だろうが、タタキでも何人が寝ることができそう。それにしても狭い。当方はテント泊で、薄暗くなりかけた新緑のシャワーのなかでゆつたりと横になり、心ゆくまで夜



の帳に身を委ねることにした。
厚木の人は身軽なスタイルで、あすは私と同じコースを1日で歩き通すらしく、「平野まで行くので、挨拶せず4時には出発します」との話。こちらはあすもテント泊のためゆっくりの行動である。

小鳥たちの囀りで5時頃目を覚まし、あたりの新緑を楽しむ。ヤブウツギ・カマツカが咲き残るだけで他の樹木は花を付けているものは無い。イヌシヤ・ウワミズザクラ・ヤマモミジ・タンナサワフタギなどだ。それにコウライテンナンショウ・クワガタソウも咲いている。

水の流れに耳を傾けていると時はあつという間に過ぎゆく。「そうだ食事だ」と思いたず始末である。昨夜の残りものを片付けてきょう必要な分だけの水をポトルに入れ、いよいよ畔ヶ丸へ向けて出発する。

30分ばかり歩くと沢は二股となり、ここが最後の水場であるステタロウ

りない。

早々に山頂を降り、避難小屋まで戻って小屋内を覗いて見る。きれいに使われていて、7、8人は十分寝られる感じである。でも、トイレはあっても水場は無い。

さあ、これからは西へ西へと進む。このルートは磁石も不要なほど随所に道標があつて安心だ。そんなことからお目当てのひとつであるシロヤシオを存分に観察しながら行って行くと突然、左に富士山が初めて顔を見せてくれた。ここで重いザックを降ろしてしばらくカメラタイムとする。

どうやらここはモロクボ沢ノ頭手前だったようで、そのピークにはすぐ到着した。やがて、いつも丹沢の地図を広げて頭に入っている大界木山、城ヶ尾峠までくっついてきた。この時には北側の道志からけっこう多くの人が入って来るようだ。古の雰囲気あるなかなかの峠で、ここでも休んでいく。南側の信玄平方面は廃道化し、東海自然歩道も変更されたとの看板が立っている。

沢だ。「しまったー」ここで給水すればよかった。30分が余分のアルバイトだったと思うも、後のまつりである。さすが久しぶりの20+のザックはこたえる。しかし、これで進むより仕方がないと観念し、汗だくで大滝峠上ベシチまで押し上げて一本立てる。森間のなかで「これが単独行なのだ」とひとり悦に入る。

急登をやり過すと、いよいよお花が咲きだしてくる。ミヤマガズミ・ツクウルシは地味だが、紫色が濃い目のトウゴクミツバツツジが満開ですつと咲いている。ただ、やや薄紅色のミツバツツジは落花盛んであった。

シロヤシオの開花はまだかなあと思いがら歩く。畔ヶ丸避難小屋が見えてきて、さらに畔ヶ丸の頂上まで足をのばすと、シロヤシオがようやくあたりを白くしている。

畔ヶ丸山頂はそこそこの広さがあるものの、自然林に囲まれて展望は無い。三角点とケルンがあつて休日には食事広場となるようだが、きょうは人ひと

る。

畔ヶ丸からここまでの間には大小のブナ林が広がっており、シロヤシオも点々と咲く下り道で、楽しい時間帯であった。でも山はこんなに楽な道ばかりではない。この後はしっかりと登らせてもらった。

中ノ丸からブナ沢ノ頭一番はササがすこしやぶとなつており、考えごとをしながら歩くとうっかり道を失うような所があり、このコース唯一の注意個所だろう。

ややくだりにかかるブナ沢乗越という小さな標示に出合う。「ここからは水場に行けるな」と確信し、少し登ると昨年建て替えられた狐釣避難小屋に到着した。

今回三軒目の避難小屋だがみなきれいに使用されており、中でもいちばん新しいこの小屋の美しく立派なものには驚いた。(へー、こんなにきれいなわざわぎテントを持参しなくてもよかったの……)と思うほどであった。

ひと休みし、これから本日最後のア

ハコネシロガネソウ



ルバイトが待っている。空になったポトルをサブザックに入れ、先ほどの乗越まで引き返し、ブナ沢の水場へ向かった。
ところがどうだ、疲れていてこれまで見ていなかったハコネシロガネソウが、山峡の谷間が真っ白く見えるほどに咲き誇っているではないか。

人気商品紹介 ◆テクリ・エル◆

オリジナルザックも登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

従来のテクリの大型です。タウンユースからフィールドに小ぶりなディザック。しっかりした二本脚の設計。底層も強いケミカルバーを使用しています。荷重が大きく、山登りの本格仕様になりました。

★20+★
*カラー レッド×チャコール・マゼンタ×チャコール
ブルー×チャコール・ライム×チャコール

*重量 700g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥8,000+消費税

イモックを
楽しんで！

IMOCK.
KOBÉ

〒800-0009 神戸市東灘区日保町7丁目1番10号
2F / TEL 078-521-5851
TEL (078) 521-5851
FAX (078) 521-3528
営業時間 10:00-20:00 日曜日不定休

キンボウゲ科シロガネソウ属でも花びらが7、ほどの小さな純白の花だ。トウゴクサバノオ・サイゴクサバノオ・サンインシロガネソウに続いて四種目のシロガネソウの仲間に出会えたのである。もう有頂天になり、「わあ、すごいな」と誰もいない谷で花遊びが続いたのである。よく見れば、緑色の若い果実は魚の尻尾のような姿で花のそばに立っている。それに花卉状の萼片は上から覗いたり横から眺めたりしていると紫色かなと思えるものもあって、裏を見てもとそう紫色だったのだ。

すっかりハコネシロガネソウと心通わしたところで、「そうそう水を……」と思いだす始末、慌てて水音清らかな沢筋まで駆け下りて3リットルを担ぎ上げ、小屋へ戻ると45分もかかっていた。ザックがまた重くなったが、いよいよ本日最後のピークというより今回の最大の目標である菰釣山まであとひと登りの20分だ。

簡単に踏むことができたような気がした。ブナの大木に囲まれた頂上には上がるとどっかい富士も待っていてくれたのだ。「わあ、何とでかい富士山だ！」と思わず叫んでしまった。すぐにザックを下ろしてようやく心地ついたところへふたり、ひとり、結局5人がやってきたがいずれも関東の人なのだろう、こちらほどに感激した顔を見せていない。

というより、こちらのザックを見て「へーまさか、ここでテントを？」と質問される始末である。「こんな斜面より下の小屋に泊まったら」と言われてしまったが、ニコニコ笑って返した。心の中で「ほっといてよ、頂上に寝に来たのだから」と、富士を眺めながらの顔は微笑んでいたのだ。

5人が下山すると、静寂に包まれた新緑の広がる山頂でわがスペースはほしいままである。われを忘れてカメラタイムだ。ブナだ、ウリハダカエデだ、マイズルソウだと撮りまくっているのだった。

暮営は手際よく簡単にできたが、斜面ばかりで平地が無く、これには正直まいった。だが辛抱するしかない。

文庫本をペラペラ追いつながら知らぬ間に寝入ってしまった。鳥の声が目覚めるとお腹が空いている。すぐに夕食の用意だ。レトルト米を湯で戻し、野菜に豚肉などを炊きたいいつものメニューで腹を満たし、さらに果物やココアをゆつくり味わい、至福の時をのんびりと富士を眺めながら過ごした。

わが身の疲れは相当なものだったようだ。寝入ったらもう死んだも同然だが、さすがに山中にひとり寝ておられ、不安がないとは言いきれない。道理で深夜の2時頃に目が覚めた。テントから顔を出すと、漆黒のなかかと思いきやそこは満天の星が空いっぱい散りばめられており、言葉も無い。感動とはこういう時をいうのだろうか。寒いなど感じるまで首が痛くなるほどひとりぼっちで星を眺め続けている自分に気づき、「まだ起きるのは早いな」とまた眠りこけてしまった。



富士峠平の展望

アラームが鳴った。やはり、富士は紅をかけてきれいな姿で待っていてくれた。「やってよかったこの山行を、来てよかった菰釣山に」と大満足のテント泊であった。

縦ノ木沢の頭・石保土山・大棚ノ頭などの小ピークから高指山を最後に越え、山中湖の平野へ下山だ。このようにくだり主体の後継歩きのため、ゆつくりのんびり歩こうと自分に言い聞かせながらスタートする。肩の荷が軽いと感ずる。もちろん軽いはずである。食料はほとんど腹の中に入れ、水も歩行用だけだ。

どっこい、小さなピークがいくつかわれるほどに出てきて、しつかりとアップブローをかまされた。それでも富士峠平まで来てすばらしきな富士山を目にした時、思わず「バンザイ」と叫んでしまった。

この場所は山の地図に小さく「富士峠平展望よい」と表記があるが、これほどまでの好展望地とは想像していなかった。それだけに興奮度は最上級であった。

この先の高指山からの富士展望地は何度か訪れているため、感動はほどほどであった。富士のギザギザのブルドーザー道が白く刻まれているのを見

ながら「ああ、今回の縦走もこれでおしまいか」と一抹の寂しさを隠しきれない自分に気がついた。

われに戻ってこの後は麓の林道歩きをやりすこして山中湖畔の平野へ向うのであった。

(平成21年5月18〜20日歩く)

《参考タイム》

- (18日)小田急新松田駅15・50(バス大滝橋17・00)一軒屋避難小屋17・50(テント泊)
- (19日)小屋6・10―大滝峠上6・50―7・00―峠ケ丸8・00―大界木山9・10―20―城ヶ尾峠9・35―中ノ丸10・20―30―菰釣避難小屋11・10―25―水場11・40―45―避難小屋12・15―25―菰釣山12・45(テント泊)
- (20日)菰釣山5・10―縦ノ木沢の頭6・45―7・00―大棚ノ頭7・55―8・00―富士峠平8・45―55―高指山9・05(昼食)9・45―平野10・35

《地図》昭文社「丹沢」

三角点を訪ねて 64

福井・滋賀県境の山

連載

点名「滝ヶ谷」へ

湖北

磯部 純

点名「滝ヶ谷」にて



滋賀県最北の2万5千圓「板取」を広げてみると、滋賀県内には500以上の二等・三等三角点が五つある。点名「音波」「恋谷」は踏んでいるので、未踏の三角点は三つ。そのうち上谷山は無雪期にはアプローチが長いうえ、ササやぶが厳しくて簡単に登ることができそうにないが、点名「滝ヶ谷」「大音波」は登れそうに思えた。前年11月に高島さんの例会で点名「石留山」へ登った時、間近に滋賀・福井の県境尾根から南へのびる尾根を見たが、その尾根上にある送電線巡視路を使えば、上谷山の西にある「滝ヶ谷」へ登ることができると考え、やぶ山を厭わぬ人達に声を掛け、「ブナ林を歩き、踏んだことのない三角点を訪ねる山行」を計画した。

待っていつしよに走ることにした。国道365号を北へ向かい、中之郷、柳ヶ瀬と過ぎると、後ろに守山の彼の車もついている。樺坂峠を越えようと、集合場所の中河内はすぐ、8時35分の到着だった。

広場には名神で来た大兄が待っていて「来るのが遅い」と怒ること怒ること。先に来て、登山届を出していたと聞くと何も言えず、ただただ遅れたのを謝るしかない。集まったのはいつもの新ハイメンバー12名。「滝ヶ谷」へのコース説明をし、高時川・針川出合へと移動する。

9時5分、出合を出発する。一等三角点の師三谷氏から「針川林道の橋が決壊していて、最初の渡渉から苦勞した」と聞いていたが、出合からすぐ谷を渡る所には新しい橋が架けられていて拍子抜け。橋を渡り、水量の多い針川右岸の林道を北へ進む。

林道は草ボウボウに荒れていて踏跡があるだけ。ぬかるんだ林道端には腰高のシヤクの花が途切れることなく続

く。シヤガやシヨウモンカズラも点々と咲いており、ニヨイスミレ・ニリンソウ・カキドオシ・ミヤマキケマン・ムラサキキケマンの花も見た。上流へと歩くと、大ききのびたコゴミの群落がアチコチにあった。

25分で谷二股。右俣の左岸へ渡る橋はシンカリしていたが、右岸へ渡る橋は半壊状態。何とか渡り、すぐに左俣を右岸へ橋を渡る。そこにはワサビが生えていたが、それを採る楽しみは帰りに残して先へ進み、50歩も歩くと最後の橋。倒壊した橋げたを伝って落ちないように左岸へと渡り、踏跡を奥へと進む。300歩もぬかるんだ踏跡を歩くと道は登りにかかる。見事なトチの大木を見て、右手から来る谷を渡って登り返すと、20分程で堰堤に出合う。上を見ると送電線が走っていて、道脇にはポールが立っている。「火の用心」の標識は無いが、斜面に踏跡がのびているので、ここが巡視路の取付点なのだろう。

標高は400歩。ここから標高差

380歩の急登が始まる。物集女の彼に先導をお願いして、急斜面をゆつくりとジグザグに登っていく。しっかりとしていた巡視路も、登るにしたがって不確かになってくる。

フウフウ言いながら20分も登ると、早や「休憩」の号令。ここで標高を測るとまだ標高差125歩しか登っていない。あたりは雑木の林でオオルリの囀りも聞こえてくる。どこの巡視路にも見られる階段の人工物が全く見られない斜面だった。

登り始めると、道の右手に小さな谷があり水が流れていたが、こんな高所で蛙の鳴く声が聞こえてきた。微かな道跡を探しながら登る足元にはヤブレガサが葉を開き、チゴユリ・ユキザサの花、目の高さにはユキツバキ・ツツジの花も見た。巡視路かけもの道か判別できないような踏跡を探しながら、汗してジグザグに登ること55分。道が左手へ向かい前方が明るくなると、送電線の鉄塔広場へ出た。この広場から南方の展望が開け、目の前には点名「大

音波」から手前に流れる尾根が横たわり、その向こうに大黒山がそびえている。左奥には妙理山が黒ずんでいた。雑木の林のなかの遊歩路を登ると、すぐ上は送電線が折れ曲がっている二つ目の鉄塔。そこから北へとゆるい尾根がのびていて、その尾根にそって送電線が通っている。すばらしいブナ林を歩くのを楽しみにして来たが、何と送電線の下は50メートル幅で林とやぶが伐採され、広い帯状の草原と化しているのではないか。わかりにくくなった遊歩路



を北へと登ってゆく。伐りとられた平野にはササの竹の子が始めのめいて、2、3年もすると、広いササ原の尾根に変わってしまうのだろうか。遊歩路は尾根上にあり、送電線が尾根から離れた所で、ブナ林のなかを通っている。その林にはびと踏えもあつたようなブナの大木が立ち並んでいる。期待したブナ林を歩くことはできなかったが、少しの間だけでも採集の準備に残るブナの大木を眺めて登ることで、ブナ林を歩く満足感を味わう。

五番目の鉄塔を過ぎると間もなく伐採地は終わり、再び雑木の林へ入る。その林の奥が六番目の鉄塔。ここから送電線は右へ折れ、谷を横切って頂上尾根へと渡ってゆく。この鉄塔広場からの展望はすばらしく、すぐ北には手の届きそうな所に点名「滝ヶ谷」のゆるい盛り上がりが見え、尾根続きの右手側道に上谷山が見えている。東には昨年登った、上谷山から南に流れる尾根にある標高1041メートルのこもりとした登山道があり、南には大黒山、その左に妙理山、横山岳と並び、さらにその左奥に金巻岳も黒んでいた。時間はいよいよ、昼食は三角点でとることにして歩き出す。雑木の尾根を登り、遊歩路への上り遊歩路も少しづつからして来た。オオキクノキ、サマズミが咲いていてキムシバの花も残っている。方向を東へ変えると、いったんゆるく下りだして登り返す。「このあたりの高い位置に三角点があるはず」とキョロキョロしながら歩き、道なりに

左へ曲がり、その先の右手に曲がる箇所での何の気なしに左下を見ると、何と遊歩路より低い場所に三角点が立っているではないか。歩き出して3時間、三角点へは12時の到着だった。

点名「滝ヶ谷」、三等三角点で標高は988.8メートルであるが、これが南の高い位置に設置されていれば990メートルを超えていたのは確実で、残念に思えてならない。標石は南西向きで南から西へ60度振っている。伐採地にあつたので大きく見え、測ってみると、角柱の頭は15.5メートル四方もある。

展望の無い三角点上の遊歩路に坐り込み昼食とする。13時までの1時間の休憩。食べるものを食べてしまったら、残り30分もあつて、9人が東の鉄塔まで行くことにする。コシアブラを摘みながら鉄塔まで行くと、これも送電線の下は50メートル幅程に伐採されて平原となつている。ここから尾根を伝え、あまり時間をかけずに駆けそうなる距離に上谷山が見えている。13時5分には下山開始。登りに目を

けた山道を降りながらの下りだ。女性達はコシアブラの新芽を争うようにして摘んでいて遅々として進まない。先頭を歩いている山道は無心な大兄は、皆が来ないのでイライラのしこおし、そんな大兄の気も知らず、やっと六番目の鉄塔までくだった。ゆるい平原状の尾根で遅れていた2人がウツを見つけてまたまた遅れてしまう。それでも一番目の鉄塔には50分までくだる。ここでひと息入れて、これからの急斜面の下りに備えた。

14時、登りでは何とかなどることできた遊歩路も下りでは道跡がわかりにくい。ゆっくりくだっているつもりでも、私は早くなるように、後ろからは「早過ぎる！ 間が空く！」と叱られっぱなし。そう言う彼女達はサンショを見つけるとそれを摘むのに忙しく、私が早くて間が空くのではないことに気づいてくれない。ゆっくり歩いたつもりでも、一番目の鉄塔から取付点まで登り55分かかったのに、35分下りてしまった。膝はガクガク。

林道へ出れば、後は橋を渡るのに注意するだけでよく、花はそつちのけでワサビやサンショの葉を摘みながら行く。最後の出合広場でイタドリを摘んで、この日の山行は終了。尾路、安曇川の道の駅「藤樹の里」で、あんなに多くの山道を歩いたのにまだ足りないのか、山女から主婦に戻った彼女は、「この野菜は新鮮で安い」と言い、山ほど買ったのには、聞いた口が事ながらなかった。

(平成20年5月9日歩く)
〈コースタイム〉
 中河内集落広場(車15分)高時川・針川
 出合(25分)谷二股(20分)遊歩路登り
 口(1時間)一番目送電線鉄塔(15分)
 六番目送電線鉄塔(15分)点名「滝ヶ谷」
 (50分)一番目送電線鉄塔(35分)遊歩路
 登り口(40分)高時川・針川出合
 八地形図V2万5千中河内・板取

旗振り通信の新研究⑬

連載

伊賀市で新発見の旗振り山Ⅲ

柴田昭彦

【伊賀市長田の見遠山について】

平成12年12月18日の産経新聞に森林地図の一般販売開始の記事が載り、20日に近畿中国森林管理局で索引地図などを入手した。

その索引から、上野市(現在は伊賀市)に「見遠山国有林」があることがわかり、国土地理院の「点の記」を入手して、四等三角点「見遠山」(標高3133)であることがわかった。選点は昭和33年で、普通埋石されているが、樹上測標とあり、周囲が樹木に囲まれている

ことがわかる。28日、上野市教委に見遠山について問い合わせをしておいた。平成13年2月8日、上野市教委の山崎寧子さんから、上野市長田の見遠山についての調査結果が届いた。

「長田郷土史」(中村竹次郎氏遺稿(巻)、長田公民館、昭和51年)に次のような記述があることがわかったという(ルビは追加)。「見当山 長田寺内区にあり全山松樹蒼然として繁茂し眺望まことに佳し旧藩時代藩主も遊山せりと西島八兵衛の造りし八兵衛坂に通じ旧

藩時代に見当を振りたるに依り此の名起る昔日は松茸山としてもにぎわへり(明治二十年編纂村史による)」
しかし、見当山と見遠山との関係はわからず、「見当」の意味も全く不明であった。
平成14年3月、「見遠山国有林」の森林地図を入手したが、見遠山が米相場の旗振り山であるのかどうかは不明のままとなった。

【見当山は旗振り山だろうか?】

平成21年3月になって、伊賀市大山田地区で、従来知られていなかった旗振り山である「下阿波ケント山」と「上阿波ケントヤマ」が発見された経緯については、既に報告した。

3月27日、下阿波の屋号ケントの坂本才子さんの曾祖父は、ケント山(見当山)の山頂で米相場の見当を振っていたことがわかった。

三重県下には、鈴鹿市の岸岡山(別名「見当山」と津市一身田上津部田の「見当山」がある。どちらの山頂にも筆者は、平成21年4月12日、伊賀市上野図書館で、見遠山について、改めて「長田郷土史」「長田村報」などの文献調査を行い、坂本さんの証言から推定して、「旧藩時代に見当を振りたる」というのは、米相場の見当である可能性が高いと考えるに至った。

長田村役場編輯「長田村報第十八號」(昭和四年九月十七日)には、「長田郷土史」の見当山と同様の記述があり、明治20年編纂村史によったことがうかがえる。内容は次の通りである(原文のまま。ルビは追加した)。「見当山(大字長田寺内區) 全山蒼然として繁茂し、眺望殊に佳ろし。舊藩主藤堂公履々遊山あらせられたところ、で彼の西島翁の間鑿せられたといふ八兵衛坂、これに通じて舊藩時代に此所で見當を振つたといふことである。」

【長田の三軒家での聞き取り調査】

伊賀市長田の見遠山の南麓に、三軒家という集落があり、地元で聞き取りをすれば、何か山名の由来がわかるの

松があり、航海者が海上から見当をつける目標になった山であり、両方とも旗振り山でもあった。

それでは、「見当山」は、すべて米相場の旗振り山なのであるか?

川合隆治「旗振り通信について」(三重の古文化第48号)三重郷土会、昭和57年)の中には、次のような興味深い記述があった。「津市一身田区域に見当山という小山がある」「見当山という名の付いた山は旗振りに関係のある山と考えてよいのではないだろうか。鈴鹿市岸岡山字見当山、岐阜県高鷲村鷲見の東にある見当山、一宮市今伊勢町目久井見当山古墳(全長七〇m)など。」

しかし、筆者の調査では、この四例のうち、旗振り山は津市と鈴鹿市の二例だけであった。

各地の「見当山」の由来は次の通りである。

○米相場の見当を振つた山

(伊賀市大山田地区の二つのケント山)
○周辺からよく目立ち、目印になった

山

(岐阜県郡上市・高山市境の標高1352の「見当山」旧高鷲村・旧莊川村境)

○入港する船の目標になった山

(滋賀県余呉町へ現在は長浜市Vの大黒山の別名、見当山)

○外国船の監視をする見当場(見張場)

(福井県あわら市の見当山)

○戦国時代の狼煙連絡場

(滋賀県本之木町へ現在は長浜市Vの興枯ノ峰、見当見山)

○倭姫命が山上から伊勢の方向の見当をつけたという伝承のある方角山

(愛知県一宮市今伊勢町本神戸字目久井の見当山古墳)

○昔の測量で、高い見当杭を頂上に立てた山

(滋賀県湖北町へ現在は長浜市Vの山本の別名、見当山)

○山上から、道路計画の見当をつけた山

(北海道室蘭市の測量山の田代、見当山)

ではないかと考えて、現地調査に出かけることにした。

平成21年5月3日、鳥ヶ原駅前からバスに乗り、三軒家で降りた。ここは三山の姓が多い。まず、三山勲夫さんの奥さんに話を聞いてみた。

○見遠山の「見遠」のいわれは、地元でも、知っている人はいないと違うから。山のてっぺんで、見遠を振ったというところらしい。

○見遠を振ったというのは、近くにあら高旗山と同じような役目をしてたのと違うかな。

○ここは大和街道筋だから、荒木又右衛門とか、武士が通るのを、見遠山から眺めて、見張りとかしていたことと関係があるのかもしれない。

○すぐ近くに「見とどけ地蔵」というのがあって、関係あるかどうかかわからないけれど、この地蔵さんは、行人の旅の安全を見とどけてくれたらと思う。

○先日、子どもたちが、先生から出た宿題で、何で「三軒家」という地名がつい

たのか聞きに来た。元は三軒しか家になかったからだ。茶屋が三軒あったからという人もいるが、私は違うと思う(地名は三軒茶屋になる)。

○二軒隣の三山悦司さん宅の82歳のおばあさんなら、知っているかもしれない。

そこで、そのおばあさんを訪ねて聞くと、由来は知らない、国有林やから、管林署で聞いたらわかるでしょう、というお話でした。

次に、稲荷神社に移転する前に、見とどけ地蔵があったという三軒家橋の近くの三山和正さん宅(先祖が三本松茶屋を経営した家)でインターホンを通じて聞くと、知らないという返答であった。次に、三軒家橋を渡り、茶屋跡へ向かう道に入る。すれ違った奥さんに尋ねるが、由来は知らないという。

次に、三山光俊さんが外におられたので、話を聞く。由来は知らないという。米相場に関係があるかどうか調べていることを話すと、調べてもらって歴史としてきっちり記録を残してもら

いたいと要望された。

道を少し上がり、夫婦で畑仕事をさせている三山優さんに話を聞いてみた。優さんは、いろいろなときに聞いたことを話してくれた。次のような内容であった。

○遠いところを見渡すのに使った場所だと聞いている。見遠を振ったらしい。○笠置や木津方面へ、山頂で煙をたいて通信をしたとかいう話を聞いたことがある。

○近くに「見とどけ地蔵」がある。元の場所から移転して今は稲荷神社にあるが、見遠山の名前は、これと関係があるかどうかは、よく知らない。関係ないのかもしれない。

○米相場と関係があるのかわかれば、何か、うわさのような感じで聞いたような気がする。誰から聞いたとか忘れてしまったが、うちの先代や近所の人たちだったと思う。

○いいかげんな話を広めてしまったらいけないので、歴史の語り部をしている百上さんに確かめてもらったら、米きりしたことはわからないだろうと判断して、打ち切り、見遠山の現地踏査に取りかかった。

三軒家の北へ向かい、アルミリサイクル上野工場と浪速軽金属工業所上野工場との道から見遠山林道に入り、北へ延々とどつていった。地図に明確に載っている送電線が全く見えず、岩倉峽の見える場所まで出てしまった(足下危険)。引き返して、途中の登りやすそうな場所から、林道を離れて道なき道を登り、尾根に出て南方方向に登っていった。

やがて鉄塔跡地らしき平坦地に着いた。送電線が見当たらないのも当然で、鉄塔はすっかり撤去されてしまっ

相場との関係はわかるのと違うかな。
○語り部は、長田の百田にある西蓮寺の北、こんびらさん(金毘羅大権現)の下の辺りの家、百上進一さんで、市役所を退職して2年になるが、長田の市場は昔、木津川のほうから船が上がつてきていたところで、上野の町に米屋があり、そこを取り引きしていたといったことを語られたのを聞いたことがある。

こういった貴重な話をしてくださって、筆者が地形図を出すと、百上さんの家の場所を教えてもらえた。

以上のような三軒家の人の話を総合すると、次のようなことが見えてくる。
○地元ではつきりと「見遠山」の名前

の由来を知っている人は見当たらない。
○「見遠」が「見とどけ地蔵」と関係しているように誤解している人がいる。
○「見遠を振った」というようなうわさは残されている。
○山頂で見張りをしていたと考える人がいる(いつの時代かはさまざま)。
○近くの「高旗山」と同じような役目をしていたと考える人もいる。
○山頂で煙をたいて通信をしたという話は、のろしとも言えるし、米相場の夜間通信で使った松明振り(火の旗)とも解釈できるが、事実はいわからない。

きりしたことはわからないだろうと判断して、打ち切り、見遠山の現地踏査に取りかかった。

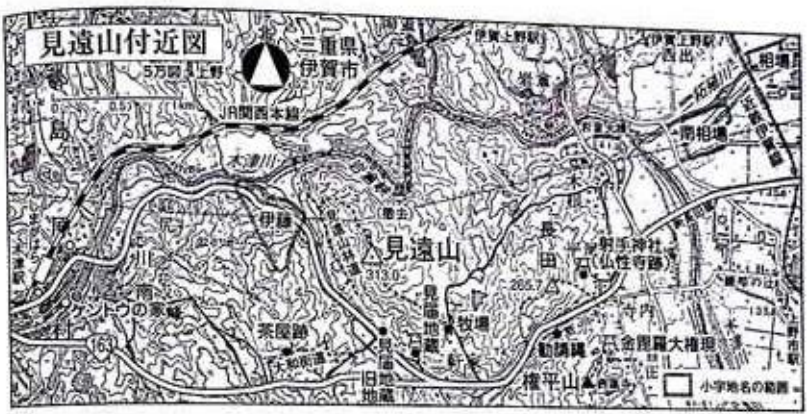
生駒山

〜歴史・文化・自然にふれる〜

新刊
奈良と大阪の境にあり、豊かな自然とともに数々の歴史と文化を育んできた生駒山。その知られざる見どころを紹介。

極上の山歩き
〜関西からの山12ヶ月〜
草川啓三 文責
春夏秋冬ひとの心をとらえる珠玉の山の中から、達人が薦めるランキング上位の30山を新スタイルでガイドする。

ナカニシヤ出版
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 予606-8161
www.nakanishiya.co.jp/



た。そこから、さらにフェンス沿いに高い方に向かった。
 ようやく、「山」と刻まれた標柱の立つ山頂らしき地点に出た。展望はあまりないが、樹間越しに高旗山が見え、場所も小広くなっている。三角点の場所は、ここよりさらに少し南の場所らしいが、それらしい地点では展望は全くない。似たようなピークが複数あり、最高地点もはっきりしない。
 見晴らすために使用したのは、標柱のある小広い場所だろう。尾根道は比較的明瞭で、途中、枝道があるが、南東方向にくだと、吉田牧場に出られる。山頂を目指すには、ここから登るのがいちばんわかりやすそうだ(マスクがあると便利である)。山頂から吉田牧場に向かう道は幅もあり、古くから開かれて使われていた道であるように感じられた。
 標柱の場所で米相場の見当を振ったとすれば、真北に見えている高旗山と通信したとみて、間違いないまい。連る樹木がなければ、広大な展望所としてふさわしい。

「三軒家の見とどけ地蔵について」
 牧場から南下して国道163号に出合い、三軒家に戻り、三山殿夫宅の裏側の稲荷神社に祀ってある「見とどけ地蔵」を見に行った。
 伊賀市教育委員会の説明板には「天正の伊賀乱に射手神社が焼かれたとき心霊が火だるまとなって東の仏生寺の方向へ飛んでいったのをこの地蔵が見とどけた」という伝説があります」と書かれていた。
 この内容では、地元の人、他人に聞かれて正しく伝えることは難しいだろうと感じられた。「見遠」と「見とどけ」を混同するのも無理はない。この見とどけ地蔵があったという三軒家の西端の地点は、射手神社(長田の平尾地区)の旧社地であったという。
 「歴史の道調査報告書Ⅲ-1(大和街道)」(三重県教育委員会、昭和58年)には、「天正九年(一五八一)の信長の伊賀攻めにより、射手神社旧社地に祀ら

れていた社殿も焼かれた際、神霊が火だるまになって飛んで行くのを、この地蔵が見とどけたと言」とあり、巻末地図では「見届地蔵」の表記である。

「百上さんへの聞き取り調査」

三軒家から国道を東へたどる。車の往来が多い。途中、南側の川をまたいで、平野小場の勸請堀がかけられていて珍しい。寺内の集落で南に向かい、百田の百上進一さん宅を目指した。百北さんの隣が百上宅であった。

いがうえの語り部の会の会員として二年余り、伊賀上野観光のボランティアガイドとして経験一年余りという進



見とどけ地蔵(三軒家)

一さんは在宅しておられた。見遠山の由来について尋ねると、残念ながら、よく知らないとのことであった。
 「長田郷土史」については、著者の中村竹次郎さん(故人)の家が近いということ、もちろんよくご存じであったが、文中の見当山について確かめたことはないとのことだった。見当山の記述の典拠として出ている「明治二十年編纂村史」にも、「長田郷土史」より詳しいことは載せていないでしようと言う。
 百上さん自身は、郷土の歴史を調べている人が長田にはいないので、少しでも調べて伝えることができたかと考えて、語り部の会に所属しているということであった。

「間遠姓と見遠山との関係」

百上さんは、「長田郷土史」の見当山の説明で出てくる八兵衛坂は、江戸時代の初めの土木技術家、西嶋八兵衛(1596-1680)に由来する道だ」という。西嶋が正字だが、略字の西嶋

と書く文献も多いようだ。
 見遠山の尾根から吉田牧場辺りを経由して、尾根筋から、射手神社の南の辺り(平尾地区)に下りてくる道があるという。この道筋は袖道であって、八兵衛の開いた道ではなく、坂の近くに八兵衛の屋敷があったことが、八兵衛坂の由来なのであった。その麓近くの平尾地区に、間遠三三夫さん宅があり、見遠山と何らかの関係があるのかもしれないという。

百上さんからいただいた住宅地図のコピーを利用して、平尾地区の間遠さん宅を訪ねてみた。不在なので、隣の家へ聞くと、奈良市に転居されたという。5月3日当日の調査はここまでで打ち切って、帰宅した。

電話帳ソフトで確認すると、全国に間遠さんと見当さんはいらなかつた。見遠さんは全く見当たらなかつた。間遠さんは、伊賀市長田、尾鷲市、奈良市、京都市、静岡県磐田市・周智郡だけに見られる姓である。「間遠」は通常「まど」と読むようである。大山田地区



見遠山 (三軒家)

では、屋号ケントから旗振りさんの子孫が見つかったが、こちらはいかがであらうか？

5月22日、百上さんから20日付の手紙をいただいた。間遠二三夫さんは奈良市に移っており、百上さんが電話で

の鉄塔があった場所、約2755で見当を振って、米相場を知らせていたというのであった。鉄塔は2年前に撤去されたという。

8月5日、政憲さんに電話で確かめてみると、旗振りの場所は山頂で、伊藤山は旧字名による旧山名であり、見当を振るようになってから、見当山と呼ぶようになったという。昔はハゲ山で見晴らしが良かったようだ。幕末から大正時代のことであった。

「鳥ヶ原の昔を訪ねて」(鳥ヶ原中学校第二学年研究記録、昭和46年)の12頁では「三軒屋」の北東の山が「伊登山」になっている。「鳥ヶ原村史」(昭和58年)の小字図(199:550頁)では、見遠山の三角点の西方750m付近から北側一帯が小字「伊藤」である。三軒家は、射手川、いと川とも呼ぶ。現字伊藤に由来するという(村史50頁)。笠置では、高旗山が直接見えないので、見遠山を中継して、米相場の情報を得たという。また、南山城村の田山にも米相場の中継所があったとも聞い

聞いたところ、姓の由来は知らないことであつた。

間遠さんからは、吉川英治の小説「宮本武蔵」の中で、柳生から伊賀へ抜ける途中に、「間遠の渡し」が出てくることを聞かされたというが、文庫本を通覧しても「間道」しか出てこない。ちなみに、伊勢湾を横断する七里の渡し(別名は「桑名の渡し」「熱田の渡し」「宮の渡し」「間遠の渡し」)である。

「鳥ヶ原のケントウの家の発見」

平成21年7月19日、名張市立図書館の郷土資料室で四日市の資料を確認していたら、伊賀の國地名研究会の米澤範彦さんに会った。

米澤さんは、旗振り山関連情報として、①名張市文化財調査会委員の水口昌也先生から、鳥ヶ原での旗振りの話を知っていると聞いたこと、②「加太越奈良道見取絵図第一巻上・下」(平成10・11年、東京美術)(原本は東京国立博物館所蔵、寛政年間(1799-1807)序)に畑山、高畑山があり、

ているという。笠置も田山も具体的な中継場所は聞いていないようである。

笠置で知られている旗振り地点の相場の峠から見遠山は見えないので、笠置町には、他にも中継地点があったのであろう。

南山城村の田山に旗振り場があったかどうか、8月6日に同村教育委員会に尋ねてみたが、資料は無く、不明のままである。

政憲さんの祖父、政太郎さんは農業を営んでいたが、国有林の監視人をしていて、物知りであったので、政憲さんに、旗振りの話などをよく教えてくれたのだという。今でも生きていたら120歳だということから、明治23年(1890)頃の生まれなのだろう。東京オリンピック(1964年)の後に亡くなったという。

8月7日、ケントウの家と呼ばれている菊岡邸に電話してみた。奥さんの多美子さん(昭和21年11月生まれ)が応対され、水口先生から話を聞いたことがあがるが、父も亡くなり、詳しいこ

拓植の旗山・上野の高旗山と一致すること、③「郷土の小字名」(三重県職員郷土史クラブ編)で「上野市新居地区」の南東部(東高倉、服部川の北岸(伊賀鉄道の東)に「相場」、南岸(伊賀鉄道の西)に「南相場」があること、以上三点を教示された。

このうち、②は既知の情報の確認である。③は、伊賀市上野図書館における後の調査で、市役所作成の「上野市大字小字名一覽」を調べて、「相場」「南相場」の読みであることがわかり、河川の合流点の意味であった。

①は貴重な情報と思われたので、7月27日に伊賀市鳥ヶ原奥村の水口先生宛に手紙を出し、返事待ちとなった。

8月3日に水口先生から返信が届いた。役場に勤めていた鳥ヶ原川南の村主政憲さん(昭和11年生まれ)に聞いた話として、鳥ヶ原町の菊岡邸(鳥ヶ原郵便局の隣)はケントウの家と呼ばれていて、先祖のケントウと呼ばれる人が、長田の見遠山の山頂(313)または伊藤山(伊藤は字地名、山頂の北

とはよくわからないという。多美子さんの曾祖父は字をケントウと言いつ、見当を振っていたことを聞いていたが、場所や見当のことは知らないということであった。見当とは棒でしょうかと話されたほどである。

8月13日に多美子さんから連絡があり、お寺さんに調べてもらったところ、曾祖父の名前は、徳左衛門と書き、慶応3年(1867)9月7日生まれで、明治44年(1911)6月8日に亡くなり、享年45歳とあるということだった。正しくは、徳左衛門だろう。先祖に同じ名前の人がいるようで、幕末期の旗振りは曾祖父の父が行った可能性が考えられる。

以上のようなわけで、伊賀市長田の見遠山では、南麓の三軒家ではなく、西に離れた鳥ヶ原の菊岡家が米相場の旗振りをしていたという事実が裏付けられて、終着点に到達できたのであった。

(つづく)

(平成21年8月14日成稿)
(平成21年9月17日修正)

登山ファクションの聖山

連載
ソウル・道峰山②〈完全版〉

韓国

ヨシミスポーツ 吉見英樹

ソウル市内からとつても近く、大きな岩峰を渡り歩くアルピニズムな山容と、スリリングな登山が楽しめる山である。

ザイルを使わない通常の登山として雪岳山の兄弟分にあたるが、トボン主稜線の岩稜アップダウンはとてつきつく、縦走するには、強い脚力と恐怖感に打ち克つ勇氣が求められる。

登山口のトボン地区は登山者の一大基地で、道の両側には数え切れないぐらいの露店・食堂・登山専門店が軒を連ねる。

このような登山地の光景は日本には存在しないので、一度は訪ねたい必見の価値がある。

交通アクセス

地下鉄1号線で道峰山駅下車、中心街ソウル市庁舎駅より約50分。駅から登山口まで一日中、京都の行楽地並みの人手があるので流れに沿って歩く。

登山はトボン地区登山口から各峰を廻峰して戻るのが約6時間はかかる。

コース

昨年、家内といっしょに登山した(109号・65ページ参照)が消化不良だったため、今回、友人のN氏と完全登山を計画した。

11月初旬としては天気恵まれ、暖かい朝であった。道峰山駅に到着したのが10時前、駅を出ると、トボン山の巨大な岩峰が目飛び込んでくる。「ヨッシャー」と、登山意欲が湧きあがってくる。駅前は平日でも登山者で溢れ返っている。電車が着くことに人が湧いてくるのだ。

人の流れにのり、山に向かつて歩き出し、帰りに寄る食堂を物色しながら行くが予備運動となる。昼食用のキン

バブ(韓国風巻き寿司、一本120円)とキュウリを買い込んで、食堂街を抜けると、20分位で登山口の票売所になる。

この周辺はいちばん立地の良い所で、食堂も少し高級になり、日本人でも抵抗なく入れる雰囲気である。また、登山専門店はノースフェイス・NEPA・ミレーなどのブランド専門店ばかり。実際、パンツで1万5000円、ジャケットで4万円が通常価格なので、日本より高いものを売っている。

入山料を払い、山中に入ってゆく。30分は、渓谷沿いの遊山者向けの舗装遊歩道を歩くことになる。紅葉は見事に色づき、白い花崗岩の渓谷と真っ赤な紅葉が、秋の柔らかい日差しが逆光となり、透き通ってさらに美しい。

途中にトボン書院がある。韓国の書院は独特の儒教文化から成り立ち、簡単にいうと氏族塾である。朝鮮時代に氏族の若者が勉学に励み、科擧に合格し、中央官僚を目指していく教育的な建物になっている。土壌で囲まれた高床式の質素なお堂である。

ここを辞すと、渓谷の合流点に立つ金剛庵に着く。昨年は家内とここに来て道を右にとったが、今回は左にとり、トボンジュヌンソン(道峰主稜線)を指すことにした。岩つばいが勾配が少なく、いたって歩きやすい。

票売所より歩くこと1時間30分で主稜線に着いた。尾根筋に出ると反対側に北漢山の白雲台・仁寿峰が見える。尾根を渡って吹く風もきょうは冷たかない。この合流点を北にとり、最高峰紫雲峰(740)は登山口からの比高660に向かう。

ここまで鼻唄交じりの山歩きであったが、これからの主稜線はゴツゴツした岩尾根の恐竜稜線になる。岩を廻り込む、鎖をつかむ、鉄階段、無数にある大小のアップダウンなど、直線上では遠くないが、峰々を乗り越えて行くのは想像するよりはるかにきつい。

カルバウイを過ぎると、左手に五峰(ポコポコと正しく五つの岩峰が続くポイント)が見える。五峰への分岐を通り過ぎ、チュン峰に到達すると、神仙

台とトボン地域にすつぱりと切れ落ちる。標高差300を超えらるだろうか、

巨大な仙人峰の岩壁が見える。見事な岩壁だ！ 昨年の家内と見たのは、反対側からの風景だということがわかる。

もう近いと思ったのが間違いで、神仙台へはまたもや大きくくだり、また岩壁に設置された階段を登って行かなくてはならない。

私達はさすがにくたびれ腹も減ったので、鞍部で昼食をとることにした。キンバブを頬張り、N氏と「トボン山は甘くないな」と呟いているそばを、韓国トレッカーはピシピシと通り過ぎて行く。

韓国は女性のひとり登山が多く、また若い。20〜30歳代がとても多い。チェジウさん並みにスタイルがよいので、おもわず後ろをついて行きたくなる。「道がわからないから案内してくれないか」と声を掛け、韓国での山歩き友達をつくりたくなるのだ。しかし、声を掛けられない、マジで大きな理由がある。それは体力・スピード差である。



つかんだワイヤーを滑らせながらく
だつていく。すごい高度感だ。おもしろい、久しぶりに興奮する。
コースは、両方通行で反対からもほとんど登ってくる。と言うよりは、反対方向からのほうが、このルートの主流のようで、私達は流れに逆らつて歩いていることになる。反対からのほうが、難所を登りで使えるから、当然安全である。ルートとりとして、

私達が逆行していることになる。
こうなると、すれ違いが大変で、多勢に無勢。下山する私達は待たされる
ことが多くなり、こんな危険箇所
なり不利になるが仕方ない。鉄棒に足を固定して踏ん張り、じつとコースの空くのを待つては進む。その繰り返してくだるることになった。
V字キレットの底にやつと到達し、いったん体制を立て直して登りにかかり、やつとのことで、対岸の岩室頂上にたどりついた。「いや、おもしろかったですね」と、N氏も満足げである。この場所は昨年家内と来て、登頂を断念して帰った所だ。
すばらしい展望の岩場に腰を下ろし、カラカラになった喉を潤してのひと休養する。そしてマンウオル寺へのくだりにとりかかった。
ところが、途中にある稜線コースと設置階段コース(昨年家内と登った安全コース)の分岐で、せつかくだから稜線にしようと思ったのが、最後に載きを受けるもとなつてしまった。

またまた現れた60度近い50度を越える岩場を三つ。ワイヤーをつかんでの権下りをまたやらされてしまった。握力も衰えてきたので、途中で「正直、コースどりを失敗したな」と言ってしまった。岩棚に食らいつくマンウオル寺の瓦屋根が見えたときは、ホンマのところホツとした。「Nさん、もう大丈夫ですよ」後は谷間をポチポチとくだるだけである。
溪谷の紅葉を楽しみながら歩くと、登りに通ったトボン書院の分岐に着いた。後は一目散に食堂に行つて反省会だ。
きょうは豆腐専門店に転がり込んで、野菜生豆腐を当てる、ビール・マッコリで総仕上げをした。
小1時間呑むと時刻は17時近かった。しかし、この時間帯でも下山してくるトレッカーが多く、人の流れに絶え間はない。
さすがに韓国でいちばん賑わう山、トボン山である。
▲コースタイム▲略

彼女らはメチャクチャに早い、どんな岩場でもとても早い。ついでにいたら、こちらが大怪我をしそうなスピードなのだ。日本の遺暦おじさん登山者は、ただただ眺めるだけで満足しないと駄目なのだ。食事を済ませた後、もうひとふんばりするにした。
ヒーヒー言いながら神仙台へ着くと、眼前の最高峰紫雲峰の狭い頂上は鈴なりの人だかりだ。「ヒヤホー、アイゴー、ヤー」とか、賑やかな声が聞こえてくる。「ヨッシヤ、もうちょつとやー」さらなるアップダウンを乗り越え、最高峰の肩に到達した。
ここからは、切れ落ちた岩場に取り付けられたワイヤーや鉄棒に命を預け、トラバースして頂上直下に出る。直下にはトボン山荘からの直登ルートがあり、やはりこちらもワイヤーや階段のみの急勾配のコースのようだ。時間的にも体力的にもこの直登ルートのほうが楽かもしれない。実際、この短縮直登ルートには人が多い。
さて、紫雲峰へは急勾配の岩場をワ

ワイヤーをつかんで、もうひとがんばりで到着した。昨年、断念した頂上へ着いたのだ。上はもう人でいっぱいだった。ここに立てただけで元気が出た。
展望は360度で最高！ 眼前に切れ落ちる大絶壁萬丈峰が見え(ここは進入禁止、振り返れば遠く白雲台、水落山が見える。目いっぱい頂上を楽しんで後、今回のハイライトであるボテ稜線へのキレット越へと向かった。
この岩稜の裏には、回避階段コースもあるが、N氏も「折角だから、気合を入れて行つてみようや」となり、アタックすることにした。ルートは全てワイヤーと鉄棒であり、垂直に近い岩壁を、落差100m近くいったんくだり、30mをまた這い上がるというコースで、ワイヤーを離したら一巻の終わりだ。
まず岩の上上がる、向こう側を見ると、ズバツと切れ落ちた岩場にワイヤーが糸のように見える。これをくぐるのか？ 腹をくくつて、N氏を先頭にくだつていった。鉄棒を足場に、

アタッテ痛い靴の中広げ します

靴底張替承ります!





OUTDOORS SHOP
と 球 の ヨシミ
YOSHIMI



通販も可能です。

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
<http://www.yoshimisports.co.jp/>

TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:00~PM8:00 日曜は17:00まで

毎週木曜日定休

司馬遼太郎記念館を訪ねて

松永恵一

司馬遼太郎記念館

歴史小説と斬新な文明批評で読者をひきつけた司馬遼太郎は大阪を離れなかつた。記念館は司馬遼太郎が好んだ雑木林の緑のなかにたたずんでいる。自宅と、安藤忠雄が「蔵書で囲われて、間に包み込まれたような、かすかな光の空間のイメージ」で設計した建物で構成されている。生前のままに保存された書齋を窓越しに見る。書棚には未完に終わった「街道がゆく―濃尾参州記」の参考文献等が収まっている。手元の側でゆるやかにカーブを描いた机。原稿用紙の上に眼鏡。万年筆や色鉛筆、ルーペが置かれている。ちよつと席を離れているだけといった雰囲気。

ポケットパークに、閉鎖された「茶花の里」から花供養碑が移されている。ふりむけば

又咲いている

花三千

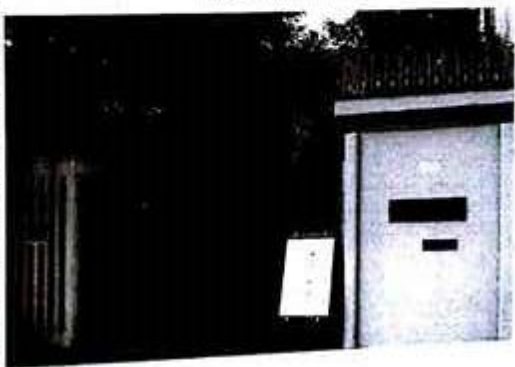
仏三千

昭和六十一年春

司馬遼太郎

記念館はもちろんコンクリートの打ち放し。外には大きなガラスの回廊。入るとそこは蔵書の世界。高さ11メートルの壁面に張り付く大書架に約2万冊の書籍が収まっている。圧倒的な迫力で司馬遼太郎の頭脳が迫ってくる。大書架の下の展示ケースには、ゆかりの品が並んでいる。カラフルな推釦用の色鉛

司馬遼太郎記念館



筆。黒ブチのメガネ、懐中時計、万年筆、愛用のバンダナ。150余席を持つホールでは「時空の旅人」「司馬遼太郎の遺した言葉」など、NHKの映像を再編集したものを上映している。司馬遼太郎記念館には、第22回大阪まちなみ賞・大阪府知事賞・第44回建築業協会（BCS）賞が贈られている。

二十一世紀に生きる君たちへ

小学6年生の国語の教科書のために書き下ろされたもので、記念館の基調となつている文章でもある。文学碑は河内小阪駅から記念館までの道筋にある中小阪公園内に建てられている。

21世紀に生きる君たちへ

司馬遼太郎

君たちは、いつの時代でもそうであつたように、自己を確立せねばならない。

—自分に厳しく、相手にはやさしく、という自己を。

そして、すなおでかしい自己を。21世紀においては、特にそのことが重要である。

21世紀にあつては、科学と技術がもつと発達するだろう。科学・技術が、こう水のように人間をのみこんでしまつてはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしつかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向へ持っていくてほしいのである。

大阪書籍「小学国語」より抜粋

大阪樟蔭女子大学田辺聖子文学館

田辺聖子は16歳で河内小阪駅南西すぐの樟蔭女子専門学校国文科に入学した。平成19年（2007）、樟蔭学園創立90周年記念事業の一環として大阪樟蔭女子大学小阪キャンパス図書館一階に田辺聖子文学館が設けられた。

館内には田辺聖子の人柄と作風が具体的にあらわされ、ほんなりとした柔らかな温かい雰囲気がかもし出されている。大阪ことばに託された軽妙なユーモアと笑い。しかしその底に流れるたおやかな批評心。

単行本約290冊と雑誌、文庫本を含め計約400冊を壁面に展示。再現された書齋。自宅地下の「パーカモカ」を再現したシアター・コーナー。直筆原稿や靴・靴・衣裳、万華鏡・市松人形などの愛蔵品の数々。

「夢」をコンセプトにして幼少から生い立ち、小説家としての活動を年代ごとにもうまくまとめられていて、知られざる田辺聖子の人となりに触れることができる。

大阪商業大学商業史博物館

「商大」と親しまれている大阪商業大学。創立者にちなんで命名された谷岡記念館は、昭和初期の建造物で大阪城東商業学校時代の本館。国の登録有形文化財指定されている。一階は、谷岡学園「学園資料室」、二・三階に商業史博物館が設置されている。

商業史博物館は、「近世大阪の商業」をテーマに、庶民生活の場としての「大阪の町」、商業の中心地としての「商都大阪」、大阪の風俗を紹介する「大阪の商売と生活」について、商家文書や商業用具（貨幣・天秤・千両箱など）の実物資料を展示している商業史資料室と河内の稲作と民具・河内の木綿をテーマに構成された郷土史資料室がある。千両箱を自分の手で持ち上げることが出来る体験コーナーで、脇に抱えて走ったり飛んだりしながら逃亡するのは無理と学習したり、安くておいしい一膳飯屋を利用し、道頓堀では観劇を楽しんだりなど、現在の生活と照らし合わせてみるのもおもしろい。



大阪商業大学 谷岡記念館

コース概観

近鉄奈良線の「河内小阪」駅は、「大阪商業大学・大阪樟蔭女子大学前」という副名標が付いている。学生の多い活気ある町に司馬遼太郎は居を構えた。同じく文化勲章を受章した作家・田辺聖子は、大阪樟蔭女子大学の前身である樟蔭女子専門学校を卒業した。作家たちのゆかりの地に息づかいを開きたくて訪ねた。

近鉄河内小阪駅下車。準急停車。大阪難波駅から12分。南に出る。正面のアーケードに、「司馬遼太郎記念館」と大きく書かれている。駅前ロータリーに「平和を祈る乙女像」が立つ。昭和20年(1945)年8月6日、広島に原爆が落とされた日、小阪駅前南側は空襲を受けた。翌日の新聞は「西宮方面を焼燻した敵機が脱去の途、布施市各所に焼夷弾を投下、全焼141戸、半焼32戸罹災者656人」と報じた。乙女像には地元の児童達によって千羽鶴がかけられていた。

にぎやかな小阪本通商店街(スカイドーム小阪)を、左右の店を眺めながら進む。しばらくするとアーケードが終わり、カラーの歩道から普通の道路に変わる。「とびだし危険」の看板。右側はコンビニ。正面の白い建物は公民館。斜め左に進む。中小阪公園を右手に見る。「21世紀に生きる君たちへ」の碑を読む。21世紀を担う子供たちに向けての力強いメッセージが込められている。小さな交差点をそのまま直進

し、お洒落な住宅が点在する中を歩く。迷路のようなところか懐かしい道を抜ける。突き当たりを道なりに斜め左に進む。すぐの突き当たり、「こつちー」の案内。左にポスト、角に植草屋。すぐ左手前方に閑静な住宅街にひとときまわ立つ司馬遼太郎記念館。駅から約12分。白い門に直筆の表札。司馬遼太郎(福田)。男性のポランティアさんの案内で入場券を買う。緑豊かな雑木林風の庭を通り、書斎をガラス越しに見る。永遠の名作「龍馬が行く」「坂の上の雲」。日本を、そして日本人を見つめ、原稿用紙に万年筆を走らせる姿が浮かぶ。花壇には好きだったツユクサが植えられている。2月12日の命日「菜の花忌」は、駅から記念館まであわわわとした黄色い花に包まれ、一足先に春が訪れる。

ゆったりとカーブしたガラス回廊を通ると記念館の受付。女性のポランティアさんに切符を渡す。壁面はコンクリートの打ち放し、床面は木製フローリング。あちこちに飾られた季節

の草花、木製を基調にした内装、外光を取り入れた明るい暖かい気持ちのいい空間になっている。小説を書くたびに東京神田の書店街からトラック一台分の史料を取り寄せた本の壁に息を呑みながら奥の左側の天井のシミを見る。「まっこと龍馬の顔に見えるぜよ」。

ホールで映像を見たり、カフェコーナーでくつろぎ司馬遼太郎との対話を楽しむ。記念館刊行の「二十一世紀に生きる君たちへ」は自筆原稿。推敲に推敲を重ねた色鉛筆からは司馬遼太郎の息吹が伝わってくる。



司馬遼太郎は毎日1時間、奥様と散歩に出かけるのを日課にしていた。たまにひとりで行くと迷子になって自宅に電話することもあったという。執筆以外は奥さんにおんぶに抱っこ。舟板舟の残る小道や神社、お地藏さん。「雀のたまご」をはかり売りで買ったという駄菓子屋。

記念館の西側に小坂神社。銀杏の大木が本殿まで続く。天正二十年(1592)原野開拓に当たり、旧大和川(現長瀬川)の水利至便、五穀豊穡を祈願するため、大和国吉野の水分の神を祀ったという。すぐ南に彌栄神社が鎮座する。祭神は須佐之男命。北側の一段高いところは、旧大和川支流の堤の跡。馬立跡。

慶長二十年(1615)の大坂夏の陣のとき、若江で陣を張っていた豊臣方の武将木村重成はこの地で大坂城に別れを告げた。22歳で討ち死にした重成は、香を焚きこんだ鎧兜に身を包んでいた。その首級が徳川家康に届けられると、感嘆させたという逸話が残っ

ている。豊臣秀頼の乳母の子で小姓として育った木村長門守重成。司馬遼太郎は「若江堤の霧」を著した。

南に歩き府道24号を右折しJR徳島道駅に向かう。うどんそば屋の「桜井」は、司馬遼太郎宅でながらお手伝いをしていた人のお店。暖簾・箸袋は司馬遼太郎の字。右に曲がり大阪樟蔭女子大学田辺聖子文学館に向かう。大阪商業大学商業史博物館は河内小阪駅から北に徒歩5分。それぞれ休館日は日曜・祝日、大学の休業日。

コースタイム

河内小阪駅(12分)司馬遼太郎記念館
△地形図V2万5千#大阪東南部
△費用V
司馬遼太郎記念館 500円
(問い合わせ先)

司馬遼太郎記念館 06(6726)3860

大阪樟蔭女子大学田辺聖子文学館 06(6723)8182

大阪商業大学商業史博物館 06(6785)6139

山の地名を歩く⑤

初雪山

西尾 寿一

いい響きの名前である。清々しい気分させてくれる「初雪」の名をストリートに使い、そのものズバリの効果を出して秀逸である。しかも実態としての山容も名に恥じない堂々たるたたずまいである。

小生が初めてこの山を知ったのは北陸路を登山した折で、入善町あたりから山を見ると、真っ白に輝いている台形の山が目についた。

地形図を見ると、そのあたりは白鳥岳から北上する大山脈が日本海に向かって竜の骨のように背をのばしてゆく所である。まず白鳥山か大ヶ岳が怪

しい、とみたが違っていた。

実際には、その山脈より高い山が手前にあつたのだ。大ヶ岳が15933mに對して、初雪山の三角点は15936mで、さらに三角点の位置より高い16103mのピークが控えている。

これは間違いなく主脈より高い注目すべき山なのだ。

おそらく昔から越中東部の人々は、大ヶ岳・白鳥山のある主脈より、この山を見てきたに違いないのだ。こうして地形図に山名の記載の無い山が妙に印象に残った。

その後、富山の岳人の資料をあさって「越中の百山」(一九七三年、北日本新聞社)の中に湯口康雄氏の筆で「初雪山」があるのを見出す。それによると、「初雪山は古称を定倉山といた」とあるが、定倉山は五万の地形図に記載されている。湯口氏は「定倉」という山名は、今日、越前峠の東方にあるが、この山の古名は横山で、当時の横山峠(今の越前峠)や横山谷(今

の小川の上流)は、これと無縁ではない。その横山という名称は、今日、北又谷と柳又谷の合流点近くの山に与えられている。つまり、定倉・横山というふたつの呼称は、対で南方へ移動していったのである」と明解に指摘している。ではなぜ定倉山とつけた古風な名が移動し、多少近代的な趣きのある初雪山(別に光山の名もある)になったか、の謎は謎のままである。

強いて推理を進めれば、近代になつて入善町あたりの富山県東部の人々の間では、この山の特徴である雪の積量に関して注目しはじめたのではないかと思われる。この山の北方に高峰はなく、北西の季節風は最も早くこの山に吹きつけるはずである。

厳しく冷え込んだ早朝、ふと山を見ると見事に冠雪した山々のなかでひときわ白く輝く山が大地山と白金ノ頭の間に見えることになる。これが間違いなく初雪山の姿であつた。

湯口氏一行は小川支流の相又谷をつ

めているが、多くは境川の太平集落から滝淵に至り、寝入谷と川黒谷の間の尾根をとっているようだ。この尾根は北西にのびており、かなり遅くまで雪が残るようだ。

初雪山から大地山・黒菱山にかけては山スキーのパラダイスである。その後、大ヶ岳・白鳥山などから無雪期の初雪山を見たが、黒い台形の山は威風堂々としており、やはり気になつて仕方がない山となつた。

小生が友人とふたりで太平にやつてきたのは1995年5月4日で、一連の北陸路の登山のハシゴをしていたときだった。

大平からは上路という集落を経て越後へ抜ける道があるうえに、山姥の洞から白鳥山の登路もある。

地名学者の谷川健一氏は「この上路は(ジョウロ)で、上関ではないか、山姥はおとしめられた扱ひである」と指摘されているが賛成だ。この付近は文化史的にみて実におもしろい存在なの

である。

大平では初雪山のことを「光山」と呼んでいた。境川の林道を走つて奥に向かうと、突然光り輝く見事な山が出現する。ハッと驚く事象である。直線的に走る境川の小さな曲折部の暗さとの対比は見事な舞台装置というべきものがある。

境川には水力発電所がたくさんある。滝淵の発電所の手前でストロップとなつたが、正面に真っ白な初雪山の前衛峰と長大な尾根が見える。

最初はツボ足で寝入谷に入り、すぐ東の広大な尾根に取り付く。

昨夜は少々呑みすぎたので身体が重かつたが1300mの一直線の登りが待っている。ただただバカになつて直登を繰り返して行くと、やっと尾根が細くなり、雪が硬くなつた。

アイゼン着けて行くが、三角点手前の急登部分は奇妙な形の雪庇があり、危険なので東へ捲き上がつて頂上広場へ出た。

山頂は三角点の位置ではなく、さら

に3000m南である。ここも広大な白地になつていて大ヶ岳などの近隣の山々だけでなく、遠く北アルプスの巨峰群がよく見えた。

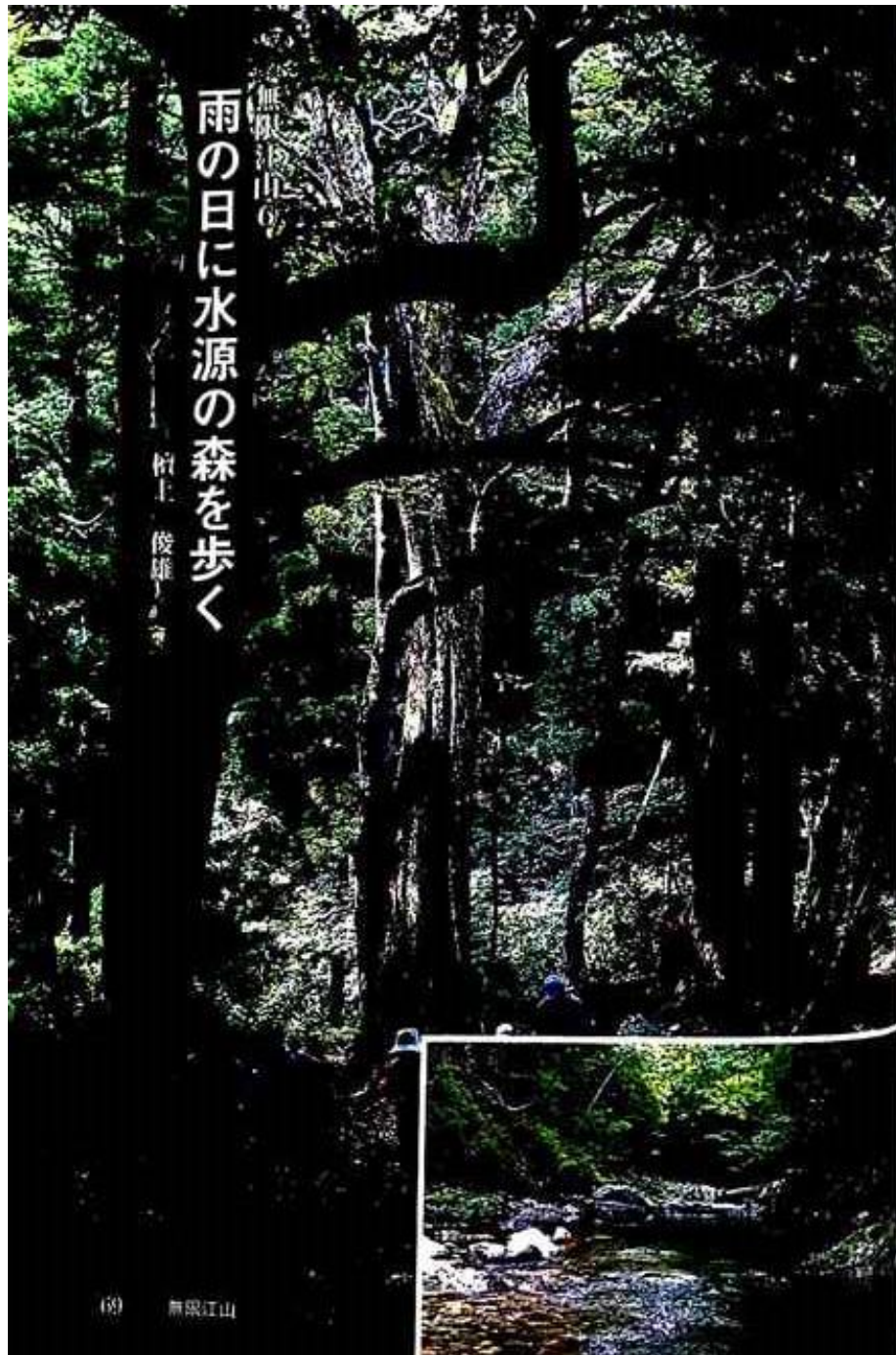
友人とふたりでこの絶景を専有することの贅沢は、鎌舌に尽くし難いものがあつた。

山頂で1時間ばかり茶を沸かしたりして楽しむが時の経つのは早い。ガスが出てきたので下山にかかつた。

雪庇の部分は尾根の反対側を捲いて通過する。後は一直線の尾根を、登りのトレースを忠実に拾つてくたつていった。

よい山行だった。初雪山は無雪期に試していないが、大ヶ岳とのわずかの間に北又川が食い込んで多くの滝をかけている。

人に出会うことがないこんな山を登つてこそ、ほんものの登山の楽しみが味わえるものと信じる。



雨の日に水源の森を歩く

無敵山の

植手 崇文

最新刊

新ハイキング選書 第30巻

関東周辺の やさしい雪山登山コース 57コース

A5判・196ページ
定価1680円(税込)

植手 崇文 著

何百回かの山行を重ねた著者が、一番熱を入れて取り組んできた雪山について、その美しさ、楽しさ、充実感を、後から続く人に伝えたい。そして多数の方々が雪山に入る助けになりたいとの思いから、あらわした書。そのために、厳冬の山は、山小屋が営業し、大勢の入山する山に限り、一段と難度の高い山は、天候が安定し、雪崩の危険がほとんどなくなるゴールデンウィーク前後を選んでいる。全体的に言えば、初級・中級コースの紹介であり、また、「紀行集」の形をとり、「ガイド」とするよりも、実際に歩いた感覚が伝わるよう配慮されている。



関東周辺の
やさしい
雪山登山コース

尾瀬、高尾、美ヶ原、白馬、甲斐駒など57コース

植手崇文 著

新ハイキング社

《東北・郡山》月山、西吾妻山、彌生ヶ岳、安達太良山、郡山 茶臼岳、郡原 朝日岳
《金沢 尾瀬 上越》会津駒ヶ岳、壺ヶ岳、至仏山、上州武尊山、毛猛山、白毛門、谷川岳、
白砂山～佐武流山、堂津岳
《志賀 濃尾周辺》笠ヶ岳、黒蓮山、高峯山、水ノ塔～籠ノ登山、湯ノ丸山、村上山
《丹沢・奥秩父》丹沢主脈縦走、雲取山、大菩薩嶺、金峰山、瑠璃山
《八ヶ岳・美ヶ原》蓼科山、北横岳、楢枯山、天狗岳～磯貴岳、赤岳、阿弥陀岳、美ヶ原
《南アルプス》皷風三山、甲斐駒ヶ岳、信丈ヶ岳、入笠山 釜無山
《北アルプス》乗鞍岳、上高地、焼岳、奥穂高岳、北穂高岳、西穂高嶺、槍ヶ岳、穂ヶ岳、燕岳、
燕岳～鎌ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、唐松岳、唐松岳～五龍岳、白馬岳、立山、毛馬山、木曾駒ヶ岳、
御嶽山、笠ヶ岳、嶺ヶ馬場山

●本誌添付の挿入用紙で
ご注文されると、送料当社負担

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110

湖西湖北の山を長く歩いてみると、雨の日も苦にならなくなるから不思議だ。昔とくらべて雨具は格段に進化し、服が濡れても冷たくないことからすればこれで当たり前かもしれない。樹林の山であり、特にブナ林が多いことも大きな理由となるだろう。山の姿が見えなくても、霧がかかった樹林、雨水が幹を流れ落ちるさま、水をいっぱい含んだ苔など、雨の森は美しさにあふれている。晴れた日にはか細い溪流でも、雨の日の勢いのよさといったらどうだろう。

通い慣れた山々は、地図を開かなくてもおおよその地形が頭の中に入っていて気軽に歩くことができ、そうした心の余裕があることが大きい。春夏秋冬、雨の日でも、吹雪の日でも慌てて歩く。大勢で歩いている時とか不慣れた場所でも傘をさして歩くのははばかれるが、慣れた山ではそれもまた情緒があつていいものだ。

冬以外であれば、かりにずぶ濡れに

なつたとしてもこのあたりの関西の低山ではどうってことない。返ってそうした時のほうが後々印象に残っていることが多いくらいだ。かつこつかけの自分を雨洗い流して素顔を引っぱりだしてくるからだ。

昔は雨に濡れるというのは随分と好まれていたような気がするが、いつから雨を避け、いやがるようになったのだろうか。大気汚染で有害物質が含まれていて避けるべきだという、そんな指摘の前では大きな声で言いくらいが、私は今でも雨に打たれるのはいいことだと思っている。

多雨、梅雨、台風、秋雨、冬の豪雪などを特徴とする温帯モンスーン気候の日本列島に生まれ、水に不自由することもなく、また地球規模でもみてもトップクラスといわれる生物の多様性に富む山と自然に囲まれて生きているということはすばらしいことだ。

気象情報のキャスターがあす雨の予報を言う時、申し訳なさそうな表情をするが、私には理解できない。ニコニ

を始めた人と出会うと必ず「屋久島へ早く行って雨の洗礼を受けるよう」にと勧めているくらいだ。

近くでは芦生の森などもそうだ。由良川源流のなだらかで尾根と谷の高低差が少ない隆起準平原地形にブナ・ミズナラ・アシウスギの混生林が原生に近い姿で残っていて、溪流脇の岩や倒木は苔むしていて、すべてに生気がみなぎる雨の日に訪れると感動的だ。

湿地を通ったり溪流を渡ることが多く、登山靴が濡れて不快な思いもするが、私は底が堅くつま先に鉄板が入った丈夫な土方長靴を履いて歩くことにしている。実に快適で歩くのが楽しくなってくる。

中央分水嶺の地蔵峠と岩谷峠の間にあるピーク818計のカベヨシは私のお気に入りの山のひとつである。長治谷や野田畑、中山などにあつた木地師の集落のことや、針畑の人が昔からスギ苗やトチの実取りに芦生に入っていたという歴史とか、今も中山神社を護り続ける生杉の人の願いを思いながら、

地蔵峠のトレイル



コ笑顔で「明日は雨です」と堂々といつてほしいものだ。

一定の程度を超える雨は、自然災害を起こしうることであり、無責任なこととは言えないが、少なくとも登山は危機管理を前提としたスポーツである。想定内の雨降りであっても、アルプスなどの高山ではそれ相応の準備と覚悟がいるだろうが、樹林の低山ではノープロブレムということになる。湖西湖北などに降る雨は琵琶湖の重要な水源であり、雨が降るということをなおさる喜ぶべきだろう。

こうした話題で注目すべき山がある。

幾度となくこの山の尾根や谷をさまよって歩いてきたが、いつも新鮮で飽きることはない。

雨が似合う場所はほかにもある。尾瀬もそうだ。燧ヶ岳や至仏山が見えなくとも、雨の日は湿原や森が幻想的で旅心を誘ってくれる。上高地なども同様だろう。南アルプスなどの樹林帯も印象深いものがある。北八ツや霧ヶ峰、美ヶ原もそうだ。雨飾山なども思い出深い。

雨の日に雨飾山に登り、しっとりとしたブナ林や雨霧に霞む山上の台地や岩峰岩壁がここのはか印象的で、目いっぱい好ましいイメージを膨らますことができた。次に訪れた時はよく晴れた日で喜びもつかの間、山頂に立ち雄大な白馬岳を望んだ時、この雨飾山とのスケールの差を見せつけられ、その好ましいイメージが惜しくも半減してしまった。何でも見えればいいというものではなさそうだ。



トチノキの森

(里山シリーズ56 岐阜県関ケ原町 滋賀県米原市)
 展望の小山からウメの古刹・中仙道
松尾山陣所跡、
今須宿から柏原宿へ

一般コース(★★★)
 長宗 清司

JR関ヶ原駅から国道に出て右折(西進)し、柴井集落で旧道に入る。次の十字路に立つ標識に従って左折(南下)して松尾山登山口に向かう。新幹線と名神の下をくぐり、藤古川沿いに出て縄手橋を渡り、さらに黒血川を渡って東海自然歩道でもある城山林道軽車道(巾着2・4は延長2666m)を平井集落に向かって山道に入る。

峠の手前で、いったんこの林道と分かれ、「松尾山山頂へ九〇〇m」の標識が立つ分岐を右折する。東海自然歩

道でおなじみの高さのある木段に苦勞しながら高みへ。数回ゆるやかな起伏(掘削り・鞍部)を繰り返す尾根道や右側の谷筋には少し雪が残っていた。

山頂公園(城跡)の入口の駒札「松尾山城(長宗軒)史」には、応永年間(1394-1428)小守護富島氏城を築く。それから後の歴代の城主などが記されている。頂上の広場には城跡の土塁だけが外周に残っている。

関ヶ原の合戦時、徳川家康の脅しの砲撃によって西軍を裏切って味方を攻め、東軍を勝利に導いた小早川秀秋軍の陣所跡を示す駒札が、公園の中央に石碑とともに立てられている。

小早川氏の家紋(鎌印)の幟が立つ北側は、展望が広がり左右に長く関ヶ原野の全容が望めた。その先に目を移すと押し迫るように、雪をかぶった伊吹山が堂々とそびえている。

風も無く気温12-13度の日差しの下で気分よく休憩。410年前の天下分け目の戦を想像しながら昼食をとった。ベンチ路には三等三角点(293.1m)

小早川秀秋陣跡(石柱と駒札)



の標石が、土からせりあがっている。午後、歩きやすい勾配の下り道を通って先ほどの林道の先に合流し、今須平井集落へと向かう。集落の山際には、1200年余の歴史を誇る皇室ゆかりの古刹八幡山聖蓮寺がある。親鸞聖人御旧跡の寺として有名で、この寺の境内には関ヶ原町指定の天然記念



物の樹齢七百年を超える八房のウメ、学術研究資料として貴重な四季丁字サクラが、山門を入った左手にある。

寺伝によれば、「八房のウメは、貞永年間親鸞聖人が関東からの帰路、当寺で食膳についた梅干の種をここに植えられたと伝えられています。実は小さく、一つの花に四〜八個結実し、熟さないうちに一つずつ落ちていくのが常で、色は淡紅色です。四季丁字サクラは、春夏秋冬を期して開花しますが、冬期雪中花を咲かせる様子は、まことに奇観といえましょう。四、五月に葉に先立って花弁の小さい淡紅色の五弁花を下垂してつけ、花形が丁字形に見えるのでこの名があります」とある。

また、本堂左の軒先にはめずらしい形の半鐘が釣してある。大正15年(1926)に朝鮮総督府の高官(当地出身)だった高木某氏が寄進された八葉形半鐘で、太平洋戦争時に供出されたものの、戦後、文化財として返還された貴重な寺の飾り備品である(昭和55年、県・関ヶ原町の重要文化財に指定)。

事前に、電話等で申し込み込めば多分往職が奥様が、寺の由来やウメ・サクラの説明を受けることができるだろう。

私たちの場合、境内でたまたま奥様にお会いでき、勧められるままに本堂から奥座敷に案内され、宝物庫に納められる直前の嵯峨天皇からご拝領の金欄布に包まれた寺宝の石剣、一休禪師直筆の書などを拝観することができた。その折、アルコール漬けの八房のウメを拝見し、小粒の梅干まで試食させてもらった。

さらにお聴きした大木の話は、親鸞聖人がこの寺に38日間滞在ののち、出立される際、「門繁八幡宮」の義脇に御杖を台地に刺して、「枯木心なしといへども親鸞弘むるところの弥陀の悲願末世に盛ならばこの杖ふたたび枝葉を出し本願諸共に榮ゆべし」と言う。果たせるかなたちまち発芽し「御杖の桂樹」と号し大木となり」という。

この大木が「今須川」と並行している県道21号宮前橋の近くの道路際で見上げることができた。



八房ウメ

この県道は旧中仙道にあたり、今回は次の今須宿から西へ近江の柏原宿まで歩いた。

門前集落に出で、国道の手前で鋭角に旧道に入り、門前橋、今須橋を渡って今須宿のあった集落を抜ける。静かな集落には昔の名残を留める建物がいくつもあり、見学できる。

国道に出る手前の左手に「車返しの坂」の胸札が立っていて興味をそそられた。「南北朝の時代の昔、酔狂な人がいたもので不夜の閑屋が荒れ果て、板庇から漏れる月の光が面白いと聞き、わざわざ都から牛車に乗ってやってきました。その御人は公家の二条良基という人。ところがその坂道を登る途中、屋根を直したと聞いて引き返してしまつたという伝説」とある。

JR東海道線の踏切を越えて、いよいよ滋賀県(近江)と岐阜県(美濃)の国境(長久寺)に差しかかる所で芭蕉の句碑に出会う。

正月も美濃と近江や関月
旧跡「寝物語」は寝物語の里として整備されている。磨石版の案内によれば、「近江と美濃の国境は、細い溝でした。この溝を挟んで両国の番所や旅館があり、壁越しに「寝ながら他国の人と話し合えた」ので寝物語の名が生まれたと言われています。又、平治の乱(千五百五十九年)後、源義朝を追ってきた常盤御前が、夜更けに隣の宿の話し声から家来の江田行義と気づき奇遇を喜んだ。とか、源義経を追って来た静御前が、江田源藏と巡り合った」とも伝えられるように、古跡の逸話の数々や古歌等にも名が出ています。広重の浮世絵にもここが描かれている。「ひとり行く旅ならなくに秋の夜の寝物語もしのぶばかりに」かの有名な太田道灌もこの地を詠んでいる。

柏原宿への途中の道際には、柏原宿

の略史や中仙道分間延絵図・照手姫笠地藏など、楽しい道行きができた。

(平成22年2月14日歩く)

△コースタイム△

JR関ヶ原駅(10分)柴井(国道分かれ、次の十字路)往復10分不破の関跡(10分)井上神社(15分)縄手橋(10分)林道入口(10分)松尾山頂への分岐点(40分)山頂公園(小早川秀秋軍隊跡)(30分)林道合流点(15分)聖蓮寺(10分)門前八幡宮(25分)今須宿(15分)車返しの坂(15分)妙光寺(寝物語の里)・滋賀と岐阜の県境(20分)柏原宿口(10分)JR柏原駅

△地形図V2万5千11関ヶ原(問い合わせ先)

関ヶ原町観光協会

☎0584(43)1111

八幡山聖蓮寺

☎0584(43)5500

柏原宿歴史館内観光案内所

☎0749(57)8020

コースガイド②

伊賀

航空灯台のあった山②

しょうりんぼうやま
正林坊山

中般コース(★★★)

柴田 昭彦

航空灯台のあった山として、三重県亀山市の久我山を紹介したのは、本誌91号(平成18年11月)であった。執筆当時用いた航空灯台の資料は不十分であったので、もっと詳しい資料を得たいと考え続けていた。

平成21年7月30日と8月1日に、燈臺局編纂「日本燈臺表(昭和13年)」(燈光會)収載の「航空標識燈一覽表」,「日本燈臺表(昭和14年)」収載の「航空燈臺一覽表」を手できて、最も基本的な資料が揃った(ただし、数値等に誤植が散見するので注意)。

8月7日、大阪航空局で問い合わせ

て、航空灯火友の会編集・発行の会誌「とうゆう」に掲載された、吉田久善「航空路灯台跡地さがし 我ら熟年探検隊」の三本の記事「その1(室津笠置編)」「その2(玉津編)」「その3(関編)」「その3(関編)」「その3(関編)」(第84号、平成21年2月)、鈴木隆治「航空灯台の思い出」(第85号、平成21年5月)の存在を知らされた。また、航空灯台に関する最も詳細な資料として、航空照明50年史刊行委員会編集・発行「航空照明50年史」(昭和62年、非売品)を教示された。以上の写しを手に入るに及んで、航空灯台に関して十分な資料が揃うことになった(50年史にも数値の誤植散見)。

「とうゆう」の記事の執筆者、吉田さんは、元航空局飛行場管理部管理課、空港保安防災企画官で、平成10年から「航空人倶楽部ハイキング部」(大阪国際空港のハイキング会)に参加してきて、平成18年10月に、候補地選びのために、本誌91号を購入して、拙稿を見てから、平成18年11月以降、航空灯台跡地さが

しを行うようになったのだという。

平成21年8月29日、吉田さんに会い、航空灯台の貴重な資料を入手することができた。

航空灯台の概要は本誌91号の記事で紹介したが、不十分であったので、あらためて、まとめておこう。「航空照明50年史」は入手が困難であり、利用しやすい「日本航空史(昭和前期篇)」(日本航空協会、昭和50年)の記述(562頁9頁)が概観に便利である(ただし、表5の巻数は蠶豆の数値になっていて混乱し、蠶豆と加太がもれている)。

我が国の民間航空が、夜間の定期飛行計画を立てたのは昭和5年で、航空局、日本航空輸送会社協同で、東京、九州間の現地踏査が昭和6年に行われ、航空灯台の設置場所が決定された。その選定場所一覽表は、表1(第1期航空灯台)の通りである。

昭和7年10月から航空灯台の建設が始まり、昭和8年10月に整備が完了した。東京飛行場と大阪飛行場の間に20ヶ所、大阪飛行場と大井洗飛行場

の間に19ヶ所が設置された。

ただし、大阪以西で点灯された灯台は、須磨、室津、玉津、早島のみで、岡山、広島島の兩練兵場が不時着場として認可されなかったため、笠岡以下15ヶ所の航空灯台は未点灯のままとなり、岡山上空で、上り便は日没、下り便は日の出となるようにダイヤが編成されて、昭和8年11月から毎日上下一便、郵便および貨物専用機による定期航空が開始された。

昭和9年1月の死亡事故で夜間航空が中断し、箱根と鈴鹿で航空灯台を増設した後、昭和10年4月に再開された。昭和12年7月以降、戦争による燃料、乗員確保の困難さにより、夜間定期航空は中止となった。航空灯台そのものは点灯されて、早晚、薄暮飛行の増加に対応して、安全に寄与していた。表2が、昭和10、14年設置の第2期航空灯台の一覧表で、私設灯台も加えてある。昭和16年まで航空灯台は増設されたが、軍需生産重視の事情から配電線路と灯器製作が遅れ、昭和18年には戦

況の悪化に伴い、防空上から無期限消灯が命令され、廃止も相次いだ。

昭和20年12月の連合軍指令により、21年に、航空灯台は維持存置、移設、廃止などの措置が行われた。その後、航空灯台は増設、移設、改造、撤去をくり返した。昭和36年9月、幹線標識を利用するようになり、航空灯台の利用は減少した。一部の灯台は船の航路目標として利用された(平塚灯台は平成12年まで使用)。

昭和40年代には各種無線援助施設に航空路保安の主役が移り、昭和43年、航空灯台は廃止が決まり、消灯され、翌年にかけて撤去された。航空灯台は夜間に閃光を放ち、今でも年配者の記憶に残されているが、奥深い山中の遺構の存在は忘れ去られ、それが、何であったのかを知る人々も少なくなりつつある。

今回、戦前の航空灯台の一例として、伊賀市長田に残されている上野航空灯台跡の探索を、鳥ヶ原駅からのハイキングコースと組み合わせ、紹介しよう。

上野航空灯台跡の基礎部分(正林坊山の頂上)



上野航空灯台の基礎部分(正林坊山の頂上)

JR鳥ヶ原駅で降りる。改札を出て、右手の観光案内所で、地図などをもらっておこう。
駅前から正面の道をまっすぐ進み、広い道を横断し、突き当たりで、左の狭い道に入る。木津川沿いに出て、右の鳥ヶ原大橋に向かう。大橋の歩道橋を歩いて木津川を渡り、そのまま、天理教鳥ヶ原大教会の方へ向かう。
大教会の北側で右折して、ほどなく、右手に稲荷神社がある。舗装道を上がると、左手が伊賀焼普門窯への入口である。まっすぐ進んで、道標の示すスナップコースをたどる。
舗装道を歩くと、「大和街道記」の案内板前になる。

がちとなり、すぐに、枝木で道を塞いである場所に着く。ここが正林坊山への登り口である。吉田さんたちも、平成21年3月25日の調査で、伊賀市の語り部である中川甫さんの案内で、ここから登っているが、整備された道は無い。

物置小屋と家屋のあたりの住所は、伊賀市大字鳥ヶ原字松林坊だが、山道に入ると伊賀市大字長田字正林坊である。鳥ヶ原を流れる松林坊川の源流部に当たる。呼び名が同じで、漢字表記が異なる地名のケースはよく見られる。標高302.1のピークは、三等三角点「正林坊」だが、点の記は未作成で、インターネットでも登頂記録は見当たらない。

長田村役場編輯「長田村報」第十七号(昭和四年八月)には、この山は「正林坊山」とあり、海拔「一〇六〇尺」(321.1)で、「本村の最高地、粘土、松茸、石材を産す」とある。実際には見違山(標高313.3)のほうが高いので、測定誤差なのであろう。

一方、「長田郷土史」(中村竹次郎氏遺稿(巻)、長田公民館、昭和51年)には、「正林防山 字正林防にあり海拔一〇六〇尺長田地区最高の山なり」とある。「郷土の小字名」(三重県職員郷土史クラブ)の長田地区の字には「正林坊」とあり、点名「正林坊」と一致するので、山名は「正林坊山」であろう。

さて、枝木で道を塞いである地点を突っ切って、まっすぐに進もう。ほどなく出てくる赤布が山頂への目印である。帰りで迷わないように、入口で振り返って、付近の景観を記憶に留めておこう。

ほどなく、左手に巨岩があるので、帰りの目印にする。あとは、高みを目指して、赤布に従って、山頂に向かうとよい。完全な枝払いはいらないが、やぶ漕ぎの好きな人には物足りない程度の登りで、正林坊山の山頂、上野航空灯台跡地に到着する。

コンクリート製の基礎は右側(北)に二つあり、一辺45cmで、二つの基礎の外側同士の間隔は39.3cm。基礎に

左折して、舗装された平坦な道を進む。素朴な風景に心なごむ。鳥ヶ原パイパスを陸橋でまたぎ越す。突き当たりには「東の滝」の道標があり、右へ砂利道を進む。

次の分岐点には「左右三〇〇米先で行き止まりとなっています注意」という看板があり、右の道の途中には害獣捕獲用の籠が設置してあるので、立ち入らないようにしましょう。東の滝への道標に従い、左の道を進む。やがて、物置小屋の前になると、電線がある。東の滝はこの先にあるが、目的地である上野航空灯台跡のある正林坊山(標高302.1のピーク)を目指すことにしよう。

物置小屋の左上の方を見ると家屋がある。石段の手前で、左側に設けてある木のベンチのあたりから明瞭な山道を登るとよい。右手側には、おもしろい巨岩が散在していて楽しませてくれる。右側に4、5口の巨岩がある所を過ぎ、さらに、右に5、6口の巨岩が現れる。まっすぐ山道を入ると、やぶ

は錆びた二本のボルトが斜めに並ぶ。残り二つの基礎があったと推定できる場所は二ヶ所の穴になっていて、片方にはコンクリートの残片があり、穴同士の間点にも残りが見られる。三角点標石は、航空灯台跡から、西へ30メートルほど先にある。

高さ15メートルの上野航空灯台が標高302メートルの正林坊山に設置されて、使用が開始されたのは、昭和8年11月4日のことだ。夜間定期航空のために活躍するようになった。午前3時から日の出



までと、日没から午後9時まで、点灯され、10秒毎に一回閃光を發し、明るさは120万燭光、晴天の暗夜に光の届く距離は50メートルであった。昭和18年、太平洋戦争の戦況悪化に伴う資材回収のため、廃止となった。

元の道を引き返し、家屋のそばまで戻る。家屋の左側からまっすぐ下に降りて、東の滝に向かう。巨岩の間はどこでもくだれる。松林坊川の源流部に着く。左側には巨岩が重なるが、東の滝へは右折する。板橋を渡ると、すぐ左側に西の滝への案内標識がある(足場が壊れ、渡りにくい。西の滝まで歩けるが、西側の林道から訪れるほうが楽である)。

板橋から、まっすぐ東の滝へ向かう。あぜ道はトタン板の不安定な道になるが、先に進み、くだり道から左に折れると東の滝に降り着く。毎年6月に、鶴山の滝・西の滝と共に、五穀豊穡を祈る滝祭りの行われる場所である。

家屋を経て、物置小屋前に戻り、元の道を引き返す。陸橋を渡り、まっす

く、三本松の池を目指す。右折して大和街道に入り、お茶屋跡まで往復してくるとよい。戻ってから、次の分岐で右の地道に入り、長坂をくだらう。芭蕉の尻もち坂を経て、「大和街道記」の案内板の地点に戻ってくる。この説明をよく読んで、40メートル先で左折して、正面の畑の奥の石標を目印に左の竹林へくだり、蜂の六地藏磨崖仏を見てくるとよい。与右衛門坂をくだり、旧本陣の道標で右折して島ヶ原大橋を渡り、すぐ左折して、旧本陣を見てから島ヶ原駅に戻るとよいだろう。

次回以降、他の航空灯台跡も紹介したい。

(平成21年5月9日・9月20日歩く)

《コースタイム》

J R 島ヶ原駅 (30分) 大和街道記案内板 (20分) 島ヶ原バイパス陸橋 (10分) 登り口 (30分) 正林坊山 (20分) 登り口 (10分) 東の滝 (20分) 陸橋 (30分) 蜂の六地藏 (30分) 旧本陣 (7分) 島ヶ原駅 (7分) 地形図V2万5千 島ヶ原・月ヶ瀬

コースガイド

比較

音羽川源流にクリンソウを見る 地蔵谷から登山台一本杉へ

一般コース (★★★)

松尾 一郎

北白川の地蔵谷バス停で下車し、橋を渡って地蔵谷川(注1)の丸い標識を見て右岸中腹の遊歩道に入る。新しい第二堰堤を越すと遊歩道は終わり、山道となって河原に下りて左岸に移り、やがて二手に分かれる。

右に登って行く道が比較アルプス登山口で、左の沢沿いが本来の地蔵谷コースだが、どちらをとっても先で合流するので、よく踏まれた右をとる。左岸を高捲きながら登って行くと、再び河原へ下りて左に朽ちた木橋(注2)を見る。その先で比較アルプス道を右に分け、地蔵谷への左のやや不鮮明な

踏跡に入る。しばらく左岸を測って進み、適当な所から右岸に渡って旧参詣道に入る。

その後、一時左岸に移るが、参詣道はおおむね右岸沿いに付いている。途中二回ほど河原に下り、倒木をクリアしながら谷道を進むが小滝が現れ、前方には巨大な第三堰堤が立ちはだかってくる。右岸を高捲いて左岸に移り、次の第四堰堤は左岸を高捲く。堰堤の上流部は広い砂地の明るい河原で落葉広葉樹が多く、右から常時水流のある地蔵谷が出てきて渡渉する。その後何度か渡渉しながら左岸を行き、ブナの大木のある所で右岸に移る。

なお旧参詣道を測って行くと林務用の簡易橋を見下ろし、しばらくして道は流れから徐々に離れ、右岸山腹をトラバース気味に登ってゆく。瀬音も途絶えた頃、前方に大島居(石島居)が見えてきて、それをくぐれば坂端林道終点の白鳥越中継点「東山トレイル67」の広場に到着。大島居は劣化が進んでおり、触れずに速やかにくぐり抜

音羽川源流に咲くクリンソウ



けよう。

大島居から坂端林道を行く。途中左に三本の枝道を分けるが、必ず右の本道をとる。四明ヶ岳を仰ぎ見て林道(一部簡易舗装)は右(東方向)へ徐々に曲がり、左から近づいてくる音羽川を渡って右岸に移る。やや登りが急になり堰堤のある黒目ヶ谷合合に着くと、



鉄塔直下の白いガレたやせ尾根をくだる

手摺の鉄製階段を上がって舗装車道に飛び出す。
車道を右にとり、ダム工用の車両に注意しながら、比叡山ドライブウェイに通じる山中パイパスのガード（山中橋）をくぐり、山中町中心地の三差路は右に曲がる。
山中町は、季節なら道端にホタルブクロなどの山野草が咲く山間の静かな

《コースタイム》
地蔵谷バス停（15分）比叡アルプス登山口（5分）比叡アルプス道岐れ（25分）第一堰堤（5分）第二堰堤（地蔵谷出口）（16分）簡易橋（5分）大鳥居（石鳥居／東山トレイル07）（20分）黒目ヶ谷出口（7分）稲荷神社（15分）東海自然歩道（6分）ホテル前横断（5分）登山台（一本杉）（22分）白鳥越岐れ（12分）高圧線鉄塔（3分）やせ尾根（12分）尾根分岐（16分）下山口林道（10分）山中町三差路（10分）山中バス停
△地形図V2万5千＝京都東北部

〔注1〕無動寺川と表記した文献が見られ



すぐ先で井手ヶ谷に出合う。取水場を右に見やると稲荷神社が左に現れる。再び音羽川左岸に移って、林道を登り崖下の源流を見下ろせば、季節ならクリンソウの群落が濃いピンクの花を咲かせている。
やがて左に分ける小道（道標なし）に入り、比叡山ドライブウェイを病ダレ隧道でくぐると東海自然歩道に出合う。ここを右にとり、車道を右にかすめて木の階段を登ると三差路に着き、自然歩道と離れて右に進み、ドライブ

ウエイ料金所横に出る。ホテル「ロトルド比叡」前の横断歩道を渡り、左へ車道沿いの遊歩道を行けば登山台（一本杉（約590m））に着く。
下山は一本杉の奥、比叡閣北側の舗装橋を渡り抜け、テレビ中継所脇を右に捲き、比叡アルプスの尾根道に入る。右に比叡主峰を見つめながら進み、境界石で左に曲がる。ピーク543mは左側をトラバースし、ゆるい起伏を繰り返しながら小ピークをひと登りで白鳥越岐れに着く。
比叡アルプスは左へくだる尾根道をとる。この尾根は植生が豊かで、ヤシヤブシ・ミズナラ・クスギなどの広葉樹が生い茂り、新緑・紅葉の景観はすばらしい。軽い起伏を繰り返してくだって行けば、やがて高圧電線鉄塔下になり着く。
ここで比叡アルプスとも分かれ、鉄塔の手前から反転気味に左（南）の山中町へくだる踏跡に入る。下山口には白色プラスチックで「山中町」の案内標識が枝に掛かっている。

集落である。日中のバスは町内に入らないので、町外れ西の山中バス停に向かう。
白川源流に沿って狭い車道を西へ進み、家並が途切れると山中パイパスに合流し、山中バス停に着く。出町柳・三条京阪方面への路線バスを待つ。
〔平成22年1月3日・10日・17日歩く〕

下り始めは明瞭な道で、山腹を右へ捲き気味に樹林のなかをくだってゆく。やがて高圧電線をアンダーパスし、明るい見晴らしのよい花崗岩の風化した白くガレたやせ尾根の道となる。吊り尾根を渡り、樹林のなかへ入るとしばらくゆるい坂道だが、やがて急坂となつてどんどんくだって行くと、火の用心の標識が立つ鞍部〔注3〕に着く。この先の小ピークで尾根が左右二手に分かれるが、ここが少々わかりづらい所で、必ず左の尾根踏跡を選んでくだること〔注4〕。落ち葉に埋もれた尾根道を忠実にたどり、白・黄色テープでルートを確認しながら慎重にくだっていきこう。やがて木の間越しに左側に建物の屋根がちらつき、瀬音を聞き小沢に下り立つ。
沢の傍らは湿地状の池になつており、梅雨の季節なら小枝にはモリアオガエルの泡状の卵塊が産みつけてあるだろう。ぬかるみ道を少しくだと建物が見え、北谷川を渡り草の茂るネットフェンスの境界道をまっすぐ進むと、

るが、かつて無動寺谷への参詣コースの一つだったので、そのように呼ばれていたらしい。現在の河川行政の見解は京都市河川地図（京都市発行）及び京都市河川管理課ともに地蔵谷川としている。無動寺谷・無動寺坂と紛らわしいので地蔵谷川とした。
〔注2〕最近標識が設置されているが、木橋は相当劣化しており、渡ってからも足場がよくないので、利用は控えたほうがよい。
〔注3〕この鞍部から左へ下る踏跡（旧ルート）は北谷川沿い林道へ下りられるが、今は下流で砂防ダム工事中なので、通行は避けた方がよい。
〔注4〕地形図のピーク421に続く尾根へは入らぬこと。尾根通しに踏まれてはいるが、山中越車道（歩行者通行禁止）の嵐谷川に架かる観音橋東約100m付近で崖の上に行き着く。崖の手前約150m付近で尾根を左に外せば、やがて滑りして車道に出られるが、歩道が無くて危険である。

せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 故 小林珠瑛三

古代史に関心をもつと、和歌を鑑賞しながらページをめくることになる。その中でいいなあと思う歌がある。

古今集の読み人知らず「五月待つ花橘の香をかげば昔の人の袖の香ぞする」橘の匂いがかくと、昔好きだった人の直衣の袖にたいた香が橘の匂いに似ている。その好きだった人との甘い恋の日々が思い出される。ということだろうか。

伊勢物語を読んでそれは違ふとわかったのだが、この解釈のほうが好きである。この歌の舞

である。

そのまま車道を甲西大橋の北詰交差点へ出た。しかし、磨崖不動明王との対面が目的だったのでそのまま大橋へ行く気にならず、車谷に沿う花園林道を上がった。磨崖仏への見参を果たしたのであった。

三通間後、家内と善水寺から十二坊温泉へ出て、そこから花園林道をくだり、磨崖不動明王と再会した。(枚方市 東谷 窓)

知人の誘いで磨崖跡ウオーキングを楽しんだ。
JR加茂駅を出発して奈良駅まで、明治末期に廃線となった大仏鉄道跡を歩いた。コースには道案内や道標の説明が詳しく書かれてある。なかでも赤旗はすばらしく、当時の光景が浮かんでくるようだ。しかし、都市道路計画で近々赤旗が無くなると思うので非常に残念だ。

昼食後、奈良駅から電車を乗り継いで下宿駅で下車。昭和16年頃から32年頃まで弾薬を運んでいた祝園弾薬庫跡を説明分

台が九州の宇佐神宮だと知った時、私は3年前に出会った人を目指し出した。

ひとり旅をしていると、相手のいない気楽さと少しばかりの寂しさで人に話しかけたくなくなる。豊後竹田城跡を見て宇佐駅からバスで宇佐神宮に行った時、バスの団体客がいて、その中に入って地元のガイドの話聞きながら、50代の女性といっしょに廻ることができた。「名古屋から女性3人で申し込んだ」と言っていたが、あとのふたりはどこに行つたのだろうか。ガイ

電地まで歩いた。ここに磨崖跡があったとは全く知らなかった。唯一の遺構であった集谷川鉄橋が撤去されていたのは残念であるが、軌道跡は確認できた。

開発が進むなか、過去を知るこのような貴重な遺構は末永く残してほしいものだ。
(木津川市 久保田 悠)

近江国の守護佐々木六角氏の居城観音寺城のある叡山の南に筑作山系の清水山があり、山頂に筑作山城の出城があった。水禄十一年、信長が近江に侵攻した際に水下山吉郎・丹波長秀らが攻め上がり、6時間で落城した。これを受け、観音寺城の佐々木一族は夜陰にまぎれて甲賀郡まで逃げていく。

この山が気になり早春に登った。国道8号を東に向かい、新幹線のガードを過ぎると右に神崎中央病院があり、次の信号を南に入ると清水山の麓に着いた。見上げると迷電線の鉄塔が山頂にあり、中腹に監視路がある。山麓にはマンサクが多く咲いて

ドについていたのは10人程で、あとの人はバラバラで神宮内を散策している。

神宮のみやげ物店でいっしょに買い物をしていく時、彼女は私がひとり旅しているのを知ってビックリしたらしく、「ここでお別れの……残念ね」と言ってくれた。

「五月待つ……」の歌を思い出すが、旅の1ページにあの人のことを思い出す。

(羽谷市 小出良善)

11月上旬、湖南市の岩根山へ登った。昔、頂上付近に十二の棚坊があったことから、十二坊と呼ばれる山である。

JR甲西駅から鉄塔の立つ岩根山を遠望しながら行くと、野洲川の甲西大橋を渡る。甲西北中学校を廻り込むと林道正福寺ゲートを通ると、林道のゆるやかな登りが始まる。

初めて展望が開けた所では、資料にある木地があった。十二坊林道と合流すると、十二坊碑

や四阿が見られた。大谷林道出合直前に展望台への九太階段がある。

展望台へ上がるとすばらしい展望だった。甲西大橋で確認した二つのふるさと富士(近江富士・甲西富士)もここからよく見えた。

大谷林道出合に戻り、前方に鉄塔を見ながら前進すると、大きな四阿のある広場へ出た。小高い場所が岩根山の山頂である。三角点があり、速写を必要とするほどの広大な展望が開けていた。

有名な磨崖不動明王に会うべく十二坊温泉へ向かうのだが、険しい岩場のくたかりが始まる。しばらくすると整備された丸太階段が現れてホッとしたが、樹林帯のなかで方向の見当が付かない。最後はササに覆われて人が通つた跡もない狭い道を通り、広い車道に下り立った。

そこは、下山口とは思えない場所。人家は勿論、十二坊温泉の存在も全く感じられない。下山道を間違えてしまつていたの

いる。中腹の鉄塔の回りにも咲いていてゆつくり愛でることができた。

約40分で三等三角点(3255.4)の山頂の鉄塔広場、筑作山城跡に着いた。ササに囲まれ展望は良くない。東の尾根に道のがびていてたどると左右に展望が開けた。道は二手に分かれるがどちらを下りても登山口に廻り込める。

春一番に咲くマンサクの花を楽しめる里山として太郎坊や猪子山があるが、私にはこの清水山がいちばん手近に楽しめる。なお、太郎坊宮の奥に筑作山があるが城跡は無い。ちよつとした里山歩きにぜひ歩いてみてください。最高です。
(近江八幡市 岩野 勇)

12月6日、新ハイ忘年会で、藤原町・上石津町の三角点を回った。13箇所のうち我々が11個、他のグループは7〜8個だった。三重県の二等基準点や距離標は見たが、水準点は見つからなかった。

12日、古城山と松倉山に行き、美濃のうだつの町並見学をした。

13日、見野山と笠置山に行った。

20日、岩野さんの例会で、西山と丸茅山に行った。

22日、米田山山頂に行った。1時間ほどで回りできた。

1月5日、初歩きは猿投山へ。古い標石がたくさんあった。

9日、小島山へ。途中半分位で撤退。雪が60cmはあった。

10日、高時山へ。林道で滑って転んで痛かった。

16日、箱岩山へ。登山道は無く、植道や他方向からの道もあり、三方向から登られている。

17日、鈴鹿山へ。砂山に登った。長尾滝から歩いたので、少し危険な場所があった。

23日、貝月山へ6人で行く。ふたりは山頂に行ったが、ほかは途中で撤退した。

24日、新ハイ例会でブンゲンへ。9人なので行けたのかな。

30日、塔の倉と金生山に行った。

31日、魚金山へ行った。

(海津市 山田明彦)

香港トレイルの報告



香港トレイル (鳳凰山へ)

2月初旬、香港政府観光局の招待を受け、4日間の日程で香港へ行った。

香港といえば、高層ビル群が林立する市街地での観光が中心になり、誰もがビジネス・ショッピング・グルメの町を思い浮かべる。しかし、今回は、香港の大自然を満喫する香港トレイルを歩く旅である。

1997年7月、イギリスの植民地であった香港は中国に返還され、その後、中国の特別行政区となつてからは独自の機能を発揮し、いまの香港は目覚ましい発展を遂げている。そんな香港に行つて大自然が満喫できるのだろうか？ という素朴な疑問は残つたが、

香港政府観光局の八幡豊正氏の強い勧めがあり、一度行つてみるかと気楽な気分で行き加せてもらった。

出発前に、八幡氏からもらった「香港トレイルマップ」やその写真を見て、それに「大都會のアルプス 香港パトル100」はハイキング(森Q三代子著・香港政府観光局編)を読んで予備知識を入れておいた。

香港国際空港は、返還年の1998年に開港され、いまは「アジア一だ」と言われるほどの大空港に発展成長している。ハブ空港としての機能も十分である。

1日目、空港からすぐの香港西部の滙原公園内を散策した。広大な湿原の中では多くの野鳥がのびのびと飛び交い、めずらしい草花も見学できた。夜は、ケープルカーでビクトリアピークに上がり、スカイテラスから「百万ドルの夜景」を満喫した。ピークタワー内にある「天一レストラン」で広東料理を味わった。

2日目、いよいよ香港トレイルだ。市内で本の著者、森Q三代子(森久三代子)さんと落ち合い、香港島東部の香港トレイル「ドラゴンバック(竜背)コース」を案内してもらった。両側に青い海が広がり、竜の背中のような稜線からの展望がすばらしいのだが、あいにくの曇り空でガスがかかって青い海は望めなかった。行程は約3時間、白いツバキ

の花を見ながら、しっかりと500リットリ置きの遺標が設置され、コースはすばらしかった。

3日目、空港島に行き、きょうも森Qさんお気に入りの「ランタナピーク(鳳凰山)からゴンビンコース」を歩いた。まるで日本の山を歩いているような気分であけ、ピークからピークへ尾根伝いにトレイルがのびている。展望地からは、空を眼下にして発着する飛行機がひっきりなしに見えた。ポーリング寺に下り立ち、精進料理をご馳走になった。寺からはケープルカーに約20分も乗って下山した。

4日目、終日市街地でショッピング・グルメを楽しみ、夕方の飛行機で帰国した。

今回歩いた香港トレイルは、ほんのわずか一部である。市街ビル群の後方には山が透たてて見える。低山だがそれらの稜線には100m以上に及ぶトレイルが整備されており、香港トレイルが一大勢歩いているようだ。

日本は寒波でも香港は春であった。市街地には紫のホンコンフラワーが咲き、多くの人々が半袖姿で闊歩している。二階建のバス、市内電車、赤色のタクシーが忙しそうに走っている。まるで日本の不況とは無縁で、活気に満ちていた。

韓国の山旅が今秋で終了する。次は香港トレイルを計画したいものだと思ふ。

(村田哲俊)

SHCサービスチェーン



どこへ行こうか
新ハイキングクラブ(SHC)
サービスチェーン

サービスチェーンには右のような看板が掲げてあります。

新ハイキングクラブに協力して下さる宿やバス・タクシー会社です。自然を大切に、ハイカーを仲間として歓迎してくれます。時間と体力と気持ちに余裕を持てば、安全な山行につながります。ぜひご利用ください。

ほとんどのチェーンがホームページをもっていて、新ハイのホームページからたどれば大体の様子を簡単に見ることができます。

ご利用の際はそれぞれの宿のホームページの予約欄か、電話または往復はがきで必ず予約してください。予約のときに、料金を確認してください。

利用するときは、新ハイキングクラブの会員証を持参してください。

サービスチェーンの看板は、SHC New Hiking Clubのロゴと、SHC New Hiking Clubの名称が記されています。また、SHC New Hiking Clubのホームページもご覧いただけます。

阿武隈の空路
阿武隈の空路は、阿武隈の空路の自然あふれる宿です。阿武隈の空路のホームページもご覧いただけます。

自然の至宝 阿武隈の空路
阿武隈の空路は、阿武隈の空路の自然あふれる宿です。阿武隈の空路のホームページもご覧いただけます。

阿武隈の空路
阿武隈の空路は、阿武隈の空路の自然あふれる宿です。阿武隈の空路のホームページもご覧いただけます。

大雪山山麓色戸川ハイハイコース
大雪山山麓色戸川ハイハイコースは、大雪山山麓色戸川ハイハイコースの自然あふれる宿です。大雪山山麓色戸川ハイハイコースのホームページもご覧いただけます。

大雪山山麓色戸川ハイハイコース
大雪山山麓色戸川ハイハイコースは、大雪山山麓色戸川ハイハイコースの自然あふれる宿です。大雪山山麓色戸川ハイハイコースのホームページもご覧いただけます。

阿武隈の空路
阿武隈の空路は、阿武隈の空路の自然あふれる宿です。阿武隈の空路のホームページもご覧いただけます。

阿武隈の空路
阿武隈の空路は、阿武隈の空路の自然あふれる宿です。阿武隈の空路のホームページもご覧いただけます。

山行計画
(5・6月)

山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一枚)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を連絡のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いくださいます。申し込み後、参加できなくなった場合は必ず申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点野の類、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計1000円(夜行日帰り場合は2日になり2000円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)
 ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
 ・入院保険金 日額 5000円
 ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号

(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL

(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前バスやタクシーをチャーターする必要があるかもしれません。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ずご記入ください。
- 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。
- 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (遠征向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください(係から連絡はしません)。降雨山行の確い方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようにお願いします。

5月	地域	対象の山	定員	リレーメンバー
1(出)	美濃	北山	10	鷺見
2(回)	鈴鹿	豊仙山〜谷山	*	岩野
3(回)	大峰	鉄山	26	西上
4(出)	湖西	大御影山〜三重巖	24	狩野
5(出)	丹波	半国山	10	村田
6(回)	湖北	土蔵岳	24	山田
7(回)	鈴鹿	高室山	10	森脇
8(回)	京都北山	八丁坂〜富貴地蔵〜つじ原	24	仲谷
9(回)	湖北	伊吹山	10	山田
10(回)	若狭	三糸山	26	西上
11(回)	比良	インディアン平原〜岩嶺山	40	村田
12(回)	若狭	打見山〜夫婦滝〜長池	*	桑
13(回)	若狭	高取山〜リョウシ	22	岩野
14(回)	朽木	地蔵峠〜三國岳	22	寺井
15(回)	京都北山	比叡山〜大原	10	山田
16(回)	大峰	大菩薩岳	26	西上
17(回)	鈴鹿	水島岳	6	中
18(回)	但馬	鉢伏山〜津川山	25	村田
19(回)	紀伊	果無山〜縦走	24	狩野
20(回)	大峰	武士ヶ峰〜乗鞍岳	26	西上
21(回)	湖北	御前山	10	鷺見
22(回)	京都北山	余呉湖一周の山	26	高島
23(回)	大峰	白屋山〜武木峰	26	西上
24(回)	湖北	パンバケ谷〜金毘羅山	10	山田
25(回)	京都北山	オークラノ尾	40	村田
26(回)	湖北	虎子山	24	森脇
27(回)	東濃	寺田小屋山	10	山田
28(回)	大峰	行者連岳	26	西上
29(回)	京都北山	愛宕コメカイ道〜小倉山	6	仲谷
30(回)	大峰	観音峰山	26	西上
31(回)	湖西	錦向山	6	中
32(回)	鈴鹿	おにゅう峠〜駒ヶ岳西尾根	24	狩野
33(回)	鈴鹿	三池岳〜仙香山	*	岩野
34(回)	湖西	武奈ヶ嶽	25	高島
35(回)	丹波	長老ヶ岳	25	村田
36(回)	台高	小美濃泉〜笠ノ峰	26	西上

6月	地域	対象の山	定員	リレーメンバー
5(出)	朽木	地蔵峠〜おにゅう峠	24	狩野
6(回)	鈴鹿	奥山〜三國岳	*	岩野
7(回)	湖北	伊吹山	10	山田
8(回)	京都北山	パンバケ谷〜金毘羅山	10	山田
9(回)	京都北山	白屋山〜武木峰	26	西上
10(回)	湖北	オークラノ尾	40	村田
11(回)	湖北	虎子山	24	森脇
12(回)	東濃	寺田小屋山	10	山田
13(回)	大峰	行者連岳	26	西上
14(回)	京都北山	愛宕コメカイ道〜小倉山	6	仲谷
15(回)	大峰	観音峰山	26	西上
16(回)	湖西	錦向山	6	中
17(回)	鈴鹿	おにゅう峠〜駒ヶ岳西尾根	24	狩野
18(回)	鈴鹿	三池岳〜仙香山	*	岩野
19(回)	湖西	武奈ヶ嶽	25	高島
20(回)	丹波	長老ヶ岳	25	村田
21(回)	台高	小美濃泉〜笠ノ峰	26	西上

*各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

*リレーメンバー

自然観音山行278
兼備・北山 (一般向き)

5月1日(日) 日帰り
集合 JR岐阜駅8時00分
行程 岐阜駅(車)西洞集落
跡78番鉄塔79番鉄
塔北山(往路)―
西洞(車)岐阜駅(解散)
費用 約4000円(岐阜駅
からレンタカー代等)
地図 2万5千下洞戸
係 ○鷺見守康
申込 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員10名(申込状況
により減員あり)
天然林の林床に春の花が咲
きます。小雨決行

鈴鹿を歩く332
霊仙山・谷山 (一般向き)

5月2日(日) 日帰り
集合 河内線風穴手前寺院広

行程 場8時30分
広場(車)権現谷白谷
林道岩ノ峰取付広場―
岩ノ峰―最高峰―霊仙
山―経塚山―谷山―五
僧―白谷出合(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社、「御在所・霊
仙・伊吹」
係 ○岩野 明○山田景三
○後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
霊仙山に登り、谷山からは
ほとんど歩かれていない長大
な長尾の県境稜線を五僧にく
かります。雨天中止

大峰・鉄山(やや健脚向き)

5月3日(日) 日帰り
集合 近鉄根原神宮前駅中央
口8時05分
行程 根原神宮前駅(バス)
大川口登山口―ザンゲ
平―鉄山―ザンゲ平

大川口―根原神宮前駅
(解散16時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 弥山
係 ○西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

三ツ塚とも呼ばれる鉄山は、
大峰主稜の弥山から北に派生
する支尾根の岩峰の山。花期
にはシヤクナゲやシロヤシオ
に出会えます。雨天中止

週末ハイイク105
高島トレイル⑥
大御影山から三重嶺
(中級向き)

5月8日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス)ピラテ
スト今津―近江坂―大
御影―大日尾根―三重
嶺―武奈ヶ嶺北尾根―

石田川ダム(バス)京
都駅(解散20時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 熊川・三方
係 ○狩野東彦
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名

ロングコースなので日が長
い時候を選んで一気に歩ま
す。近江坂は花の季節で、ア
ブグウンは大きくありません
が長丁場です。帰着が遅くな
るので行動食の準備を願いま
す。雨天中止

金剛里山ハイキング28
丹波・半国山 (一般向き)

5月8日(日) 日帰り
集合 JR園部駅9時40分
行程 園部駅(タクシー)赤
熊―林道終点石地蔵―
音羽溪谷―杉の沢分岐
峠―半国山―宮川分岐
―杉の沢―りり溪遊歩

道―通天湖―りり溪温
泉(入浴・バス) 園部
駅(解散17時)
費用 交通費各自(タクシー
代約600円)
*入浴700円
地図 2万5千 埴生
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
新緑の溪谷沿いをつめ、峠
からはなだらかな道を半国山
へ。広大な展望をみてるり溪
にくたり、温泉で汗を流す。
小雨決行

00円)
地図 2万5千 美濃川上
係 ○山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の
19
山田明男まで
*定員10名程度
ヤブコギか? 道はある
か? 雨天中止

近江の山シリーズ33
鈴鹿・高室山 (一般向き)

5月9日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス)佐目集
落登山口―高室山―林
道分岐―鉄塔―南後谷
―佐目集落(バス)京
都駅(解散18時30分頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社、「御在所・霊
仙・伊吹」
係 ○森脇貞義
申込 〒610-0121

火曜ハイイク70
豊宮山シリーズ22
八丁尾根・首無地蔵から
つつじ尾根 (一般向き)

5月11日(火) 日帰り
集合 清滝バス停9時20分
行程 清滝―八丁尾根―首無
地蔵―社務所―水尾分
かれ―つつじ尾根―保
津峠駅(解散16時30分
頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社、「京都北山」
係 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
首無地蔵周辺のクリンソウ

平日お花見山行⑩
湖北・伊吹山 (一般向き)

5月11日(火) 日帰り
集合 JR園部駅8時30分
行程 園部駅(車)伊吹山
ドライブウェイ七合目
―旧道―伊吹山―遊歩
道―周―山頂駐車場
(車) 園部駅(解散)
費用 交通費各自(車代15
00円)
地図 2万5千 美東・園部
原
係 ○山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の
19
山田明男まで
*定員10名程度
七合目の袖道から、山頂遊
歩道を周回するお花見です。
雨天中止

展望の山68
湖北・土蔵岳 (健脚向き)

5月9日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅8時30分
行程 関ヶ原駅(車)八草峠
手前―土蔵岳―(往路)
―八草峠手前(車) 関
ヶ原駅(解散)
費用 交通費各自(車代13

南勢・三条山 (一般向き)

5月13日(木) 日帰り 日帰り
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)

谷口橋―林道西谷線―
林道終点登山口―田引
時―三条山―北尾根―
飯高町小田登山口(バ
ス) 道の駅飯高駅(い
いたかの湯(バス) 橿
原神宮前駅(解散17時)
費用 約3000円(バス代)
*入浴600円

地図 2万5千 江馬
係 ◎西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

四季を通じて登れる山です
が、ツツジ咲く新緑の季節が
よい。山頂南面の展望が良く、
総門山や竜頭山が一望できる。
下山後は道の駅で温泉と買い
物が楽しめます。小雨決行

若狭

インディアン平原・岩窟山
(一般向き)

5月15日(日) 日帰り 日帰り
集合 JRR京都駅八条口7時
40分

行程 京都駅(バス) 駄口・
ドライブイン藤原―駄
口コース―点(奥野)―
大岩―分岐ピーク―
インディアン平原―岩
窟山―市橋コース分岐
―夕暮山―山(バス)
京都駅(解散18時頃)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 敦賀・駄口
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員40名

日本海を広くと望む人気の
インディアン平原でくつろぐ。
登りは駄口コース、下山は夕
暮山から山コースへと変化に
富む山行。雨天中止

平日ふれあいハイク74
朽木・地藏峠から三國岳
(一般向き)

5月17日(月) 日帰り 日帰り
集合 JRR京都駅八条口7時
15分

行程 京都駅(バス)生杉ゲ―
ト―地藏峠―P818
―岩谷峠―三國岳―
お茶屋跡―桑原橋(バ
ス) 京都駅(解散18時)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎寺井恒夫
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員22名

地藏峠から高島トレイルの
終点桑原橋まで歩きます。青
葉若菜が輝いていることで
しよう。雨天中止

ゆっくり歩こう
北山トレイル東部―
比叡山から大原
(初級向き)

5月19日(水) 日帰り
集合 京阪本駅前大津市駅
先案内所9時30分

行程 板本駅―ケール坂本
駅(ケーブル) 延暦寺
駅―釈迦堂―横高山―
水井山―仰木峠―大原
バス停(解散15時頃)
費用 交通費各自
地図 京都一周トレイル「北
山東部」
係 ◎仲谷礼司◎沖 伸
申込 〒610-0121 神
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員22名

距離は短くゆっくり歩きま
す。トレイルは北山に入り、
比叡山の尾根道を歩きます。
雨天中止

比良を歩く83

打見山から夫婦滝・長池
(一般向き)

5月16日(日) 日帰り
集合 JRR志賀駅9時00分
(9時02分発びわ湖パレ
イ前行バスに乗車)

行程 志賀駅(バス) びわ湖
パレイ渡ロープウェイ
打見山―汁谷―シヤク
ナゲ群生地―夫婦滝―
オトワ池―長池―汁谷
―木戸峠―クロトノハ
ゲ―天狗杉―キタダカ
道―志賀駅(解散)

費用 約2460円(京都か
ら)
地図 2万5千 比良山
係 ◎桑 康夫
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

山上の池めぐりです。シャ
クナゲには少し遅いかも。
雨天中止

大峰・大菩薩岳
(やや難脚向き)

5月20日(木) 日帰り 日帰り
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
和佐又小屋―笹の窟―
日本岳のコー―大菩薩
岳―因見岳―七曜岳―
無双洞―木太林道(バ
ス) 橿原神宮前駅(解
散17時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 弥山
係 ◎西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

奥駈道走路の大菩薩岳から
南へ縦走します。抜群の景観
と展望を誇り、鍋場や梯子と
変化に富んだルートで花の間
花が見頃です。雨天中止

鈴鹿を歩く333

高取山とリョウシ
(中級向き)

5月16日(日) 日帰り 日帰り
集合 河内線風穴寺前駅広
場8時30分

行程 広場(車) 入谷入口広
場―高取山―広場(車)
白谷出合―リョウシ―
白谷出合(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・登
仙・伊吹」
係 ◎岩野 明◎山田景三
◎後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイ
関西まで
*会員に限る

入谷と高取山の花々を楽し
み、リョウシの岩稜と岩峰
に登ります(コース変更あり)。
雨天中止

鈴鹿・水晶岳
(一般向き)

5月22日(土) 日帰り
集合 JRR石山駅7時30分

行程 石山駅(車) 朝明ヒュッ
テ―根の平峠―水晶岳
―中峠―羽鳥峠―朝
明ヒュッテ(車) 石山
駅(解散)
費用 交通費各自(車代ワリ
カン)
地図 2万5千 御在所山
係 ◎中 照行
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員6名(兼催者に
限る)

朝明ヒュッテから水晶岳へ
周回コースをたどる。
雨天中止

山菜狩り山行
但馬・鉢伏山と湯川山
(初級向き)

5月22日(土) 23日(日)

1泊2日 正切バス

集合 (22日) JR新大阪駅 正面口8時00分
行程 (22日)新大阪駅(バス) ハチ北高原―鉢伏山―ハチ北高原「ひさ家」(泊)
(23日)宿―度瀬川林道―遊川山―宿(入浴・バス) 大坂駅(解散19時頃)
費用 約18000円(バス・宿泊代)
地図 昭文社「水ノ山・鉢伏」
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
*定員25名
ワラビ・ゼンマイなど、山菜や木の芽がいつぱいのハチ北高原で山菜狩りを楽しむ。温泉と山菜料理の宿でゆっくりとくつろげる。山菜は現地の人に案内してもらう。雨天決行

週末ハイキング106 紀伊・果無山脈縦走 (二般向き)

5月22日(出) 23日(泊) 1泊2日 正切バス
集合 (22日) JR新大阪駅 正面口(一階団体待合室) 7時30分
行程 (22日)新大阪駅(バス) 広城林道・安堵山登山口―安堵山―和田ノ森―小森登山口―丹生ヤマセミの郷(入浴・バス) 龍神温泉(民宿泊)
(23日)龍神温泉(バス) 安堵山登山口―黒尾山―冷水山―公門谷ノ頭―ブナの平―果無越―果無越登山口―津川柳本橋(バス) 近鉄大和八木駅(解散19時頃)
費用 約18000円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千「豊行司・発心門・伏拝・十津川温泉」

◎狩野東彦
申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員24名
以前、晩秋に落ち葉を踏んで歩いたコースを新緑の季節に歩きます。アップダウンの高低差は小さく一般的なコースです。雨天決行

大峰・武士ヶ峰から乗鞍岳 (初級向き)

5月27日(内) 日帰り 正切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス) 西の谷林道の峠―武士ヶ峰(北峰)―矢ハズ峠―1007の峠―989の峠―乗鞍岳―山麓(バス) 温泉「きすみ館」(入浴・バス) 橿原神宮前駅(解散17時)
費用 約30000円(バス代)
地図 2万5千「南日裏」

◎西上利和

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員26名
武士ヶ峰の峠まで林道が整備されバスが通れるようになり、下山口の乗鞍岳の麓までバスが入り、アクセスがよくなりました。のんびりと新緑と稜線から見える山並の景観を楽しみ、下山後は温泉で汗を流します。雨天中止

自然観察山行279 飛騨・御前山 (二般向き)

5月29日(出) 日帰り レンタカー
集合 JR岐阜駅7時30分
行程 岐阜駅(車) 桜洞林道 終点―屏風岩―御前山(往路)―林道終点―岐阜駅(解散)
費用 約50000円(岐阜駅からレンタカー代等)
地図 2万5千「萩原・湯原」
◎鷺見守康

申込 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5

美しい桜谷から御嶽山の展望台へ登ります。小雨決行
*定員10名(申込状況により減員あり)

湖北の山 余呉湖一帯の山 (二般向き)

5月29日(出) 日帰り
集合 JR余呉駅10時10分
行程 余呉駅―川並―大比良山―アチラ坂―観ヶ岳―大岩山―余呉駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千「木之本」
係 ◎高島伸浩
申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで 余呉湖の周りを囲む山々を一周します。雨天決行

徳島・高丸山 (二般向き)

5月30日(内) 日帰り 正切バス
集合 JR須磨駅7時30分
行程 須磨駅(バス) 登山口―高丸山―登山口(バス) 須磨駅(解散19時頃)
費用 約5000円(バス代)
地図 2万5千「雲早山」
係 ◎古賀慶二
申込 〒675-0112 加古川市平岡町山之上 684-33 17A403 古賀慶二まで
*定員18名
地元を守られてきた自然林に浸り、四国の山々を眺めてみませんか。なお、時間があれば、山犬獄追加登山します。定員未達・雨天中止

週末ハイキング107 高島トレイル⑧ 朽木・地蔵峠からおにゅう峠 (二般向き)

6月5日(出) 日帰り 正切バス
申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで 余呉湖の周りを囲む山々を一周します。雨天決行

集合 JR京都駅八条口7時40分

行程 京都駅(バス) 朽木生杉休養舎ゲート―地蔵峠―三國峠―ナベクボ峠―ピーク803m―おにゅう峠(バス) 京都駅(解散18時頃)
費用 約30000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎狩野東彦
申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員24名
地蔵峠からブナ林を歩き、植林帯に入るとおにゅう峠への登りになります。峠から小入谷への林道が整備され、バスでくだります。雨天中止

鈴鹿を歩く334 奥山・三國岳 (二般向き)

6月6日(内) 日帰り レンタカー
集合 国道306号百々女鬼

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

行程 橋広場8時30分 広場―巡視路―稜線―奥山―縦走路―三國岳―三角点―巡視路―鳴川谷林道―集合広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・登仙・伊吹」
係 ◎岩野 明◎山田景三 ◎後藤康幸
申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
306号から北東尾根に取り付き、稜線の稜線奥山から三國岳、三角点へと歩き、鳴川谷林道をくだります。雨天中止

平日お花見山行⑩ 湖北・伊吹山 (二般向き)

6月8日(内) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅8時30分
行程 関ヶ原駅(車) 伊吹山ドライブウェイ七合目

旧道・伊吹山―遊歩道一周―山頂駐車場(車) 関ヶ原駅(解散)
費用 交通費各自(車代1500円)
地図 2万5千・美東・関ヶ原
係 ○山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員10名程度
伊吹山のお花見、古道歩きの3回目です。雨天中止

火曜ハイク71
京都北山
パンバケ谷から金毘羅山(一般向き)
6月8日(火) 日帰り
集合 戸谷バス停9時45分
行程 戸寺―江文峠―パンバケ谷―金毘羅山―翠嶽山―明神神社―大原バス停(解散14時30分頃)

展望の山69
東濃・寺田小屋山(一般向き)
6月13日(日) 日帰り
集合 JR勝川駅7時00分
行程 勝川駅(車)乗政林道登山口―寺田小屋山―(往還)乗政林道(車)勝川駅(解散)
費用 交通費各自(車代2500円)
地図 2万5千・加子母
係 ○山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員10名程度
東濃の奥深い山で行きにくく、雨天中止

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
パンバケ谷から尾根道を通り、金毘羅山三角点に入ります。雨天中止

台高・白屋岳から武木峠(一般向き)
6月10日(木) 日帰り(貸切バス)
集合 近鉄権原神宮前駅中央口8時05分
行程 権原神宮前駅(バス)鷲ノ郷越―白屋岳―東南尾根―小泉谷―1040峠―武木峠―林道武木峠(バス)権原神宮前駅(解散16時30分)
費用 3000円(バス代)
地図 2万5千・新子
係 ○西上利和
申込 〒610-0121

大峰・行者遺岳(一般向き)
6月13日(日) 日帰り(貸切バス)
集合 近鉄権原神宮前駅中央口8時05分
行程 権原神宮前駅(バス)トンネル東口―奥新道―クサタチバナ自生地―行者遺小屋―行者遺岳―クサタチバナ群生地―ノ埠―トンネル東口(バス)権原神宮前駅(解散18時)
費用 3000円(バス代)
地図 2万5千・弥山
係 ○西上利和
申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名
白屋岳山頂まで登山道は整備されていますが、縦走路は踏跡程度で静かな山歩きが楽しめます。小雨決行

京都北山歩き138
オークラノ尾(一般向き)
6月12日(日) 日帰り(貸切バス)
集合 JR京都駅八条口7時40分
行程 京都駅(バス)江和ランドキャンパ―民ヶ谷林道―取付点―P790峠―オークラノ尾―樽道―小野倉谷林道―白石(バス)京都駅(解散18時30分頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
村田智俊まで

ゆっくり歩こう6
京都北山
愛宕コメカイ道から小倉山(初級向き)
6月16日(水) 日帰り
集合 JR保津駅9時45分
行程 保津駅―水尾・清和―天皇社―コメカイ道―長坂道―落合―小倉山―亀山公園(解散15時頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
愛宕山の西側山腹を越く旧道のコメカイ道を水尾から落合まで歩き、最後は少し頑張って小倉山を越えます。雨天中止

*定員40名
三等三角点(田歌)のオークラノ尾を訪ねる。ササやぶが消えていて展望が良くなった。雨天中止

近江の山シリーズ34
湖北・虎子山(一般向き)
6月13日(日) 日帰り(貸切バス)
集合 JR京都駅八条口7時40分
行程 京都駅(バス)国見時登山口―虎子山―国見時(バス)温泉(入浴)―バス)京都駅(解散18時頃)
費用 約3000円(バス代)
*入浴代別途
地図 2万5千・美東
係 ○森脇貞義
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
寅年の伊吹山の虎子山に登ります。時間があります

集合 近鉄権原神宮前駅中央口8時05分
行程 権原神宮前駅(バス)観音峰山登山口―一面観音四阿―観音平展望台―観音峰山―(往路)―観音峰山登山口(バス)権原神宮前駅(解散17時)
費用 3000円(バス代)
地図 2万5千・弥山
係 ○西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名
雄大な景観を見せてくれる観音平展望台とその周辺に咲き誇る紅シヤクヤクの群生地を訪れ、新緑の観音峰山を往復します。小雨決行

大峰・観音峰山(一般向き)
6月17日(木) 日帰り(貸切バス)

鈴鹿・錦岡山(一般向き)
6月19日(日) 日帰り
集合 JR石山駅7時30分
行程 石山駅(車)北畑登山

見にくだってアユの塩焼きを
楽しむ。小雨決行

台高小処温泉から笠ノ峰
(一般向き)

6月27日(日) 日帰り **貸切バス**
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
小処温泉―イチクボ分
岐―笠ノ峰―(往路)
―小処温泉(バス)―橿
原神宮前駅(解散17時)

費用 3000円(バス代)
地図 2万5千 大台ヶ原山
係 ◎西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員26名

ブナの原生林など貴重な自
然が残る大台の山々。新緑を
楽しみながら初夏の花々にも
会えば楽しい山旅になるで
しょう。下山後、小処温泉で
汗を流す。小雨決行

新ハイキング関西 ◎山行係(リーダー)紹介

平成22年(2010)1月現在・五十音順

氏名	例会名	〒	住所	電話 (FAX共)	申し込み	サブ
福垣逸夫	三重の山	519-0311	鈴鹿市大久保町2065	0593-71-0246	本人	
岩野 明	鈴鹿を歩く	523-0041	近江八幡市中小森町 666-15	0748-33-7215	関西本部	山田景三 後藤康彦
金谷 昭	(関)北山ちよっと歩き	607-8166	山科区御止香所ヶ口町3	075-581-7947	関西本部	城部 純守 谷
狩野東彦	週末ハイク	617-0006	向日市上植野町藤屋9-9	075-933-1458	関西本部	
古賀慶二	兵庫周辺の山	675-0112	阪古川市平岡町上之山 584-33 17A-403	0794-26-1890	本人	
阪上善次	神戸北部の山	574-0017	大東市津の辺町9-15	0720-78-6818	関西本部	
須藤尚頼	兵庫周辺の山	671-1262	姫路市余部区上余部 50-2-11	0792-73-3037	本人	
蟹見守康	自然観察山行	504-0828	各務原市藤原村岡町 1-19-5	0583-83-3978	本人	
高島伸浩	若狭周辺の山	914-0076	敦賀市元町14-29	0770-23-2443	関西本部	
寺井恒夫	平日ふれあいハイク	604-8874	中京区壬生天徳町30	075-811-5231	関西本部	
中 照行	関西の名山	520-2134	大津市瀬田3-33-6	0775-45-7017	関西本部	
仲谷礼司	火曜ハイクほか	617-0817	長岡京市岡ノ町1-6-4	075-952-1577	関西本部	沖 伸
西上利和	奈良周辺の山	586-0043	河内長野市清見台 4-19-1-409	0721-63-9196 (0721-63-9088)	関西本部	
豊 康夫	比良を歩く	603-8211	北区兼野上石電町22	075-491-2373	関西本部	
村田智俊	金曜ハイクほか	610-0121	城陽市寺田大野10-10	0774-53-2754	本人	安倉正勝 宮野哲郎
森脇貞典	近江の山	520-1602	高島市今津町454-1	0740-22-5088	関西本部	村井寿和
山田明男	展望の山ほか	503-0535	南津市南津町松山624-19	0584-56-1466	本人	

週末ハイク108
高島トレイル⑧
朽木・おにゅう峠から駒
ヶ岳西尾根 (一般向き)

6月19日(土) 日帰り **貸切バス**
集合 JR京都駅八条口7時
40分

行程 京都駅(バス)おにゅう
峠―根来坂―百里ヶ

口駐車場―五合目―綿
向山―水無山―水無尾
根―登山口(車)石山
駅(解散)

費用 交通費各自(車代ワリ
カン)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

係 ◎中 照行
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員6名(禁煙者に
限る)

綿向山に登り、水無尾根を
下山する。雨天中止

鈴鹿を歩く335
三池岳・仙香山(一般向き)

6月20日(日) 日帰り **マイカー**
集合 紅葉尾神崎川橋広場8
時00分

行程 広場(車)八風谷広場
(置車)石神峠広場―

仙―木地山峠―桜谷山
―与助谷山―駒ヶ岳西
尾根―木地山バス停
(バス)京都駅(解散18
時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社「京都北山」
2万5千 古座

係 ◎狩野東彦
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名

おにゅう峠から尾根歩きで
百里ヶ岳へ登り、木地山峠へ
くだって登り返した後、ブナ
林を木地山へくだる。
雨天中止

湖西の山
武奈ヶ嶽(中級向き)

6月26日(日) 日帰り
集合 高島市朽木支庁9時00
分

行程 朽木支庁(車)石田川
ダム―三重ヶ嶽分岐―
武奈ヶ嶽―赤岩山分岐
―水坂峠(車)朽木支
庁(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千 熊川

三池岳―仙香山―八風
谷山道―広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・霊
仙・伊吹」

係 ◎岩野 明◎山田景三
◎後藤康彦
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
大パノラマを楽しみながら
長大な新緑の稜線をのんびり
歩きます。雨天中止

丹波・長老ヶ岳(一般向き)

6月27日(日) 日帰り **貸切バス**
集合 JR京都駅八条口7時
40分

行程 京都駅(バス)仏主―
森林公園―展望台―ふ
れあいロード―長老ヶ
岳―上乙見(バス)京
都駅(解散17時頃)

費用 約4000円(バス、
アニ代)

地図 2万5千 和知・島
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
*定員25名

森林公園の遊歩道をのんび
りたどって長老ヶ岳へ。上乙

◎高島伸浩
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
日本海、琵琶湖、三重ヶ嶽
などが一望。雨天中止

山行報告
(1・2月号)
新ハイキングクラブ関西

新年登山行

京都北山・明智越から水尾
1月7日(休) くもり時々雪
(集合) J.R.車庫前 8・30→35→
明智越口 9・00→峠の堂 9・40→
高瀬山分岐 10・40→水尾(松敬)
11・10(入浴・新年会) 14・30(車)
保津峡駅 14・40(解散)
積雪の無い尾根道をたどり、水尾
に着き、柚子風呂で温まった後に
なごやかな新年会。鳥すきとお酒
がうまかった。
(参加者) 川俣 勲 武部美英子
岩佐 修 浅野 剛 中嶋日出男
野村 深林 弘毅 ○村田智俊
(計8名)

隅り子歩道を歩く

伊豆・天城越と万三郎岳
1月9日(出) 11日(帰) 2泊3日
(9日) 晴れ (集合) J.R.京都駅

7・30→40(バス) 戸田時 14・20
→30→連岩山 15・30→40→連岩山
登山駐車場 16・00(バス) 湯ヶ島
温泉(木太刀荘) 16・40(泊)
(10日) 晴れ 宿 8・30→浄土の滝、
わさび沢 9・30→40→昭和の森会
館道の駅「天城越え」 10・30→40
→滑沢溪谷 10・55→大川端キャン
プ場 11・25→川端康成文学碑 12・
00→旧道天城トンネル入口 12・20
(昼食) 12・50→寒天橋 13・10→
二階橋 13・15→国道田合 13・50→
宗太郎園地 14・20→30→釜淵 14・
50→初級滝 15・00→10→河津大滝
15・30→湯ヶ野温泉(福田家) 伊
豆の隅り子歩道 16・45(泊)
(11日) くもり 宿 7・50(タタ
シ) 八丁池口駐車場 8・30→八
丁池 9・20→30→白田峠 10・10→
20→戸塚峠 10・45→50→小岳 11・
25→35→万三郎峠 12・00(昼食)
12・30→万三郎峠 13・30→40→天
城高原ゴルフ場 14・35→50(バス)
米原駅 21・00(解散)
一等点の連岩山から富士山を眺
め、湯ヶ島温泉から「隅り子歩道」
をたどり旧トンネル入口まで上が
った。旧トンネルを抜けてからは

河津七湯を見学しつつ湯ヶ野温泉
までくだり、約25分の道のりを完
歩した。山道と車道が交互するが、
登り気がよくてあまり疲れない。
万三郎岳へは八丁池口までタクシ
ーで入ったので、急登のない天城
縦走路をブナやヒメシヤラの林を
歩いた。山頂付近は霧雨が着いて
おり、まるで山桜が咲いたようだ
った。
(参加者) 岡崎知子 佐々木輝子
近藤幸子 川田洋子 小川富士雄
須藤浩子 宮崎清久 宮崎由美子
原 幸子 松村登子 中嶋日出男
武田和巳 竹内正子 牧 和夫
森澤照子 内田康夫 浅野 剛
大嶋 勉 戸倉文子 安田文英江
宮野結子 ○宮野哲郎
○安倉正勝 ○村田智俊(計24名)

朽木・白倉岳

1月10日(日) 雪
(集合) J.R.京都駅 7・40→44(バ
ス) くつき道の駅 8・50→9・00
→西村井登山口 9・09→15→松本
地蔵 9・37→45→高瀬子岳 12・27
→白倉岳 13・10(昼食) 14・00→

村井分岐 14・30→松本地蔵 15・37
→西村井登山口 15・54→16・05→
道の駅 16・13→25(バス) 京都駅
18・00(解散)
登山口には雪は無かったが、松
本地蔵から積雪で踏跡も無く、ラ
ッセルして交替で進む。白倉岳到
着は13時を過ぎていたので、時間
切れで往路を引き返した。
(参加者) 後藤穂子 林 正義
仲谷礼司 金森節子 武部美英子
銀井洋子 小池 一郎 山高多恵子
石田賢二 岩佐 修 若林文夫
岩田育士 山縣勝美 岩橋健司
野野東彦 上住忠雄 船本祐巳子
西村文房 ○村井寿和
○森脇貞義 (計20名)

高野山・明神山・東光寺山

1月10日(日) くもりのち晴れ
(集合) 国道421号水源寺支所
8・25(車) 堂後谷林道取付点 8・
40→高野山 10・20→明神山 11・00
→湿原 11・45(昼食) 12・40→東
光寺山 13・00→林道 14・05→近江
開閉所 14・40→支所 15・40(解散)
新春の森明けは、里人と関わり

深い水源寺周辺の三山を巡る。正
月に降った雪は淡々とアカマツの
葉を覆っていた。登りの途中でサ
カキを折る村人に出会い、ツバ
キなど常緑樹の多い清々しい山
だ。明神山の八大龍王の祠に初詣
で、白鹿背山をくだっていると鹿
がいて急いで逃げていった。山の
神の使いが私達の賑いものをぞき見
に来ていたのだろうか?(美香子)
(参加者) 武村千鶴 緒方由子
滝川 登 岩本彰子 貴堂雅路
木下朝子 高橋壽治 中澤剛司博
櫻田隆利 辰田明美 中澤美香子
栗本敏夫 一芝義雄 奥野太一郎
磯部 純 大西修治 奥野太一郎
水戸鉄治 多田 勉 吉岡うた子
澤崎 實 輪津謙治 ○後藤康幸
○山田景三 ○岩野 明(計25名)

雨山

長山・大鏡山から万灯籠山
(火曜ハイイク65)
1月12日(火) ○仲谷礼司
*雨天のため中止しました。

(集合) 近鉄橿原神宮前駅 8・05
→20(バス) 飛雲台 10・35→オッ
パンク(バス) 11・50→陣の峰 13・30(昼
食) 14・10→矢放峠 14・30→中津
川小学校前 15・30(バス) 橿原神
宮前駅 18・20(解散)
高野辻堂線が樹根のため、通
行止で迂回して下山口の飛雲台か
ら登ることになった。思ったより雪
が深く途中でアイゼンを着け、寒
気に身を凍みながら山頂を目指し
た。矢放峠からさらに雪が深くな
り、新雪を覆ったブナ林の美しさ
に魅了され、雪景色を楽しんだ。
(参加者) 多賀久子 佐藤優美子
渡部和美 木内純文 小栗大直
志水明美 岩村春子 成川みさお
田畑吉雄 奥田剛夫 前川和佳子
三井敏一 三野 旭 上田裕子
入江 勲 緒方由子 宮路ちへ子
今泉 勲 桜庭 栄 井上まち子
田尾 盛 益田 博 ○下部正年
○竹田勝美 ○西上利和(計25名)

湖北・虎御前山から小谷城

1月16日(日) 晴れ
(集合) J.R.虎御前駅 9・10→20→

中野口 9・30→虎御前山(宮長寄
路) 10・30→河毛口 11・10→小谷
城登山口(東尾) 11・35(昼食)
12・10→望遠峠 12・40→45→番所
峠 13・00→小谷城登山口 13・30→
50(バス) 須賀谷温泉 14・00(入浴)
15・30(バス) 河毛駅 15・40(解散)
湖北地方も久しぶりに晴れた。
陽光に包まれた積雪の低山歩きと
なり、雪山の雰囲気や寅年の山を
楽しんだ。積雪のため小谷城本丸
跡へは40分手前で時間切れ。
下山後は須賀谷温泉の湯湯を味わ
った。新雪が落ち、昔のひなびた
雰囲気は薄れたが、湯船や設備は
良くなった。
(参加者) 小池 一郎 神谷恵美子
森井 謙 森井順子 松上美代子
大野宣子 池田 晃 村岡雄志郎
大塚一夫 本家洋子 西谷真実子
竹内正子 中島 隆 中澤美香子
石井照雄 入江 勲 池田美恵子
木下朝子 高橋壽治 久保田玲子
仲 伸 金森節子 佐々木輝子
三井敏一 伊藤勇男 北村つゆみ
林 信男 塩原香織 小谷和子
柳 良雄 堀江房麿 中尾博子
松本忠雄 川島泰子 山縣勝美

宮野結子 ○宮野哲郎

○安倉正勝 ○村田智俊(計39名)

湖西の山・蛇谷ヶ峰

1月16日(日) 雪
(集合) 朽木支庁 9・00(車) 朽木
いきものふれあいの里 10・20→貯
水タンク 10・45→カツラ谷出合
11・25→蛇谷ヶ峰 13・00(昼食)
13・25→朽木いきものふれあいの
里 14・35(解散)
思わぬ大雪で、朽木いきものふ
れあいの里へ行くのに車で1時間
以上かかった。カンジキ山行で、
終始積雪が降り、一面雪の花に感
嘆の声を上げた。
(参加者) 岩本彰子 藤元昭余志
加藤國計 堀 和夫 谷内智恵美
石原君子 池田繁美 谷 守
○高島伸浩 (計9名)

大峰・大樽山

1月17日(日) 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅 8・05
→10(バス) 小谷林道ゲート前 9・
50→登山口 10・30→尾根出合 11・
30→大樽山登山口→大樽山 11・45
→大樽山登山口 11・50(昼食)

12・45―梅の木大木―西山観音13・30―小谷林道グート前14・10(バス) 櫻原神宮前15・50(解散)
 尾根に取り付くと残雪があったが例年より少なく、空身で山頂を往復した。日当たりのよい登山口でゆったりとした寒開気で昼食を楽しみ、山々に囲まれた絶好のロケーションに堪能する観音様の姿をバックに記念撮影をした。
 (参加者) 木内範文 岩佐 修 三井 敏一 南 利憲 三野 旭 岩鶴健司 楠津謙治 船本裕巳子 狩野東彦 西村文男 東久保勝彦 辻中 真 池田繁子 神谷恵美子 大森康行 小林 桂 ○下郡正平 ○西上利和 (計18名)

京都東山トレイル
 福壽山から粟田神社

(ゆっくり歩こう！)
 1月20日(祝) 晴れ
 (集合) 京阪伏見稲荷駅9・30―稲荷山四つ辻10・30―稲荷山一周―四つ辻11・00―泉涌寺11・35(昼食) 12・25―清閑寺13・30―清水山14・00―東山山頂公園14・30―粟田神社15・20(解散)

縦横な経路をたどる東山トレイルだが、今回の山行で道をわかってもらえたのだろうか。「ゆっくり歩こう」の企画も大勢の参加者を得て素晴らしい過ごすことができた。今後も初めての方向のご参加を期待しています。
 (参加者) 西村静子 兼田幸子 金森節子 渡辺いく 中嶋日出男 中山 賢 中山昌子 宮路ちへ子 岡本和子 田中美子 松井明忠 中嶋俊子 浅野 剛 佐々木輝子 高田京子 小林博子 堀家洋子 八木爽子 森嶋清子 森 和久 後藤純子 横井秀子 山根弘美 岩本彰子 岩城豊子 守田光太郎 谷澤芳江 岡崎知子 本間要子 ○本間 隆 ○金谷 昭 (計32名)
 ○仲谷礼司

大峰・奥佐田山

1月21日(内) ○西上利和
 *バス定員未達で中止しました。
 1月23日(出) にわか雪 (週末ハイタ99)
 (集合) JR京都駅7・35(バス)

湖北・山本山から麴ヶ岳

(週末ハイタ99)
 15・20―飯森山13・30―反対板ビーク13・45―55―天童山14・15―茶谷峠14・40―50―カモチ谷林道―ウツアイバル周山16・00―15―周山バス停16・20(解散) 16・40(バス) 京都駅18・05
 北山の積雪はわずか、無風快晴の日で雪山ハイイクの予定が快適な日だまりハイイクとなった。ササが枯れた広い城丹尾根ビークで道を失い、30分近くウロウロしてやっとルートにのった。鉄塔や反射板からの展望は抜群で、北山の脈々を広く見渡した。
 (参加者) 多賀久子 三野 旭 森井 深 森井順子 松上美代子 上田裕子 狩野東彦 村田はる江 島田 廣 桜庭 栄 小川富士雄 福本愛子 山内玄次 吉岡うた子 藤本紀子 北村 正 水見真砂子 加藤浩二 後藤智之 佐々木輝子 後藤純子 山根弘美 大和 敏 兼子衣代 林 正義 太地加代子 平田和子 中尾博子 山本みゆき 繁田広美 角尾一正 久保田玲子 松村雅子 角江朝子 吉野菜子 宮野祐子 ○宮野哲郎 ○安倉正勝 ○村田智俊(計39名)

湖北・ブンゲン(展望の山岳)
 1月24日(出) くもりのち晴れ
 (集合) JR関ヶ原駅8・35(車)
 奥伊吹スキー場9・15―30―第10リフト下10・50―第10リフト上11・50―県境尾根11・55(昼食) 12・20―ブンゲン12・55―13・05―スキー場14・30―15・00(車) 関ヶ原15・35(解散)
 雪が多いから行けるかと思っただが、参加者がみな健脚で行くことができた。感謝です！
 (参加者) 国井文男 伊藤恵美子 石井照雄 多田 徳 中澤美香子 萩野暢子 山形 明 武藤由美子 ○山田明男 (計9名)

京都北山歩き136

複数ヶ岳から城丹國境尾根
 1月24日(出) 晴れ
 (集合) 京都地下鉄北大路駅8・00(タクシー) 祖父谷林道登山口8・40―50(道標路)―鉄塔9・45―50―複数ヶ岳10・00―ナベク口10・30―鉄塔10・35―50―途巾ビーク11・10(迷う) 11・40―大岩手前ビーク12・00(昼食) 12・30―大岩12・40―大谷峠13・

山本神社登山口9・40―50―山本山10・20―30―片山・熊野分岐11・15―木戸尾跡・西野分岐付近11・40(昼食) 12・35―ウロ神社分岐13・35―P360・414
 05―山梨子分岐15・00―05―P36815・25―麴ヶ岳15・40―45―飯浦分岐16・10―国民宿舎・余兵衛荘16・25―40(バス) 京都駅18・00(解散)
 琵琶湖や真っ白の田んぼを眺めながら1週間前の大雪が残った道を縦走した。残雪はつば足になる箇所が多く、距離の割には時間をとられた。麴ヶ岳は1日近い積雪で琵琶湖から余兵衛へ抜ける風が冷たく、長居は無用と急いで国民宿舎へと下山した。
 (参加者) 岡崎知子 武部美美子 中川光郎 西村静子 大園加代子 木内範文 林 正義 船本裕巳子 下郡正平 須藤浩子 井林寿奈子 岩田育士 大平 満 中上紀代子 岩鶴健司 大嶋 勉 北村つねみ 大園一夫 木下朝子 加藤浩二 大東 哲 小林 桂 浅野 剛 ○仲谷礼司 ○狩野東彦(計25名)
 ○仲谷礼司 ○狩野東彦(計25名)
 ○岩野 明 (計26名)

樹氷の錦山

(鈴鹿を歩く325)
 1月24日(出) 晴れ
 (集合) 蔵王ダム広場8・10(車) 熊野8・25―林道終点9・40―木無尾根11・30―錦山12・55―北峰下草原11・30―錦山12・55―北峰山12・55―ブナの大平13・20―熊野峠14・25―滝山谷15・00―熊野15・30(解散)
 文三ハゲから急登80分登山頂。背空に樹氷が映え、大勢の登山者が堪能していた。360度の大パノラマの北峰下の日だまりの草原で昼食。下山はブナの木平、熊野峠、滝山谷へと一気にくだった。雪の道が整備されていた。
 (参加者) 武村千鶴 木下朝子 高橋寿治 岩本彰子 寺井博子 金谷 昭 高草芳彦 左近健一朗 水戸鉄治 一芝義雄 一芝美知子 栗本敏夫 貴堂雅路 奥野太一郎 大西精郎 池田隆一 白木やす子 西村敏夫 巽田明美 居原田幸弘 栗岡 康 栗岡克子 小林 修 ○後藤康幸 ○山田景三 ○岩野 明 (計26名)

奥美濃・大日ヶ岳

(自然観察山行274)
 1月30日(出) くもり
 (集合) JR岐阜駅7・30(車) 高鷲スノーパーク10・45―11・05(ゴンドラ) 山頂駅11・20―35―前大日ヶ岳―大日ヶ岳12・05(昼食) 13・00―前大日ヶ岳―山頂駅13・50(ゴンドラ) 高鷲スノーパーク14・30(車) 白鳥美人の湯15・00(入浴) 16・05(車) 岐阜駅18・00(解散)
 往路、東海北陸道で事故渋滞に巻き込まれて大幅に遅延したが、予定通り厳冬の積雪の深い大日ヶ岳に登頂した。雲が多く、頂上からの見晴らしは期待通りにはいかなかったが、ブナとタケカンバとイチイなどの樹木の姿がきれいであった。山は登山者や山スキーヤーで案外にぎわっていた。
 (参加者) 市来 幸 加納由紀子 中澤真司博 中澤美香子 佐々木三千代 ○鷺見守康 (計6名)

ミクネ・大杉電王

(鈴鹿を歩く326)
 2月7日(出) 晴天
 (集合) 河内風穴手前寺院広場8・50(車) 落合9・10―汗みき峠10・25―板板峠10・25―ミクネ10・50―P63411・55(昼食) 12・55―大杉電王13・15―武奈14・00―落合15・05(解散)
 前日の大雪で初めから20―30℃の新雪が降り、秘境の尾根には落葉と常緑の樹林が続き、板板峠からミクネ、P6344に着くと、白銀の巨峰伊吹と雲仙が圧倒的なポリニームで展開した。大杉電王から庵村武奈に着くと、三休地蔵とフクジニソウの可憐な花が出迎えてくれた。
 (参加者) 武村千鶴 山内玄次 磯部 純 林 正義 岩本彰子 木下朝子 多田 徳 奥野太一郎 貴堂雅路 巽田明利 白木やす子 滝川 登 栗本敏夫 吉岡うた子 高橋寿治 水戸鉄治 左近健一朗 大西精郎 加藤雅計 居原田幸弘

高野・高野三山と町石道

2月6日(出) 7日(回) ○村田智俊

炭田明美 一芝義雄 一芝美知子
栗岡康 栗岡克子 谷 守
秋野福子 小林 修 ○後藤康幸
○山田登三 ○岩野 明(計31名)
丹波・三郎ヶ岳から北倉峠
(火曜ハイック97)
2月9日(火) ○仲谷礼司
*雨天のため中止しました。
台高・明神平
2月11日(祝) ○西上利和
*バス定員未満で中止しました。

丹波・半園山
(金理里山ハイキング25)
2月11日(祝) ○村田智俊
*雨天のため中止しました。
奥美濃・白尾山
(自然観察山行275)
2月13日(出) ○葛見守康
*リーダークの都合により中止し
ました。

関西の山・くつきの森
2月13日(出) くもり時々雪
(集合) 朽木支庁9・00(車)くつ
きの森「やまね館」10・25―東山
コース分岐10・45―P403分
11・25―広場11・35(昼食)12・
15―ハンカチの木12・45―くつき
の森「やまね館」13・00(解散)
前日の雪で、再び雪の花の満開
に酔いしれた。
(参加者) 西田俊治 小林 桂
岩本彩子 遠藤 幸 木下朝子
谷 守 加藤國計 石原君子
○高島伸浩 (計9名)

鈴鹿・東光寺山
(近江の山シリーズ30)
2月14日(祝) 晴れ
(集合) JR京都駅7・35(バス)
外乗落(東近江開所)8・53―9・
05―登山口9・21―25―鉄塔10・
07―20―東光寺山10・50―55―鉄
塔11・25(昼食)12・23―明神山
分岐12・45―明神山12・55―13・
05―明神山分岐13・15―鉄塔13・
30―45―林道終点14・15―25―東
近江開所14・40―50(バス)京
都駅16・10(解散)
雪を期待して登るが、雪は全く
無かった。鉄塔から見る比良山系
は雲ひとつなく白く輝いていた。

京東山トレイル
諏訪から銀閣寺
(ゆつくり歩こうと)
2月17日(休) くもり
(集合) 地下鉄大塚駅9・30―40
―日向大神宮10・20―35―七福思
案庭10・55―大日山11・25―展望
所11・35(昼食)12・30―大文字
山13・30―火床13・50―14・10―
法然院14・50(解散)
久しぶりに歩かれる人の参加者
も増えてきて、うれしいことです。
コースにとられず時には横の道
も案内している。今回は、北山・
西山・東山連峰の山々がよく見え
た。

西吉野・柄ヶ山から横ヶ岳
2月18日(休) 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
―10(バス) 松川追登山口9・15
―尾根取付10・40―柄ヶ山10・50
―横ヶ岳11・40(昼食)12・30―
尾根分岐12・50―松川追登山口
13・50―津越の里いきすみ館温泉
(入浴・バス) 橿原神宮前駅16・30
(解散)
登りも下りもコースを間違えな
い。

紀州・真美山
2月21日(祝) 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
―10(バス) 観音古道登山口10・
10―修行者堂10・40―東御如来堂
(尾根取付)11・00―真美山11・25
(昼食)12・15―山野登山口13・
15・00
積雪を期待したが雪は無い。積

江文時から観音山
(京都北山歩き137)
2月20日(出) くもりのち晴れ
(集合) 戸守バス停9・40―55―
江文神社10・15―江文峠10・35―
其ノ裏宿分岐11・20―寒谷峠11・
50―観音山12・10(昼食)12・
50―岩倉道分岐13・00―P461
―13・15―展望ビーク13・25―40
―三宅八幡分岐14・00―三宅八
幡宮14・50(解散)―八幡前駅
15・00
積雪を期待したが雪は無い。積

ち霜道が続く里山をたどった。枯
れ木の隙間から京都市街を展望し
ながら、八瀬の裏山を三宅八幡宮
へとくだった。冬の北山歩きは静
かで山頂で若い4人のグループに
出会ったのみだった。
(参加者) 森井 潔 森井順子
大井隆嗣 金森節子 大川直澄
香田 晃 大野真子 浅野 剛
後藤智之 小池 一郎 水見真砂子
岩本彩子 市野博文 中嶋日出男
岡崎知子 中川光郎 山口敏晴
青木 雄 安食陽子 進井洋子
宮野祐子 ○宮野智郎
○安倉正郎 ○村田智俊(計24名)
蛇ヶ谷ヶ峰から富坂尾根
(北良を歩く30)
2月21日(祝) 晴れ
(集合) JR近江高島駅9・00―
03(バス) 畑9・24―50―林道登
山口10・07―15―徒砂地点の上
10・35―40―ボボフツ峠(須川峠)
11・13―20―滝谷ノ頭11・30―急
登頂12・02―07―蛇ヶヶ峰12・35
(昼食)13・10―標高8171.13・
21―富坂尾根分岐(造林公社看板)
13・28―35―峠14・28―30―蛇ヶ

消えていて30分間ロスした。引き返した後は、滑りやすい岩場のアフダウンを繰り返して、縦走コースを一周した。瀬戸内や橋筋山などを展望しながら歩いたが、終始たどるコースを見ながら歩けるのでそれが楽しかった。

【参加者】 山本令子 北川さゆり 石田里美 岩田育士 武部美英子 馬籠和幸 鮫田二郎 中嶋日出男 若林文夫 岩本健二 岩本彩子 林 信男 金谷 昭 吉岡うた子 小石浩子 三野 旭 山高多恵子 ○山高義治 ○村田智俊(計19名)

(1・2月の参加者 延547名)

25(バス)道の駅「Ebisu」(中津) (バス) 権原神宮前駅17・20(解散) 山野登山口は整備中で親善古道 登山道から取り付いた。良く整備された道で山頂まで焼つも祠があり、親善古道の名前に相応しいルートだった。2月とは思えないほどの暖かさで好天気で360度の山頂展望を楽しむ。帰路には道の駅に立ち寄り、地元野菜や果物を買った。

【参加者】 多賀久子 松上美代子 渡部和美 繁田広美 村田はる江 志水明美 三井絃一 井上まちな 三野 旭 上田裕子 前川和佳子 岩田育士 岡本正明 大畑加代子 辻中 貴 飯田陽一 松原真由美 植村伸子 川村信子 東久保藤彦 池田繁子 大嶋 勉 船本裕巳子 瀬川佳秀 ○下郡正年 ○西上利和 (計26名)

奥美濃・オサンババ (展望の山55)

2月28日(日) くもり時々晴れ (集合) J R西岐駅8・15(車) 明宝スキー場9・40(リフト) 山頂駅10・40(オサンババ)11・35(

東播磨・高御位山 2月28日(日) 晴れ (集合) J R曾根駅9・30(40) 豆崎登山口9・45(黒崎奥山10・35) 大谷山11・00(鹿嶋神社・展望台)11・20(100) 百間岩(鷹ノ巣山)東峰12・10(昼食)12・50(桶居山分岐)13・00(高御位山)13・40(14・00) 小高御位山14・30(中塚山)14・50(15・00) 北山鹿嶋神社15・20(130) 曾根駅16・15(解散)

会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

係(リーダー)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例年に参加されるときは、山行運営費として4000円を支出していただきます。四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも

保持するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。入会金 500円(ワンペン共) 年会費 3300円(送料込) 入会の申し込み(随時)は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。お友達のご住所、氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集 係は2ヶ月に1〜2回程度山行例会を実施していただきます。経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「新ハイキング関西」を「必携」を「必携」にお送りします。

○新入会員(定期購読者)紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。会員番号5517番から5534番まで(敬称略)。
- 【滋賀】 城 敏明 城 幸子
 - 【京都】 高島春英 大井隆嗣 坂根義子 佐々木寿昭 田中純子 宮本民子
 - 林 義明 柴田慶一郎
 - 【大阪】 平 清子 実吉弘之 相澤浩美 高橋静雄
 - 金岡慶子
 - 【奈良】 松本 勝
 - 【兵庫】 沼田照美
 - 【高知】 入野高彰 (18名)

訂正とお詫び 定正の通りお読み下さい

○11号(巻末)

- *14ページサブタイトル「首並から西尾根コースを登る」→「針川から西尾根コースを登る」
- *17ページ下段写真説明「イワカガミ」→「トクワカソウ・イワウチワ」

*18ページ下段最終行「東方には」→「北方には」

*25ページ上段2行「峠」→「峰」

*26ページ付近「三枚岩」→「二枚岩」

*68ページ表題「越前」→「福井」

*「滝の谷」→「滝ヶ谷」(69ページ付近)上、中段11行も同じ。

*69ページ下欄目次は「作中から三角点(滝ヶ谷)を経て府県境の峠」が正しい。

*107ページ三段3行「5503番から5513番」は「5503番から5516番」。

*112ページ二段目(◇)締切は4月20日、今回は、10年盛夏号向き(7・8月号対象)を「が正しい。

書店でお求めになりたい方へ 前もって毎号ほしいと「購読予約」をされますと、この書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃(隔月刊)の発売